

2020 Research Report

「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査
～特別支援学校生徒の保護者アンケート結果による一考察～

はじめに

北国に住む私たちは、厳しい冬を耐え忍ぶ心が、春の訪れの喜びを倍増させることを、身をもって知っています。ところが、度を越えた今冬の記録的大雪に心を挫かれたうえ、新型コロナウイルスとの闘いでは、変異株への対応という新たな課題まで与えられ、思わぬ長期戦を強いられています。ただ耐え忍ぶのではない新たな姿勢や態度を求めて、人類の知恵を結集する必要が生まれています。

「騎虎の勢い」という言葉があります。虎に乗った者は途中で降りると喰われてしまうので虎の背中にしがみつき走らせるほかないように、やりかけた物事が行きがかり上止められなくなることをたとえた故事成語ですが、現代社会の在り様に似ていると感じたことがあります。いま、虎の進路をコロナという大蛇が阻み、人類は虎の背中で震えながら、大小諸々の社会的課題に直面しています。十分に見直す余裕の無かった物事の原点を見定め、課題解決に生かし、社会という乗物の骨格を強くしなやかなものに変える必要が生じています。

昨年度来、当センターは、県生涯学習及び社会教育推進の中核機関たる自負のもと、「シンクタンク」「研修・人材育成」「学習活動推進・情報発信」の3機能を柱とし、業務を推進しています。根幹を成す「シンクタンク機能」においては、「障害者の生涯学習」をテーマに調査研究を進め、昨年度、全県の特別支援学校高等部の在校生及び卒業生、そして保護者の皆さんの協力を得てアンケートを実施し、得られたデータを分析し、「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査（概要版）としてお知らせしました。二年目に当たる今年度は、より細やかなデータ分析を行うとともに、県内全ての特別支援学校と就業・生活支援センターを対象にヒアリング調査を実施しました。その結果などもこの報告書に載せ、データの向こうにある実状や課題、当事者や担当者の願いなども届けられるようにまとめました。

「障害者の生涯学習」を阻害し促進するものは何か？それを見極めるところに、「共生社会」の扉を大きく開くヒントがあると考えます。小さなとげが取れただけで嘘のように痛みが引き、他人のさり気ないひと言に背中を押されることもあるように、当事者や支援者など様々な立場の人の心の中で、気づきや意識の変化が起こったなら、よい方向へ大きく針が振れる可能性も出てくるでしょう。この報告書を、皆様の日ごろ感じていることや、はっと思いついたことを裏付け生かす根拠とし、実践の踏み台として活用してほしいと願っています。

手前味噌な話となりますが、スマートカレッジ講座の受講者の「センターでもスポーツ交流できるとうれい」という声を励みに、令和元年の夏、所内の配置を変えて「障害者スポーツスペース」を設けたところから、手探りで始めた「障害者の生涯学習」研究が血の通うものとなりました。コロナ対応で足踏みを余儀なくされたものの、昨年10月末にはお披露目を、12月初旬には協賛企業の後押しにより、ボッチャの交流大会を実現できました。「共生社会」を体感できる場所となったことで、研究にも熱が入るようになったと感じています。

この調査研究のデータの向こうにある、喜びの笑顔、真剣な表情を、ぜひ誰かの顔と重ねて思い浮かべ、いきいきとした心をもって、この報告書の分析や考察、実践報告に接してみてください。それぞれの立場から一肌脱げること、あるいは連携において一工夫できることはないかと問いかけ、その問いと答えが網の目のようにめぐらされ、活気に満ちた「共生社会」へと力強く進展することを願ってやみません。

令和3年3月

秋田県生涯学習センター

所長 鈴木 修 一

目 次

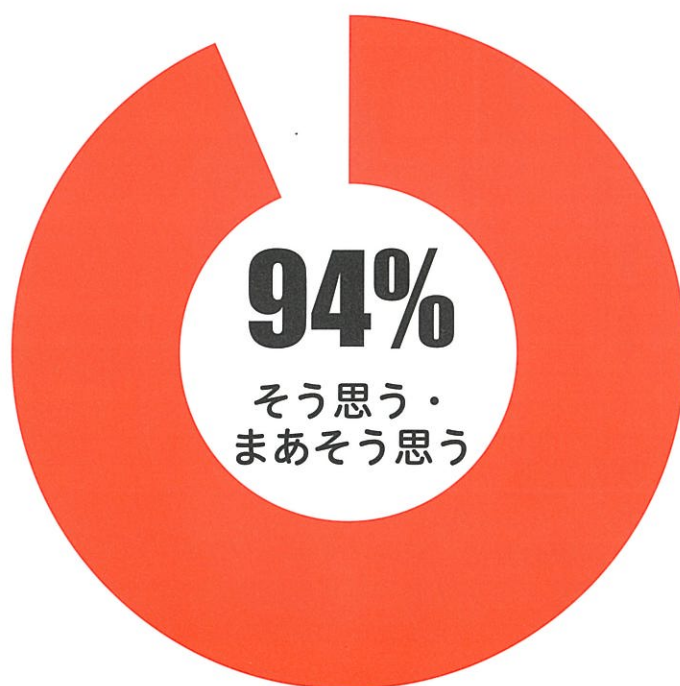
はじめに	1
目 次	2
「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査（概要版）	3
【調査研究】	
○調査研究について	7
○質問用紙（障害のある方の生涯学習に関するアンケート）	8
○「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査（全体結果）	12
○「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査（記述一覧）	19
○詳細分析（在籍状況別、地区別、障害者手帳別）	
・「生涯学習の経験」に関する分析	30
・「生涯学習を実施した理由」に関する分析	34
・「学習形態」に関する分析	38
・「学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか」 に関する分析	42
・「生涯学習に関する課題」に関する分析	47
・「障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識」に関する分析	52
・問1～3考察、問4～6考察	56
○聞き取り調査	
・聞き取り調査実施一覧	57
・聞き取り調査結果（就業・生活支援センター8、特別支援学校16）	58
○考 察	82
【研修】	
○市町村職員専門研修①実施レポート	83
○市町村職員専門研修②（兼）公民館等職員専門研修②実施レポート	85
【講座】	
○楽しみながら『防災』を考えよう！～障害のある方のための防災スキル～ 第1～4回実施レポート	87
○第1回 ブルーS3（ブルースリー）杯ボッチャ交流大会実施レポート	91
研究を振り返って	93
秋田県生涯学習センター調査研究事業テーマ一覧	94

「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査(概要版)

秋田県生涯学習センターでは、秋田県内の全ての特別支援学校に在籍する高等部生徒の保護者、卒業後3年以内の卒業生の保護者の御協力をいただき、障害のある方の生涯学習（この場合は、主に学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事などの意味）について令和元年にアンケート調査を実施しました。

今回、主な結果を概要版としてお知らせいたします。右のグラフのとおり、障害のある方の生涯学習の機会が必要だと考えている保護者の割合は94%となっており、非常に高い数字となっています。

このアンケート結果が、「共に生きる社会」になるために、一人一人が自分の立場で何ができるかを考えるきっかけとなれば幸いです。



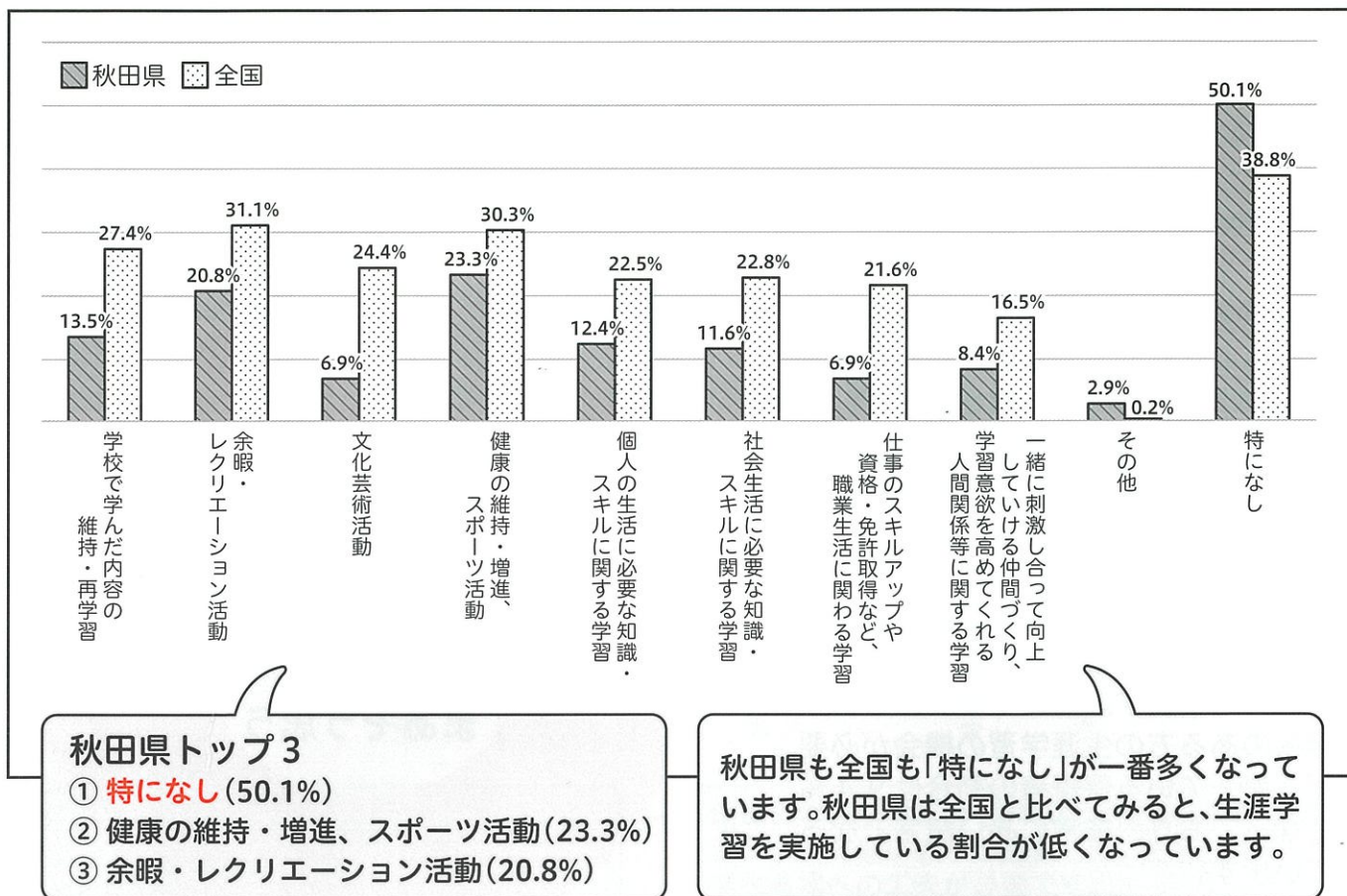
◎ 「共に生きる社会」になるために、障害のある方の生涯学習の機会が必要だと思いますか。

「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査について

- ◆ 対 象
 - ・ 特別支援学校高等部生徒の保護者
 - ・ 特別支援学校高等部卒業生（卒業後3年以内）の保護者
- ◆ 実 施 時 期
 - ・ 令和元年9月上旬
- ◆ 回 答 数
 - ・ 684名（回収率56.4%）
- ◆ 比較した調査
 - ・ 文部科学省「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究」
 - 平成30年11月実施・無記名式のインターネット調査
 - 4,650名が回答

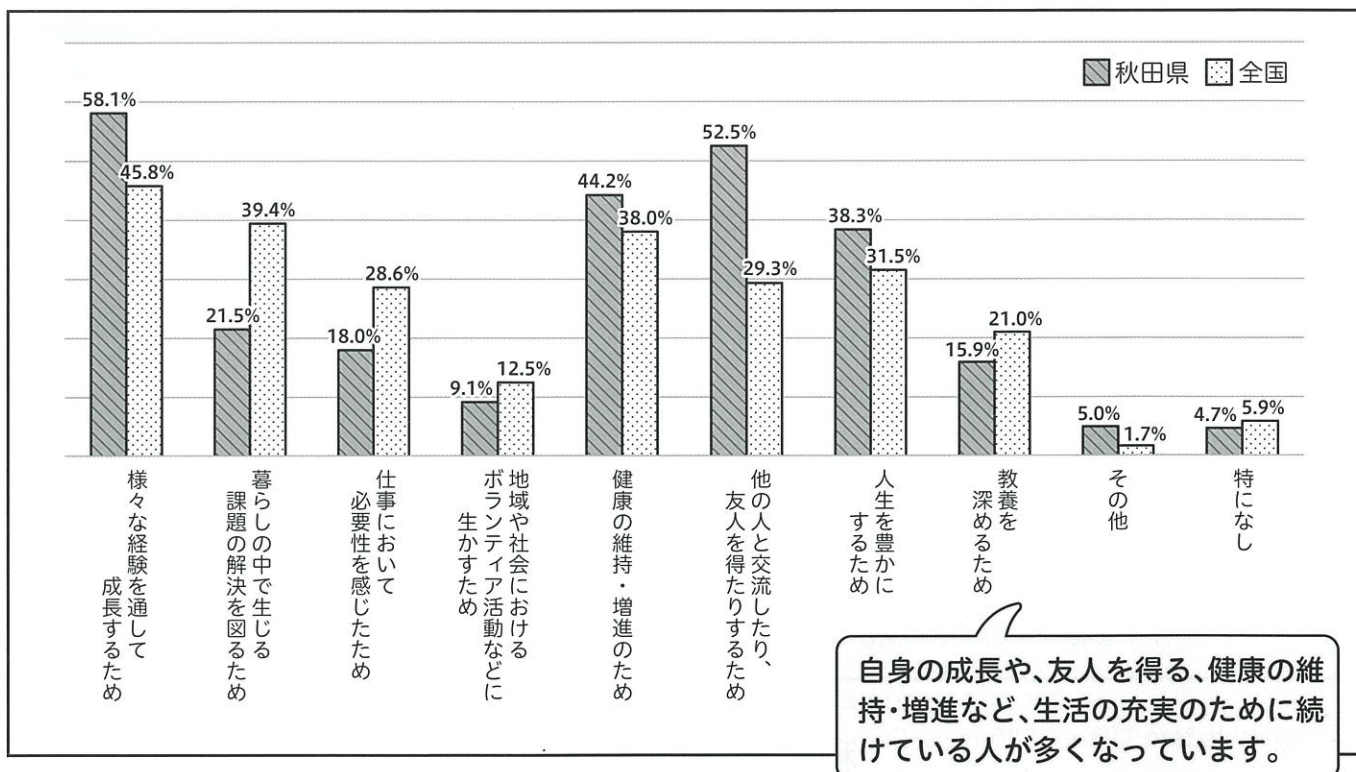
■生涯学習の経験

お子さんが、生涯学習で続けていることは何ですか。(複数回答可)



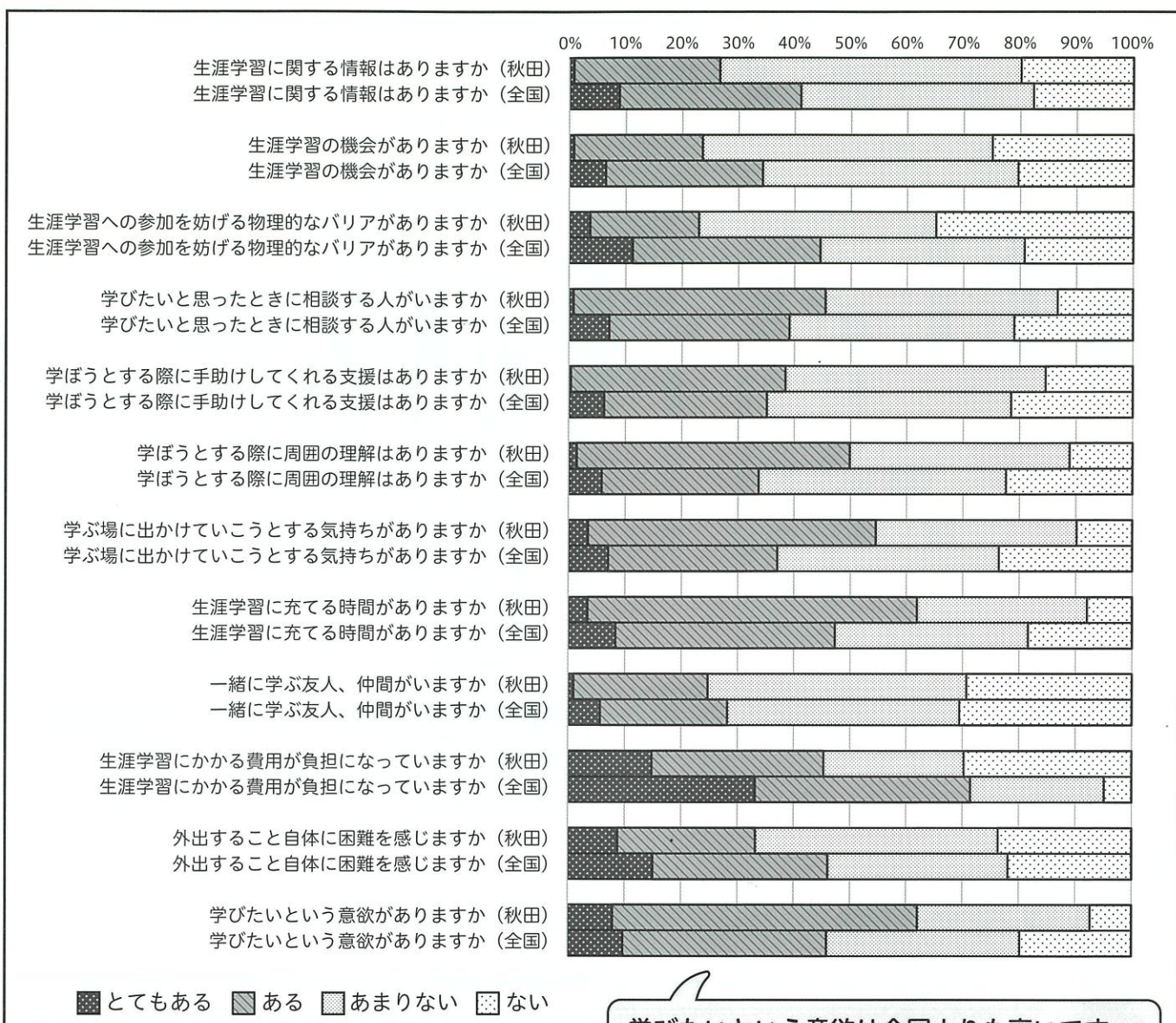
■生涯学習を実施した理由

お子さんが、生涯学習を続けている理由は何ですか。(複数回答可)



■生涯学習に関する課題

お子さんの生涯学習について、あてはまるものを一つ選んでください。



学びたいという意欲は全国よりも高いです。
全国よりも生涯学習に関して前向きな意見が多くなっています。

物理的バリア (記述で多かったもの)

① トイレ (ベッド含む)

- ・多目的トイレの有無もだが、洋式トイレがあるといい
- ・大人用折りたたみベッドがほしい

② 段 差

- ・階段の段差が困る

③ 交通手段

- ・公共の交通手段がない
- ・バス停などの交通起点までのタクシー代等の支援がほしい

その他に、不安定になった時に**クールダウンできる場所**がほしい、物理的なものではなく、**周りから理解を得られない**などの意見がありました。

外出時の困難 (記述から)

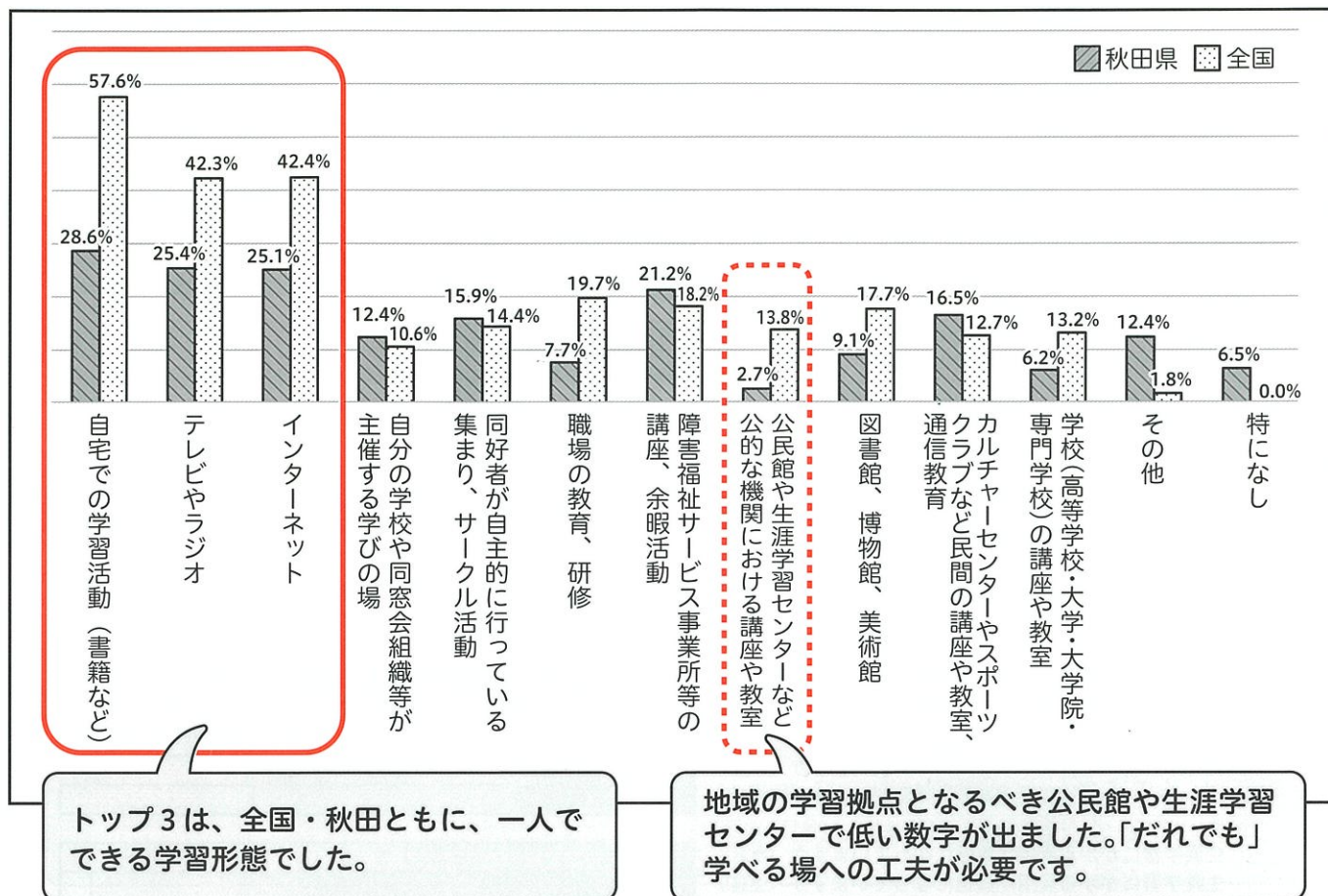
物理的バリアで記述されていたものに加え、次のようなものが多く書かれていました。

○保護者の負担

- ・常に保護者の付き添いが必要
- ・大声を出すなど、予測できない行動を起こす時がある
- ・私自身、体力に自信がなくなっている
- ・親も本人も高齢になった時が心配
- ・とにかく家から遠い、何もかも
- ・周りの目が気になる
- ・迷惑をかけるのではと思ってしまう
- ・周囲の理解不足

■学習形態

お子さんは、生涯学習をどのようにして続けていますか。(複数回答可)



■自由記述

障害のある方の生涯学習について御意見があればお書きください。



学習塾やスポーツ教室などで障害を理由に断られたことがあり、以来、障害者を対象としたイベント以外は行きづらくなっている。障害があっても学びたいことを学べる場が増えるとありがたいと思う。



田舎なので参加させたくても交通の便が悪く、いろいろ諦めたりすることが多いです。もっと地域ごとに参加しやすいのがあるといいのですが...



合理的配慮、特別支援という言葉を使わず、当たり前に関わり合いの社会を築くことができたらと思う。

ホームページもご覧ください！

<https://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>



秋田県生涯学習センター

検索

秋田県生涯学習センター

〒010-0955

秋田県秋田市山王中島町 1-1

TEL 018-865-1171

FAX 018-824-1799

E-mail sgcen002@mail2.pref.akita.jp

研 修

調查研究

講 座

調査研究について

(1) 趣旨

秋田県の生涯学習振興・社会教育推進の施策の方向性を定めるため、現代的課題に対応した調査研究を毎年度実施する。

令和元年度は、特別支援学校高等部及び卒業後3年以内の生徒の保護者向けに、「障害者の生涯学習」に関するニーズに関するアンケート調査を実施し、その結果を概要版としてまとめた。

令和2年度は、そのニーズ調査をさらに詳しく分析するとともに、「障害者の生涯学習支援」を実施している団体等への聞き取り調査も行い、今後望まれる障害者の生涯学習環境がどうあるべきかを研究する。

(2) テーマ

「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査

～特別支援学校生徒の保護者アンケート結果による一考察～

(3) 調査研究の方法

- ① 調査研究委員会を設置する。調査研究委員会は、事業の全般的な計画を立案し、調査結果を評価・分析するとともに報告書にまとめる。
- ② 秋田県内の全ての特別支援学校に在籍する高等部生徒の保護者、卒業後3年以内の卒業生の保護者を対象にアンケート調査を行う。
- ③ 「障害者の生涯学習支援」に取り組む団体等への聞き取り調査を行う。
- ④ アンケート調査結果を広く知ってもらうため、概要版を作成し、配付する。
- ⑤ アンケート調査を詳しく分析した調査研究報告書を作成し、配付する。

(4) 年次推移

- | | |
|-------|---|
| 令和元年度 | ・調査研究委員会の設置
・アンケート調査の実施
・概要版の作成・配付 |
| 令和2年度 | ・調査研究委員会の設置
・聞き取り調査の実施
・調査研究報告書の作成・配付 |

※今回の報告書で「地区別」と表現しているのは、就業・生活支援センターの担当市町村をもとに区分している。具体的には次の通り。

県北	大館市・鹿角市・小坂町
能代山本	能代市・藤里町・三種町・八峰町
北秋田	北秋田市・上小阿仁村
中央	秋田市・男鹿市・潟上市・五城目町・八郎潟町・井川町・大潟村
県南	大仙市・仙北市・美郷町
横手	横手市
湯沢雄勝	湯沢市・羽後町・東成瀬村
由利本荘にかほ	由利本荘市・にかほ市

障害のある方の生涯学習に関するアンケート

秋田県生涯学習センター

平成28年に「障害者差別解消法」が施行されました。この法律は、障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら、「共に生きる社会」をつくることを目的にしたものです。このアンケートは、秋田県生涯学習センターが、「障害のある方の生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）」を充実したものにすることを、現状やニーズ、課題等を把握するために実施するものであります。保護者の方が回答して下さるようお願いいたします。個人は特定されることはありませんので、安心してご回答ください。

1 お子さんが、生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）で続けていることは何ですか。あてはまるもの全ての記号に○をつけてください。

- ア 学校で学んだ内容の維持・再学習
- イ 余暇・レクリエーション活動
- ウ 文化芸術活動
- エ 健康の維持・増進、スポーツ活動
- オ 個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習
- カ 社会生活に必要な知識・スキルに関する学習
- キ 仕事のスキルアップや資格・免許取得など、職業生活に関わる学習
- ク 一緒に刺激し合って向上していける仲間づくり、学習意欲を高めしてくれる人間関係等に関する学習
- ケ その他（ ）
- コ 特になし → 4に進んでください

2 お子さんが、生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）を続けている理由は何ですか。あてはまるもの全ての記号に○をつけてください。

- ア 様々な経験を通して成長するため
- イ 暮らしの中で生じる課題の解決を図るため
- ウ 仕事において必要性を感じたため
- エ 地域や社会におけるボランティア活動などに生かすため
- オ 健康の維持・増進のため
- カ 他の人と交流したり、友人を得たりするため
- キ 人生を豊かにするため
- ク 教養を深めるため
- ケ その他（ ）
- コ 特になし

3 お子さんは、生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）をどのようにして続けていますか。あてはまるもの全ての記号に○をつけてください。

- ア 自宅での学習活動（書籍など）
 イ テレビやラジオ
 ウ インターネット
 エ 自分の学校や同窓会組織等が主催する学びの場
 オ 同好者が自主的に 行っている集まり、サークル活動
 カ 職場の教育、研修
 キ 障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動
 ク 公民館や生涯学習センターなど公的な機関における講座や教室
 ケ 図書館、博物館、美術館
 コ カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育
 サ 学校（高等学校・大学・大学院・専門学校）の講座や教室
 シ その他（ ）
 ス 特になし

4 お子さんの、生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）に関する情報、学ぶ場や機会について、あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

- ①知りたいことを学びたいと思うときに、必要な情報はありますか。
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ②知りたいことを学ぶための場や機会は身近にありますか。
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ③身に付けたい技術があるときに、必要な情報はありますか。
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ④身に付けたい技術を学べる場や機会は身近にありますか。
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑤文化や芸術に触れたいと思うときに、必要な情報はありますか。
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑥文化や芸術に触れる場や機会は身近にありますか。
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑦身体を動かしたいと思うときに、必要な情報はありますか。
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑧身体を動かす場や学習プログラムは身近にありますか。
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑨仲間と学び合いたいと思うときに、必要な情報はありますか。
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない
- ⑩仲間と学ぶ合う場や学習プログラムは身近にありますか。
 ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない オ 必要としていない

5 お子さんの生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）について、あてはまるものを一つ選び、記号に○をつけてください。

① 生涯学習（勉強やスポーツ、趣味、習い事等）に関する情報はありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

② 生涯学習（勉強やスポーツ、趣味、習い事等）の機会がありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

③ 生涯学習（勉強やスポーツ、趣味、習い事等）への参加を妨げる物理的なバリア（階段の段差、多目的トイレの有無等）がありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

それはどんな物理的なバリア（階段の段差、多目的トイレの有無等）ですか。よろしければお書きください。

④ 学びたいと思ったときに相談する人がいますか。
ア たくさんいる イ いる ウ あまりいない エ いない

⑤ 学ぼうとする際に手助けしてくれる支援がありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

⑥ 学ぼうとする際に周囲の理解がありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

⑦ 学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

⑧ 生涯学習（勉強やスポーツ、趣味、習い事等）に充てる時間がありますか。
ア とてもある イ ある ウ あまりない エ ない

⑨ 一緒に学ぶ友人、仲間がいますか。
ア たくさんいる イ いる ウ あまりいない エ いない

⑩ 生涯学習（勉強やスポーツ、趣味、習い事等）にかかる費用が負担になっていますか。
ア なっている イ すこしなっている
ウ あまりなっていない エ なっていない

⑪ 外出すること自体に困難を感じますか。
ア とても感じる イ 感じる ウ あまり感じない エ 感じない

それはどんなことですか。よろしければお書きください。

「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査（全体結果）

■ アンケートについて

- 対象
- ・ 特別支援学校高等部生徒の保護者
 - ・ 特別支援学校高等部卒業生（卒業後３年以内）の保護者
- 実施時期 令和元年９月上旬
- 比較した調査 文部科学省「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究」
- ・ 平成30年11月実施、無記名式のインターネット調査で4,650名が回答

■ アンケートデータ

①性別

男	女	無回答	計
400	199	85	684

②在籍状況

高等部 1 年	高等部 2 年	高等部 3 年	卒業後 1 年	卒業後 2 年	卒業後 3 年	無回答
130	107	149	74	81	53	90
386			208			

③回収率

全体	高等部	卒業後
56.4%	63.3%	34.6%

④生活状況

家族と同居	一人暮らし	職場の寮	グループホーム	その他	無回答
541	0	1	6	48	88

⑤障害者手帳

身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	持っていない	無回答
97	495	46	29	88

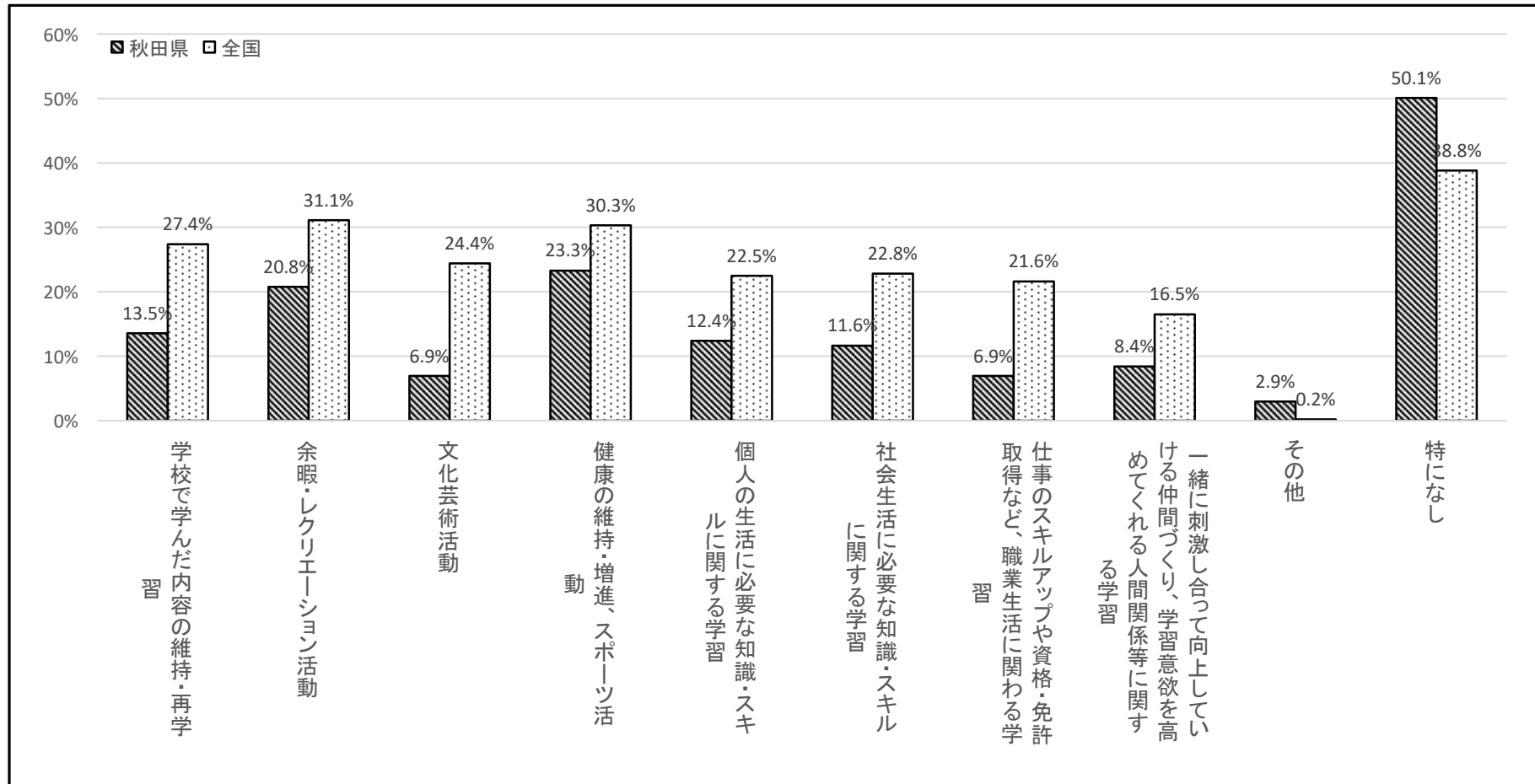
障害者手帳保有率 82.9%（うち複数保有） 12.3%

⑥居住市町村

秋田市	能代市	横手市	大館市	男鹿市	湯沢市	鹿角市
159	24	44	47	11	33	19
由利本荘市	潟上市	大仙市	北秋田市	にかほ市	仙北市	小坂町
57	29	56	23	14	23	4
上小阿仁村	藤里町	三種町	八峰町	五城目町	八郎潟町	井川町
3	3	4	2	4	0	4
大潟村	美郷町	羽後町	東成瀬村	無回答		
1	12	11	2	95		

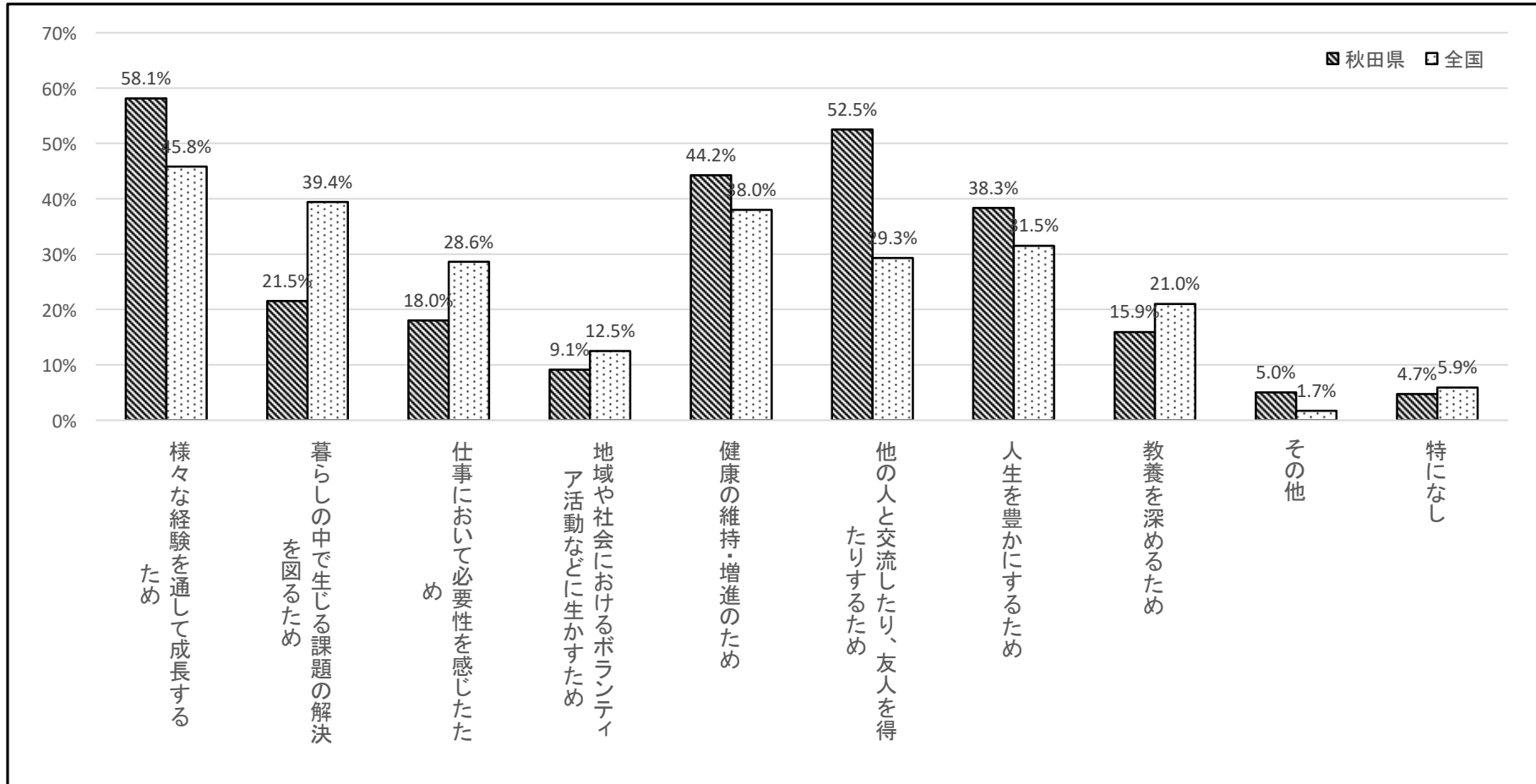
■生涯学習の経験

お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)で続けていることは何ですか。(複数回答可)



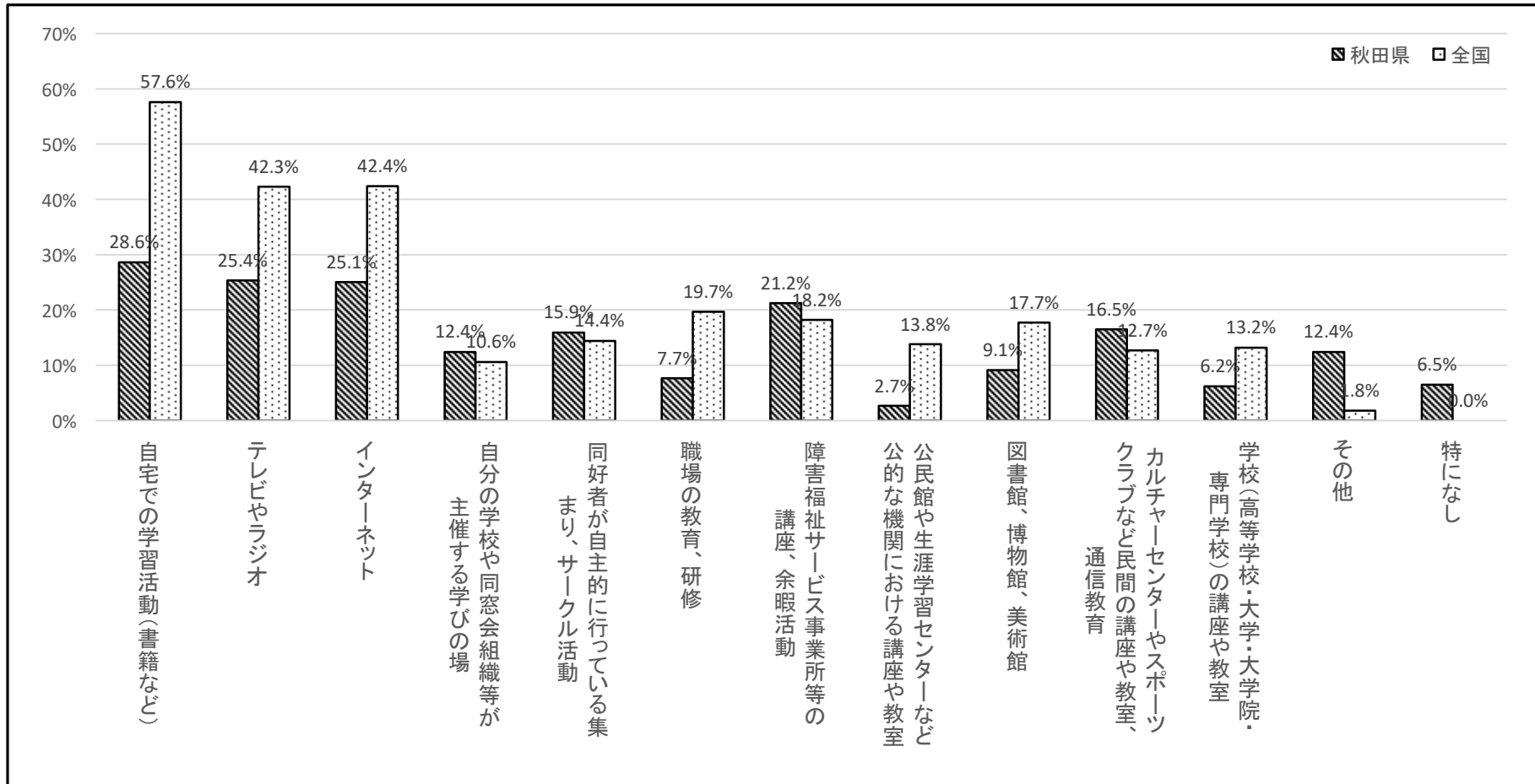
■生涯学習を実施した理由

お子さんが、生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）を続けている理由は何ですか。（複数回答可）



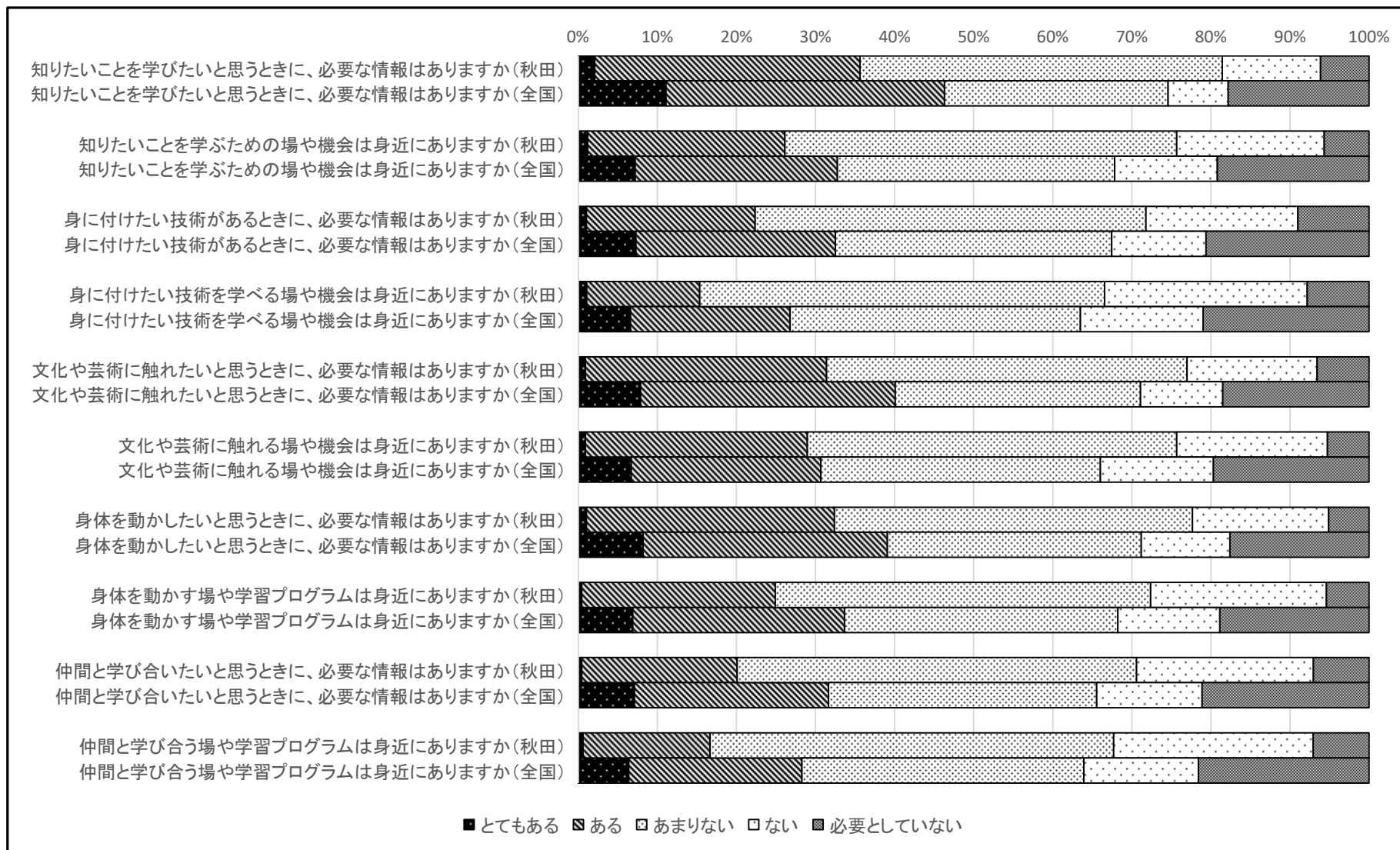
■学習形態

お子さんは、生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）をどのようにして続けていますか。（複数回答可）



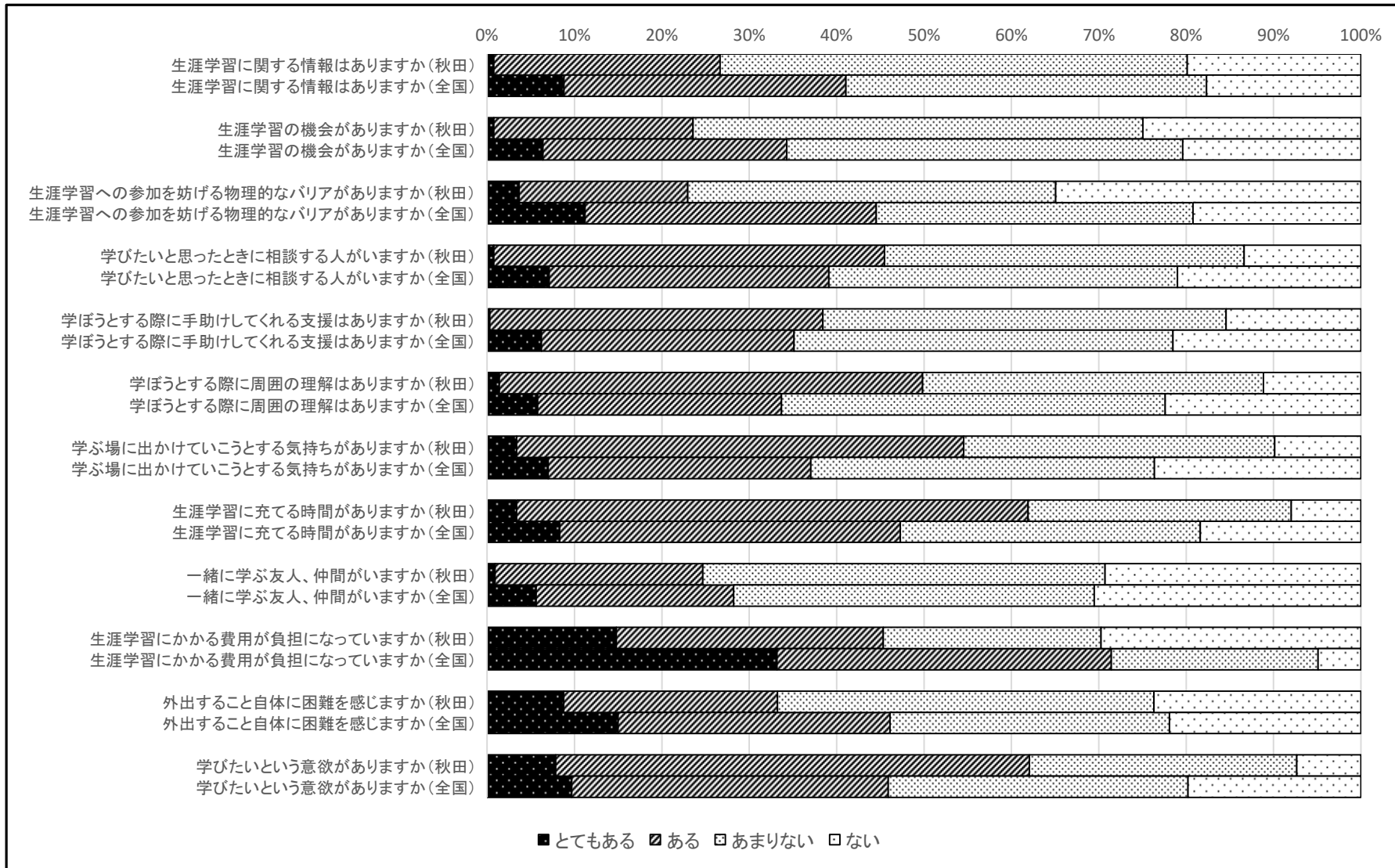
■学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



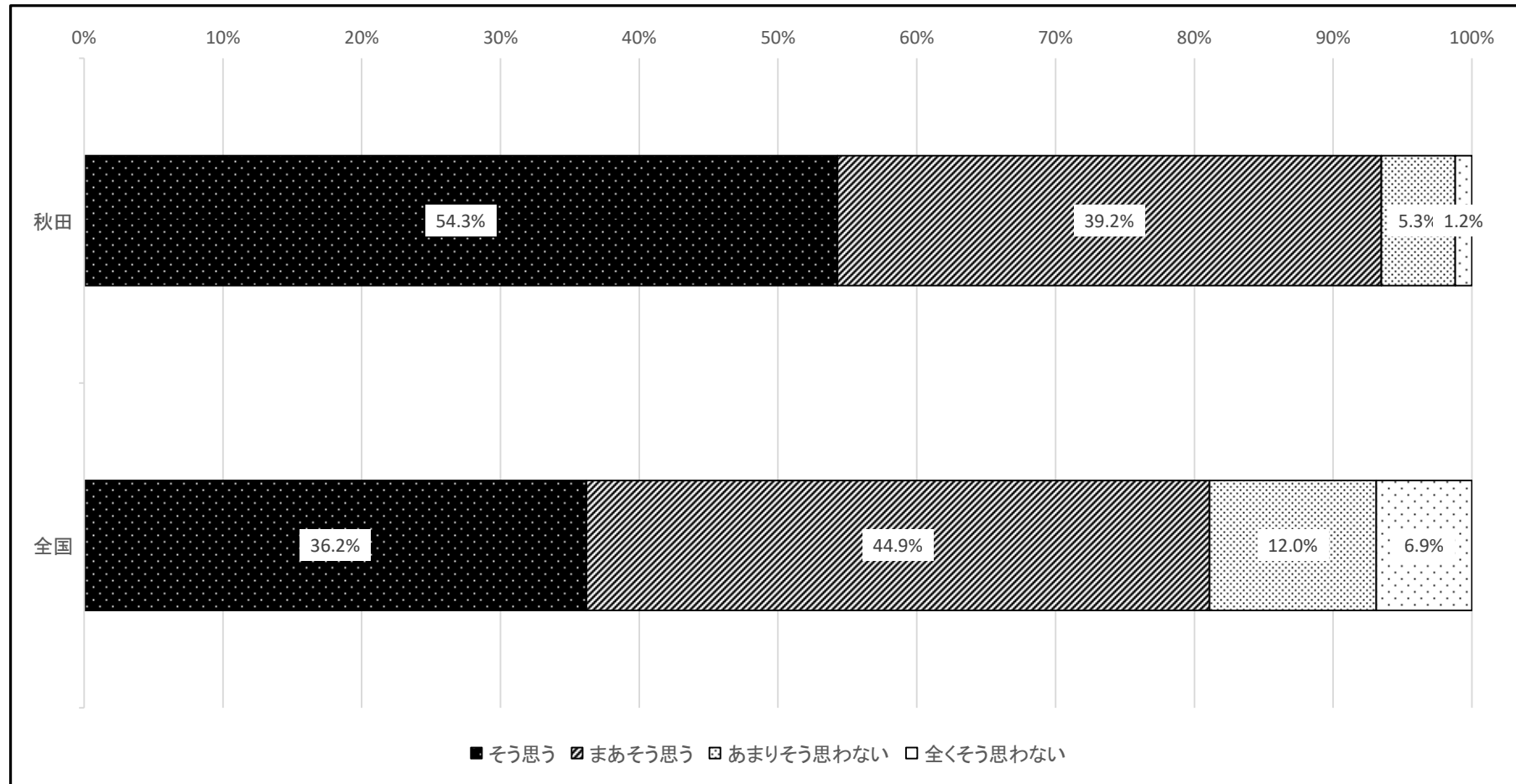
■生涯学習に関する課題

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



■障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識

「共に生きる社会」になるために、障害のある方の生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）の機会が必要だと思いますか。



■全記述回答

※基本的に原文のままです

1ーケ その他記述	2ーケ その他記述
読み書きそろばんを少しでも身に付けられるかもしれないので続けています。	好きだから
ピアノ	親同士の交流、情報交換のため
ピアノ	好きだから
リハビリテーション	進学に向けて、本人の意思
英語塾	ただ好きだから
好きな語学	将来の仕事に役立てたい
インターネット学習教材（国数英）、ユーキャン デッサン講座	本人が継続したいと希望したため
ボランティア活動	好きだから
デイサービス、療育センター訓練	指を動かす事で脳に刺激を与えるため
ギター	NPO法人の活動を支えたい
ピアノ	1日のルーティン、暇つぶし、気分転換
長期休みの時は施設利用している。	できることをやらせたい
読書（図書館に通うこと）	仲間がいるということと、楽しめる時間があるとい うこと
部活に入っていた時に行っていた筋トレ	自分で勉強したいと思っている
	ストレス解消

3ーシ その他記述
ピアノ教室へ行く
親が送迎（車）しているので、将来的にはできなくなる。
個人の先生に月謝を支払って習う
育成科の先生にみてもらっています。
自宅
個人的に依頼
北部エリアなど。スーパーでの買い物、公園など
中学の時の部活コーチに頼まれ後輩に指導している
放課後デイサービス
北秋田市障害者生活支援センター主催の学びの場
家族と温泉、動物園
講師の先生に習っている
特体連サッカー
休日など時間に余裕のある時
県強化選手（サッカー）
デイサービス
自学
医療療育センターで専門的にみてもらい継続する。
友人とのテニス
休みを利用している
秋大学生によるボランティアサークルのような活動
親子でプールに行く
個人の教室
週3回位のペースで指導を受ける
自主的に行動
電化製品の組み立てやほごす作業
親子での活動
ボランティア団体の主催するスポーツ講座
NPO法人 フライングディスク
家で時間のある時
スマホ、タブレット
塾
卒業した中学の部活にOB参加や自主トレ

5-③ 記述

多目的トイレの有無
多目的トイレ
交通手段
障害の種類によっては、保護者の付き添いが必要な場合、様々な理由で断られたりする。逆に、学習内容によっては、一方的に年齢で付き添いの条件が付けられたりする。付き添わなくてもボランティアがついてくださるなどしてもらえれば、助かるのだが…。
路線バスを乗り継いで行くため、往復の時間がかかりかかる。時間に間に合わないので参加をあきらめることがある。
移動のためのバス路線、適当な運行時刻。※バス停、駅など公共の交通機関の起点までのタクシー代等の支援があればよし！
何をするにも不便だらけだと思います。
移動、学習の場において、常に保護者の介助が必要。一緒にやりたくないわけではないが、介助も含め受け入れてもらえるような場があるとよい。
他にはありません
段差、トイレもありますが、通路の幅が車イスでは通れなかったりエレベーターがない等
階段、トイレがせまい
階段、トイレがない せまい 車イス 駐車場が少ない
行動手段が家族送迎を前提としているところ
多目的トイレでもベッドが配置されているところが多い
多目的トイレ
雨天時の屋根があるパーキングがないので、こまる。トイレのベッドも小さいものばかりでやりづらい。
段差
階段の段差、多目的トイレの有無、交通手段
外ぐつをはく時の座るスペース、段差
受入れが悪い やらせたいのにあぶない言葉多すぎ
施設等 WC つくりがバリアフリーでない所がまだまだ多い
歩道と道路の段差
(質問文の階段の段差、多目的トイレを指し) この事もですし、電動車イスを使用しているためベッド付きでないトイレや、せまいろう下等
大型の車イスを使用しているため、移動が困難であるため多目的トイレですらせまい。
階段の段差(車椅子が通れない)
公共の交通機関がない
常に介助が必要な状態なので(車イス使用)正直やさしくない所ばかりに感じる
自閉症なのでクールダウンできる場所が確保されていて欲しいし、ニガテな場所(なれるまでの間)だった時は、落ち着く手段がすぐあると嬉しい！自分の子供の場合は初めての場所や「待つ」ことや不特定多数の人がいると落ち着かないので自分の場所「いす」があると落ち着きます。もちろんあらかじめわかる時は持っていくたりもしています。
近いところにトイレがある場所と、探してもわかりづらい場所にあたり大変です。
階段の段差もだし、多目的トイレも無い所が多い。
大館市内には、趣味や習い事等の場所や活動しているサークル等が少なすぎる。
トイレはだいたい洋式になってきたが、屋外施設の場合まだ和式が多い。
階段の段差、トイレ両方
交流場所等自体がない！！受け入れてもらえない！！
地域的に遠い所に住んでいる事
公共の場、総合体育館、野球場など観戦する所など、多目的トイレ中心のおむつを変える大人用折りたたみベッドが無いこと
まず、寝たきりの大人が使えるようなベッドがついているトイレがない。冬は暖房が無く寒すぎるし、夏は暑すぎ。階段の段差、多目的トイレ。
常時介助が必要なため、不安定になった時クールダウンができる個室
交通手段が不足している(バス、電車の本数が少ない)
階段の移動だったり、多目的トイレがなかったりすること
自動ドアは大丈夫だけど、手動ドアのドアノブにさわるのが苦手
そういった施設や場所が分からない
トイレが少ない
トイレがあまりない
段差やトイレの数
手すり、段差、玄関、エスカレーター、トイレなど
両親の介護や仕事など、時間をとることが難しい。／本人の気持ちが向かない時もある。(初めての場所、にぎやかな所が苦手)
プールに行きたいが障害者用トイレや着替え室がない

5-③ 記述

近くのプールで障害者用更衣室（付き添い可）がない
よくわからない
移動手段
公共交通機関、アクセスの悪さ、またはその場に行くのは難しい（合う時間のものが全くない）
プールを利用する際、父親がいなければ着替えをすることが困難。男子更衣室を1人で利用するにはかなり困難を伴う。
車椅子用のトイレ、階段の段差等
移動手段（バスなど）
車椅子用のトイレが必ずしもないので困る。母と息子の場合は女性用トイレ、父と娘の場合は男性用トイレに行かないといけませんが、年齢が進むにつれ、困難になってくる。
多目的トイレの有無もそうですが、洋式トイレを増やしてほしいです。和式トイレを使うことができません。
秋田市はあるかも
本人の状態によるもの
多目的トイレか洋式トイレがあるとよい。駐車場が狭かったり、遠かったり、少なかったりすること。
公共の交通手段を一人で利用できず、家族の送迎が必要
イベント等があっても、自力（徒歩）で行ける場所ではなかったりする。
体の障害は、知能の方だけで、歩行は普通です
他の人に迷惑をかけずすごせるようなスペース
重度障害のため、入所しており、その日課で生活している
情報が少ない、参加の仕方が分からない、仕事の休みと合わない
物理的なものではなく、公共の場利用において理解が周りから得られない。
多目的トイレの無いこと
一般の中での勉強の場で受け入れてもらえるか心配
近場にそういう機会がない
人間関係
目的地へ行く為
道路の不備や階段がありバリアフリーがない所もある
トイレ（オムツ交換）や食事・休憩等で使用できる個室
近くにない為、一人で通えない
公共施設が使えないことが多い
階段の段差、多目的トイレなどのバリアフリー化。

常に保護者の付き添いが必要だから。

交通の便が悪く、自家用車で送迎が必要な場合が多く、自力で外出できない。

見えない障害（知的、自閉症）のため、付き添いが必要であること。他者との意思疎通が難しいこと。結局は親に頼るしかない。でも親は子どもと共に生きられません。将来、安心できる環境を少しでも早く、多く、整えてほしい。

秋田県は障害に対しての理解などがまだまだ足りないと感じている。

どんどんバス路線や運行数が減らされている。

交通面、歩行面 全て困難

地元と一緒に学ぶ友人も、ほとんどいなく、友人がいる所となると遠くて移動の費用と時間がかかるため福祉サービスの不足、周囲の目

5③と重複するが、保護者の負担が大きいこと。

家族以外の人と一緒に付き添って活動に参加できるサービスがあれば良い。外出支援など。

車イス用駐車スペースの空きがない

長時間が難しい 全介助が必要なため 車イスで入り寝て取りかえられるトイレが少ない 公共交通機関を使うとは全く思わない 相手にも迷惑がかかると思ってしまう 超高齢化社会の先をゆく秋田なのだから （お金のない県、でも見栄っばりの県だから） バリアフリーや福祉もどんどん充実させて、老人や身体の不自由を抱える人たちに優しい、先行く県となしてほしいです！！

移動手段。特に寒冷地である秋田は積雪時に車椅子の移動が困難。

車イスで道路を歩くときの段差が気になる

子の体格や親が介助するのに体力的なことで大変

交通手段、介助者不足

交通手段が少なく思った時に移動できない

移動 車でも交通機関利用でも 宿泊などすべて

体が大きくなり、私自身、体力に自信がなくなっている。全介助なので…

今年で19才ですし、母一人の時はトイレが大変なので… 大は、もちろん尿器を使いなれていないので失敗しても着替える場所がない場合がある為

駐車場の場所や天気、エレベーターの大きさ、トイレの大きさ、全て考えると出かけようとは思えない。

子供が好きだけど、いきなりさわろうとする。相手はビックリしてしまう。人が多いとイライラしたりして、大声を出したりする。

歩行が困難なので外出しにくいです

送迎が必要なこと、交通機関をうまく利用できないこと

認知が乏しい本人が、何かを選んで行動に移すことはとても難しく、介助の人が結果やることになるのが生涯学習につながるとは思えない。それでも、行っているデイ等で様々なことを体験させてもらっているの、今はそれでいいと思っている。自分で選択してできる人たちをうらやましく思ってしまう。

たくさんあるので書ききれません。1つ、障がい者の家族という視点から家族本位で書かせていただくと、あたたかく見守ってくれる方ばかりではないので社会に出るといことは周りにとても気をつかうということと、親も若い時は若さでなんとかなっていたが、今は子供の体力の方が上なので、出掛けたあととはとてもつかれを感じます。

交通が不便。バスの本数や時間が少なすぎる。

外出先で本人が困った時に、理解、サポートしていただける方がいるか分からない

他人の目。迷惑をかけてしまわないか心配。本人が辛い思いをする。本人が楽しめるか不安。

他の人の迷惑になってしまう事や、条件があって、なかなかやらせたり事にたどりつけない。人生の楽しみを見つけてあげたいのに、出会いもなければ情報もサークルもないようです。

現地までの交通手段。路線バスが少ないため

外出移動は一人では困難。

障害が重いので、つれて歩くのに大変

交通機関がちょっと少ない事と、自転車にのれるので汽車に自転車をのせる事が出来たら、行動範囲が広がって自分で買い物なども出来ると思います。

体も大人で大きくなってきているので何かあった時抑えがきかない。

ヘルパー支援を利用しているが、ヘルパーさんが利用出来ない時には外出出来ない。

交通手段、バスや電車の運行が少ない。

周囲の視線が気になるくらいです。

人見知り、交通手段等

交通手段が少ないのと本人を理解して受け入れてくれない

時々パニックで泣くことがある

交通手段

他の子の行事や仕事などで、子どもを連れて出かける余裕な時間がつくりにくくなった。

場所までの手段

バギーなので移動が難しい。人混みなんかでは邪魔にされることも多く、外出することは少なくなってしまっている。トイレの面も、段差などもつらいです。エレベーターも狭ければ乗るのも大変です。

5-⑪ 記述

大きな声を出したりすることで、他の人の迷惑になるのではないかと思います、外出がおっくうになる。本人は出かけたいようだが、それにつきそう保護者の負担は年々大きくなる。

本人が行きたいとき、仕事のときがある

本人の体調やバリアフリーの場が少ない

クラス、学校の子とも知らない人と交わる事を困難に感じる。あまり会いたくないので、なかなか行事に関われない。あちこちに色々な催し物（教室）があり、行けばいいなあいつも思っていますが…。

付き添いが必要なため、付きそう人に時間の余裕がないと行けない。

車椅子での移動が困難な場所

生涯学習が行われる場所への送迎。休日、生涯学習に参加することに負担を感じる。（親も子も）

車椅子なので、飲食店の段差や障害者トイレの少なさ

人に対して危害を加えるため

住んでいるところの交通の便が悪い。

生活面での自立ができていないことが多いので、親がフォローしてあげないと外出することができないため。

本人への指示が入らない時、まわりの理解

姉も作業所なので

バスでの移動

ひきこもってばかりいる

付き添いが必要

外出先で不安定になる事が増えてきているため

まわりの理解

親が元気なうちは一緒に通えるが、親も本人も高齢になった時どうなるのかと心配

周囲の視線

一人だけで交通機関を利用する事ができない。暗黙の社会的ルール等分からない事が多いので周囲に迷惑がかかる。

バスの便があまり良くない

公共交通機関、アクセスの悪さ、またはその場に行くのは難しい（合う時間のものが全くない）

本人が外出することは困難ではないのですが、付き添いが必要な時、下の子どものことがあるので、難しいと感じることがある。

息子のため、母がトイレの介助を外ではできず、多目的トイレがあった場合であっても、一緒に利用する場合周囲の目がきになる。知的障害のため、一見すると普通の男性のため、より一層周囲から変な目で見られ免許がないので（本人が）、親の送迎がないと外に出かけようとしない（その気にならない）

本人があまり行かない

子どもの行動、言語に対するまわりからの目

移動手段

買い物さえ行けない

小学校時代からいじめを受け、同級生と会うことを避けている。地元で出歩くことはありません。

一人で行動できない時のフォローが必要だったり同行する場合のみ、同行者（兄や母）が仕事を休む必要が出てくるなど

近場だとあまり感じないが、遠いとお昼代とガソリン代がかかるのと、外出以外の仕事があったりするので疲れる。

人的支援

公共の場で大声を出すなど突発的な行動をとる。ひとりで走り出して行方不明になる可能性がある。

人混みによろ。外出すること自体がおっくう。

学びたいという興味や情報は知りたいと思うけれど、迷惑かけるのではとためらってしまう。

こだわり等があるので

常に見守りが必要

とにかく家から遠い。何もかも。

本人が興味を持ってくれない。

- ・自力（徒歩）で、1人で安心して安全に行ける場所が限られる。
- ・バス・電車等の利用が不便で、どうしても車での送迎が必要になる。

本人がやりたいと思っていても、やれる場所 仲間がいない

外に出ない、仕事は行く

親以外にたよれない

親の送迎が必要となっている

他人との関わりに本人が消極的な為、むずかしいのが現実

特殊な車イスを使用しているため、車の利用が困難。

重度障害のため入所している

すべてに介助が必要な為。

付き添いが必要

5-⑪ 記述

本人の自傷行為による大声（叫ぶ）が大きすぎてなかなか公の場へ行けません。
自分で行動する手段（公共交通）をあまりもってない バス、電車等
遠距離な所に行く時
外出すること自体。一人では行動できない。
全てにおいて親自身が見守り、必要以上に気をつかいといったことがおっくうで、外出したくないときがある
大声を出してしまったり、予測できない行動を起こす時がある。
偏見
障害や、障害者に対する理解が少ないため、周囲の協力が少ない。持病で、運転免許はとれず、バスは一日に2～3本しかこない。駅までは2km以上歩かなければならない。
送迎
一人では外出させられない（多動やパニックがあるため）
目が離せない
周りがやった方がよいと思っていても、本人がイヤがることもある。
子供があまり外に出たがらないから
遠い
知的障がい者への周囲の理解不足
バスの本数が少ない
本人が外出したがらない
問題ないから
家族や周囲の理解がない。
周囲からの冷たい視線
決めたルールを守りにくい。
車いすを使用する為、スムーズに動けない時もある
重度の身体障害と知的障害がある為、全介助の負担と社会のバリアフリーが、あまり整っていないこと。
本人が知らない人の中に入っていけない
自力での移動時、交通機関のアクセスが不便
スポーツのルールが理解できない
つきそいが必要だが、共働きの為、難しい
交通の手段が少ない
車イスのスペース（駐車場）が少ない、色々な段差
1人で路線バスに乗れない。
交通手段の選択肢がない
母親の車でどこにでも行けるが、一人での交通手段が路線バスしかない（本数も少ない）
常に困難がある。危険なもの（車等）が分からないため、常に見守りが必要で神経を使う。また、ところかまわず、服を脱いだりする。てんかんの発作もあり、倒れたりもする。
本人が外出したくない。
つき合う友達からの影響力。お金の使用の仕方。
周囲の人たちに特に知らない女性に声をかけないように気をつけて行動しています。

⑦ 記述

「共に生きる社会」は必要だと思うが、あまり障害のある方とか障害のある人など特別扱いしないでほしい。実際ない人たちと共に笑顔で生きようと頑張っていて、区別されたり言葉を使われたりするのはい。こういったアンケートも好みません。

マナー講座や生活に必要なお金の勉強、掃除や収納など、生きていくのに必須だと思うスキルを、障害に合わせて易しく丁寧に教えてくれる習い事がほしいです。後、話し方や会話もあると良いです。

学校を卒業後、何か余暇活動ができればと考えていますが、障がいがあっても受け入れてくれる活動がどのくらいあるものかが分かりません。

どんなことにおいても「障害があるからダメ」とは言われたい。が、実際理解してもらえないかどうかは不安があるので、どうしても「障害者のための～」という場所を選んでしまう。安心して受講できるように人的サービスがほしい。保護者の付き添いがなくても大丈夫な環境が保障されていればもっと外に出られると思う。

在学中は何かしらの情報がありますが、卒業してしまうと全くありません。

卒業してから始めるよりも、在学中に生涯学習に触れることで、卒業後も続けられるように思います。だから、学校を通じて紹介していただいたり、体験したり、本人だけで通える環境が整ってほしいと思います。一般の方が利用している所でも、快く入会させてくださるところがあり、嬉しく思っています。

学校生活では教師の指導のもと、様々な行事を通して安定した学びができていた。卒業すると作業所と会社などと自宅との往復以外に学びの場は皆無である。ほとんどの人は、運動量が減り、太ったり内向的になるなど、身体、精神的に多くの不安を抱えている。

秋田県は福祉に対しての取組が遅れていると思う。他県では障害者が生き生きと活動している様子が見られ、とてもうらやましいと感じている。

学生時代から習っていたことを継続したり、一般のスポーツサークルに通ったりしているが、すごくお金（月謝）がかかる。障害年金を利用し払っているものの、B型就労で工賃をもらっているものには、何をさせるにもためらってしまうことが多い。また、お金の使い方を教える難しさを今、痛感している。

学校卒業と同時に、療育センターも卒業といわれ、ST、OTを続けたくても続ける場がない。

相談するのは通っていた特支校などですが、先生方々が異動してしまったりすると、なかなか相談しにくい。一般の習い事をするとき、子どもの障害を説明するなど理解してもらうのに時間がかかる。

市の広報などに、スイミング教室の案内を載せるなど、もっと簡単に情報が手に入る仕組みが必要。もっとスポーツのできる場所、イベントなどあってほしい。

地元と同じような障害がある友達がほとんどいなく、あまり外に出たがらないので、集まる機会があれば行きたいと思いますが、どこでどのような集まりがあるのかわからないため、行けずにいます。また、どのように調べるとわかるのか知りたいと思います。

住んでいる地域にもっとそういう活動ができる機会があれば良いと思う。地域の人々と関われる機会が少ない。

なし

動けず、寝たきりの場合、なかなか生涯学習というのも難しい。このアンケートで改めてそう思いました。が、選択肢を読んで参考になることもありました。ありがとうございました。

障害の程度が軽ければ学びやスポーツ、交流等あるが、うちは重度なので、親（自分）の不担が大きい。なので外出はなかなかないのが現状です。

病気のため、病院生活をおくって、学校にいます。センターでは、育成科の先生たちが子供のよろこぶことをしてくれています。卒業したあとも、病院生活になると思いますが、その中で、体調をいじして、好きなことができるかんきょうであってほしいです。

理解が必要だと思います。

計画したり 参加 よびかけ 告知したりしてほしい。

自分達で出掛けるのは大変なので、相手側（教えて下さる方）から出向いて頂いて、ご指導して欲しいと思います。

生涯学習を妨げる階級の段差とかを無くして、多目的トイレを増やして、障害がある人でも、有意義に不安を抱えずに学習することが出来る場があってほしい。妨げがあってはならない。

付き添いが一緒になければならぬけど、体力的に一緒にできないこともあり、あきらめることがある。そういう時に手助けしてもらえるといいのですが・・

受け入れ側に、障害のある方が常駐して、できるだけ不安が少ない環境であってほしいと思います。

学校時代に得意なことがわかって指導してくれる人が卒業後はいず、才能をのばすことができない。

私の子は女の子なので障害者用の裁縫教室（簡単な教えで良い）や、料理教室、メイクアップ講座などがあれば良いかと思っています。

ピアノ、ジム、専門学校。行きたい

５－⑪の後も書いたが、生涯学習へ参加できるほどの本人の認知もなく、第三者が介入しての参加しか考えられない方たちはどうにすればいいの。このようなアンケートや質問がくるたびに自分の子供と他の子供をくらべてしまうことが苦痛になる。自分の意思で選択、活動できることの人の差を感じてしまう。

障がいの程度にもよると思いますが、卒業してから「さあ、何をやりたいの？」となっても、親も本人もわからない・・・となると思います。まずは障がいのある、なしに関わらず子供の時からやってみたくて、やらせてみたいことをできる社会であれば、わざわざ生涯学習などとうたわなくても、何か、自分の人生を支える何かが見付かるのではないのでしょうか。障がい児を育てること、一緒にくらすことはとても幸せなことと心から思っていますが、時々逃げ出したくなることも現実としてありますので、家族も楽しめる形だったり、家族の負担も多くない形になると「生涯」とうたうにふさわしい形になるのではないかと思います。

⑦ 記述

どのような学びの場が、いつどこで行われているのかの情報を得ることが困難。学校を通してでも情報提供してほしい

もっと学べる場所が多くあり、情報等やホームページや小冊子的な物があれば、学ぶ機会が増えたり、参加の機会が増えると思います。

相当な勇気がなければ、障がいの第一歩をふみ出すきっかけが必要。慣れるまで本人も家族も相当辛い思いをする。理解してもらうには時間がかかる。子供はざんこくです。

学習塾やスポーツ教室などを障害を理由に断られたことがあり、以来障害者を対象としたイベントにしか行きづらくなっている。障害があっても学びたいことを学べる場が増えるとありがたいと思う。

わかり合える仲間が少なく一般の人ややはり特別な目で見るため障がいのある人は孤立してしまう。

いろいろな事に関心を持ちますが長続きしません。初めての場所、参加者達とのコミュニケーションがうまく築けない様子です。どんな場所、サークルであればうまくやっていけるのか自信がなく、すすめる事がむずかしく思っています。

親がやらせたいと思っても、団体だと障害が重いと輪を乱すし、個別だと費用がかかる。リハビリ的なことをしたくても、なかなかできない（音楽療育、言語療法）、枠もない

支援学校での部活の日数、時間が少ないので、体を動かす機会をつくってほしい

学校を卒業してしまうと学習（運動や文化的な事）の機会が極端に減ってしまう事が想像できます・・・。本人が魅力を感じる活動が増え（あり）、継続してできればと思います。

障害によって家族が付添いしなければならない事が多いので、習い事に出るのが難しい。学習の場がある時は市町村の広報にでも載せていただきたい。

生涯学習の場はないに等しいと感じる。自分で探して行っている状況。

機会があれば学校在学中のうちから始めたいと思っていくらいです。面白いアート作品が見られたと思う・・・。

障害者も一般の方と同じ皆さんで集まる所から始まり、家にばかりいる事なくどんどん外出する。興味のある事に対しては誰しも集うもの。体を動かせる場所、笑う場所・機会をあたえて下さい。

ねたきりで自分から体を動かすことがむずかしいですが、何かを感じたり楽しんだりすることができるのであれば知りたいです。

中高生を対象とした生涯学習があると、仲間づくりもできるのではないかと思います。

好きな事や得意な事を持つ事で、自信をもってすごす事ができたり、精神面での安定にもつながると思います。いろいろな学びの場があるとよいと思います。

余暇の過ごし方がとても重要だと思います。好きなことや興味のあることだと続けられると思うので、そういった活動の場があれば参加したいと思います。

学校以外で学べる事が沢山あると思うので、機会をみながら生涯学習やその他行事、ボランティアに参加してほしいと思っています。

多動な障害者でも安心して安全に居られる場所を提供して過ごさせてほしいと思います。

親が情報不足で何をどうしたらよいのか分からない

生涯学習はとてもよいことだと思います。しかし、軽度の方ならできることもたくさんあるでしょうが、重度だと、受け入れてもらえる所もないのではないですか？ましてや、吸引を必要としたり、ケアの必要な障害がある人など、やりたくてもできない、受け入れも無理なのではないですか？今後に期待します。

去年は参加することが無かったが、継続してもらえたら、ぜひ参加したいと思っている。

障害の程度（知的）のため、様々な体験をさせたいと思っても、参加したときに手助けをしてくれる人いる体制がないと参加できない。

障害のない人がある人を理解することはなかなかできないと思う。一緒に！！は無理かと。理解しようと思う方がたくさん時間を過ごしていけばいくらかは分かってくれるのかな？一緒にスポーツ！！とか簡単にできるものなのかな？障害のある方は迷惑をかけてしまうことを気にしてしまうかも。ない人は上から目線で接しないだろうか？障害者を「特別な人」ではなく「個人の特徴」と思ってくれば偏見の目で見られないよね。色々考えてくださりありがたいです。ほんとと感謝感謝です。

今は学校の活動を通して学べる機会（地域交流等）はたくさんあるが、学校以外ではあまりないので、卒業後そういった機会が減ってしまうと不安です。

学習そのものより仲間と一緒に学ぶ、楽しむことができればいいと思う

もっと周りの人の理解がほしい。生涯学習ができる場所を増やしてほしい。情報が少ないので情報提供してほしい。

重度の子にとって習い事や講座などは難しいので、スポーツやレクリエーション活動を通して余暇を楽しむ場がほしい。

もっと分かりやすく情報を得る事ができるようにして欲しい。広く情報発信をして欲しい。

情報が少なすぎる。学校からでしかなく、もっとほしい。

学校からの情報が、一番分かりやすいと思うので、学校を介して、習い事の出来る場所・集まりなどいろいろ教えて欲しいです。

福祉型カレッジの設立 学べる場所やサークル

手話の検定を受けたいと言っていたんですが、習う手段がなく現在はやる気をなくしています。また検定を受けるには仙台まで行かなければいけないとの事で、交通費がかかり不便さを感じました。

一番は受け入れる側の理解だと思います。各個人の特性を理解して向き合ってもらえるかどうかこちらの不安要素になります。

情報がない

⑦ 記述

習い事をしたくても、そこに行くまでの手段が無くあきらめている人もいると思う。その辺りの整備も進むと良いと思います。障害のある人は収入も少ないので、費用の面でも助けてもらえると良いと思います。情報が少なすぎる。

障害のない方たちと一緒に遊びたい。

時々、スポーツなどの体験的なイベントはあるが、障害の程度によって参加の可否も違うし、どの程度の障害向けなのかもはっきりせず、なかなか参加とはいかないのが難しいと思う。

学びたいという意欲があれば、親としてはできるかぎり好きなことに（学ぶことにつながる）とことんうちこませたいです。親も一緒に学べて楽しいです。この子のやりたいことをやらせてあげ、母も自分の趣味を生涯続けてゆくつもり。

学べる場所が欲しい。福祉型カレッジを秋田県にほしい。

学習障害がある人に対して講座や教室が増えてほしい。家庭内でおしえていくのには難しい時がある（正確な学習内容なのかわからない）／一般の学習教室のようなところでは、年齢や学年の壁があって入りにくい

ため

生涯なので、障害者が高齢になった時の支援があればいいと思います。

様々な公共の施設が、中央地区以外にも、県北・県南地区にもたくさんあるといいと思います（公民館やセンターなどの場所）

好きな時間に利用できる施設や集まりがあればよい。決められた曜日・時間では、親が就業している（不定休）ため通うことができない。

それぞれの障害にあった生涯学習の場があればいいと思いますが、それに伴った支援・サポートも必要になるし、家族の負担が増えるとなると大変だと思います。

カルチャースクールに通わせたいのですが、受け入れる方はどうなのか。親がついていくのもどんなものか。県や市でも障がいのある人のための習い事等をやってくれるとうれしい。

共生社会の実現に向けて、インクルーシブ教育システムの構築と支援体制の整備が少しでも前に進めばいいと思っています。

できれば同年代での集まりなどがあればいい。娘はもうすぐ19歳なので、18歳～25歳までの集まりとか、障害者の能力にあわせたレベル別の習い事等。

障がいを理解してもらいたいのので、障がいがある人となない人がいっしょに活動する場がほしい。

今、入所しているが、入所してしまうと生涯学習の機会を奪われてしまう。小さい時から積み上げてきた物がゼロになってしまう。どんな場所、状態でも継続できる機会が必要だと思う。親なき後も、重い障害があっても生涯学習は必要だと考える。

卓球を小学生からずっと続けているが、障害児の参加できる卓球（教室やクラブ等でもよいが）の場がほとんどなく、活動する場があれば、親として本当にありがたい。本人のモチベーションにつながり、生活リズムが整うため。福祉の一環として作ってほしい。

障害といっても人様々です。その人に合ったものを本人の意思でやれば良いと思います。市内以外の方は、あまり機会がないのではないのでしょうか。

今は学校生活で体力的にいっぱいなので生涯学習については考えていない。将来、社会人となり時間に余裕ができたときに、本人と話し合っ決めてたいと思う。

秋田市にはあるかもしれないが、他の市町村には障害のある人が行ける場所がない。まして生涯学習はほぼありません。あれば利用したいです。以前は県立プールのミラクルスイミーに通いましたが、送迎、つきそい、金額が大変でやめました。

アンケート用紙に全てルビをしていることが差別化していると思う。やめてほしい。

親の交流もできるので多くの場をつくっていただければありがたいです。

障害の重い方々は本人もその家族も本当に大変だと思います。その他に少しだけ考えていただきたい。軽度の障害だと周囲には「怠けている」「空気が読めない」等と誤解され、普通学校の生徒と馴染めません。障害者のサークルに参加すると、先生方は重度も軽度もしっかりサポートしてくれますが、ボランティアや施設職員の方からは軽度だと白い目で見られている感じがしました。軽度でも悩みはあるのです。軽度でも安心して参加できるサークルにしてほしいです。

障害者が勉強やスポーツを通して交流できる場があると嬉しいです。習い事もどんなものがあるのか知りたいです。

パソコン学習や職業体験などがあればよいと思います。

障害者向けの生涯学習がどこでやっているのか、あまり情報が入ってこない。保護者に向けた講演会や学習会はいくつか聞いたことがあり、参加したこともあるが…。本人たちの参加する・できるイベントや情報が分かるようにしてほしい。

祭日がないため、土日の活動はつらいことがある。

スポーツサークル（簡単な運動、体操、トランポリン等）等子どもが体を動かせる機会をずっと探しているが見つかっていません。土、日でどうかよろしくお願いします。

学校以外での他者とのかわりには非常に大切であると考えています。いろいろな活動に参加していますが、保護者の理解とボランティアの参加がとても大事だと思っています。とくに、ボランティアの育成は必要であると思います。

参加する・しないとは別に、情報だけは障がい者（児）や家族はほしいと思う。

漢字検定を受験したいが、付き添わないと一人では受験会場に行けないので出身中学校での受験ができると良いのですが、可能になればうれしいです。

⑦ 記述

○生涯学習の機会を考えてほしい。○また、「障害者差別解消法」が施行されたとは言え、世の中は難しい所もあります。共に生きるために、色々な行事、習い事に安心して参加できるように認め合いが必要なのです。

障害者が参加できるイベント・習い事教室などが、たくさん増えてほしい。

勉強や習い事でゆうのはないですが 将来誰か（どこかを）頼らないといけないと思うので そういう係の人たちと知り合いになれたらいいなと思います。毎日の生活にがんばっていてストレス発散できる事がいろいろあればいいなと思います

都会では、沢山学べる事が、ここでは出来ない。親が時間をさいて、何時間もかけていかなければならない。

親子で楽しめる行事等があればいいなと思います。アンケートもう少しわかりやすい文章にして欲しいです。

グレーゾーンの子供たちの学びの場が少ない。支援学校はあるが、グレーゾーンの子供たちの学習レベルにあった学習内容ではないように感じる。地域の偏見がまだまだ多く、学びたくても学べないのではないかと思う。

まだまだ数が少なく、希望通りに利用出来ないです

指導してくれる所がない、又指導者もいない

絵画や楽器、スポーツ 何でも挑戦させたいと思ってはいるものの、どこで受け入れ可能か、近くにあるのか等の情報がわからない。やっとみつけたと思えば大人の障がい者ですすでに定員オーバーとか…。情報がほしい。一般のところへ問い合わせるのは勇気もいるし疲れてしまいます。

とにかく子供の意見を聞いて、準備してやらせてみる。その後は、よく様子を見て、一緒に楽しめるように、行動する。

障害だって免許をあってもいいですが、それなりのレベルの試験だったらすぐにとれると思うのですが、勉強して、理解しても、寝てしうと忘れてしまうので、障害のための試験場があってもいいと思うのですが、学校ったら先生が教えてくれましたがやっぱり家だとかかりられていますので、そういう場を作って欲しいですね。（車の免許です。）

対象者エリアだけでなく広範囲で広報をお知らせして頂ければ良いと思います。

○思い切り体を動かす機会（場所、イベント、活動団体）や情報など乏しく感じる。

学校を卒業しても、学校のように卒業した子供たちが、安心して、過ごせる場所があればなと思います。障害をもっている子供の親は、皆そう思っていると思います。障害は学校生活の6年間だけではなくその後もずっと続くのですから理解のある環境は必要だと思えます。

入所施設での外出は、年1回の社会見学のみなので、施設の負担にならないような、他者が外出を計画・実施してくれるような事業があると良いと思います。学校に在学中とちがい、人とかかわる機会とか、外出する機会がほとんど無いので、何かしらの行事があると良いと思います。

人とふれ合うのが好きなので、色々経験させたいと思う。

公共の乗り物で行ける所か目的地までの移動のサポートが必要。詳しい案内が家に届くようにしてほしい。

会費や募金などの親負担をなくしてほしいです。次々にお金がかからみ、大変です。

公共の場所や個人的な場所に関係なくどんな障害がある人も利用できる場所がほしい。

障害者は、あくまでも障害者という感じは、まだまだあり限られた世界の理解でしか、親としては参加させることが出来ない状況が残念と思う

運転免許取得のための支援があれば知りたい。

学びの機会に連れ出したいと思うが、健常者の方が多いとさまたげになるのではないかな。訓練では全て学びきることではできないだろうからやめよう、といった気持ちがあり参加できない。

「あまりない」が多くなったのは、やりたいことがあって調べれば必要な情報や機会はありますが、先に情報があって選択できる環境であれば、本人も家族も充実した生活ができるのでは…と思います。学校と卒業してから社会に出た分、世界が（生活の）せまくなったと感じていました。

障害者のために、というよりは、スポーツクラブや、習いごとの場で、健常者だけでなく障害者もうけいれてほしいと思います。又、湯沢、大仙ではS Oが立ちあがってますが、横手には施設はあっても、そのような場がないように思います。

やりたい気持ちはあるが、情報がなくどうしたらいいのかわかりません。機会があれば積極的に参加しようと思います。

経験の中で学びたいと思える学校教育であって欲しいと思います。

障害の度合いにより区別される事に辟易している。出来る事しかさせてもらえない。それゆえ家族対応ならざるを得ない。そのような面がフリーになればいいなと感じている。

障害の無い方の認知が必要。合理的配慮、特別支援という言葉を使わず、当たり前前に障害者と向かえる社会を築くことが出来れば一と思う。

特にない

障害のあるなし関係なく一緒に学ぶ場をもっと教えて発信してほしい

スポーツや美術はよく目にするけれど、音楽になるとほとんど聞いたことがない。集計して終わりではなく、何かしらの活動に役立つアンケートであってほしい。

選べるくらい多様な何かがあれば良いと思いますが その点では全くありません

実態を理解してもらえらる場で体を動かしたりストレスを発散できることができたなら願っています。

⑦ 記述

地域で、身体的障がい者、知的障がい者のニーズを調査し、それぞれ共通する学習と、個別にする学習を実施すべきでは？

本人が外出先での自分に対する人の目を気にするので、決まった場所への外出になる。もっと外に目をむけて…と思っても本人が嫌がる。外でのスポーツも難しい。

県や市町村、学校などと協力して、いろいろなイベントを開催して欲しい。（障がい者が来れるよう、保育やボランティアをつけてくれたらいいと思う。）

学校と協力して県、市町村と共に、イベントなどを開催して欲しい。（音楽などの参加しやすいもの）

車椅子使用者に対しての支援が不足していると思う。窓口をもっと広げてもらいたい。

法が施行されたが、学びの場の情報提供がない。何で情報を得ることができるのか不明。

施設の中でも、できる体制にしてほしいです。

家の子供は、学校の部活以外でも自転車で出かけたりもしています。小学校の時は、プールにも行きましたが、必ずじゃないですがなかなか今は、親も時間が取れず、色々な事に参加出来ない感じです。車の免許とかの学習が出来る所があればいいかと思います。家はこれからですが色々他の子と同じスピード感でついていけるか心配はあります。

障害の程度によって、補償はあると思いますが、補償を受ける程ではない人の場合は、なかなか、本人がやりたいと思っても背中を押す事が出来ないのが、申し訳なく思います。無料の学習の場が増えて、仕事につながればいいと思います。

情報を知りたいと思っても相談する場所がわからない

一人で遠慮なく通える所があってほしい

田舎なので参加させたくても交通の便が悪く、いろいろ、諦めたりする事が多いです。もっと地域ごとに、参加しやすいのがあると良いのですが…

これといった考えは、ありません

一人では通うことができない不自由さがある

時間、日にちなど選べる習い事があれば…と思うことはありました。学校から帰ってからの夕方～夜や土・日など

学校以外での学習の場…初めて聞きました。障かひのある人のみが参加できる場なのでしょうか？あまり良くわかりません…。共に生きる社会を目指すのであれば、障かひのない方の差別意識を少しでもなくす取組みもしていただければ嬉しいです。

健康のために、運動をさせたいが本人がやりたがらない。親も一緒にいきたいが、なかなかむずかしい。

陸上やバスケットなど学校でやってきたことを社会人になってからも続けたいと意志は強いが、いつ・どこで大会が行うのかなど申し込みの仕方についても情報がなく、参加できないで残念な思いをしている。

障害に応じて、その人の興味やペースに合わせた自由な雰囲気施設の施設が身近にあればいいかと思うときはあります。

1ヶ月に2回ほど身体を動かせる機会があれば良いと思います。

■「生涯学習の経験」に関する分析

○在籍状況別

全国平均と比べ、比較的取り組む割合に近いのは「健康の維持・増進、スポーツ活動」であり、全国平均 30.3%と比べ、秋田県では 23.3%となっている。また、「特になし」は全国平均 38.8%に対し、秋田県では 50.1%と大きく上回っている。それに対し、他の項目は「その他」を除き、いずれも全国平均から 10 ポイント前後低くなっており、特に「文化芸術活動」は－ 17 ポイントと大幅に低い。「高校で学んだ内容の維持・再学習」については、秋田県の場合、高等部在籍生は 16.2%に対し、卒業生は 7.7%と低い。一方、「余暇・レクリエーション活動」は高等部在籍生 17.5%に対して卒業生は 30.3%となっており、在籍時学習活動に充てていた時間を余暇・レクリエーション活動に振り分けていると考えられる。「社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」「職業生活に関わる学習」等、社会の中でよりよく生きるための学習への取組は卒業生の方が積極的である。

○地区別

地区によって取組に差が見られる。各分野における平均に比べ、取り組む割合が高い市町村は次の通り。県北（大館・鹿角・小坂）：「職業生活に関わる学習」、能代山本（能代・藤里・三種・八峰）：「余暇・レクリエーション活動」、北秋田（北秋田・上小阿仁）：「個人の生活／社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」、中央（秋田市等）：「健康の維持・増進、スポーツ活動」、大曲仙北（大仙・仙北・美郷）：「文化芸術活動」、横手：「余暇・レクリエーション活動」「仲間づくり・人間関係等に関する学習」、湯沢雄勝（湯沢・羽後・東成瀬）：「学校で学んだ内容の維持・再学習」「健康の維持・増進、スポーツ活動」。由利本荘にかほにおいては、各回答分野のいずれにおいても取り組む割合が高くない。県北地区・中央地区・県南地区で見ると、県南地区が全体として生涯学習に取り組む割合が高い。各地域における障害者団体の取組に左右される傾向があるように考えられる。

○障害者手帳別

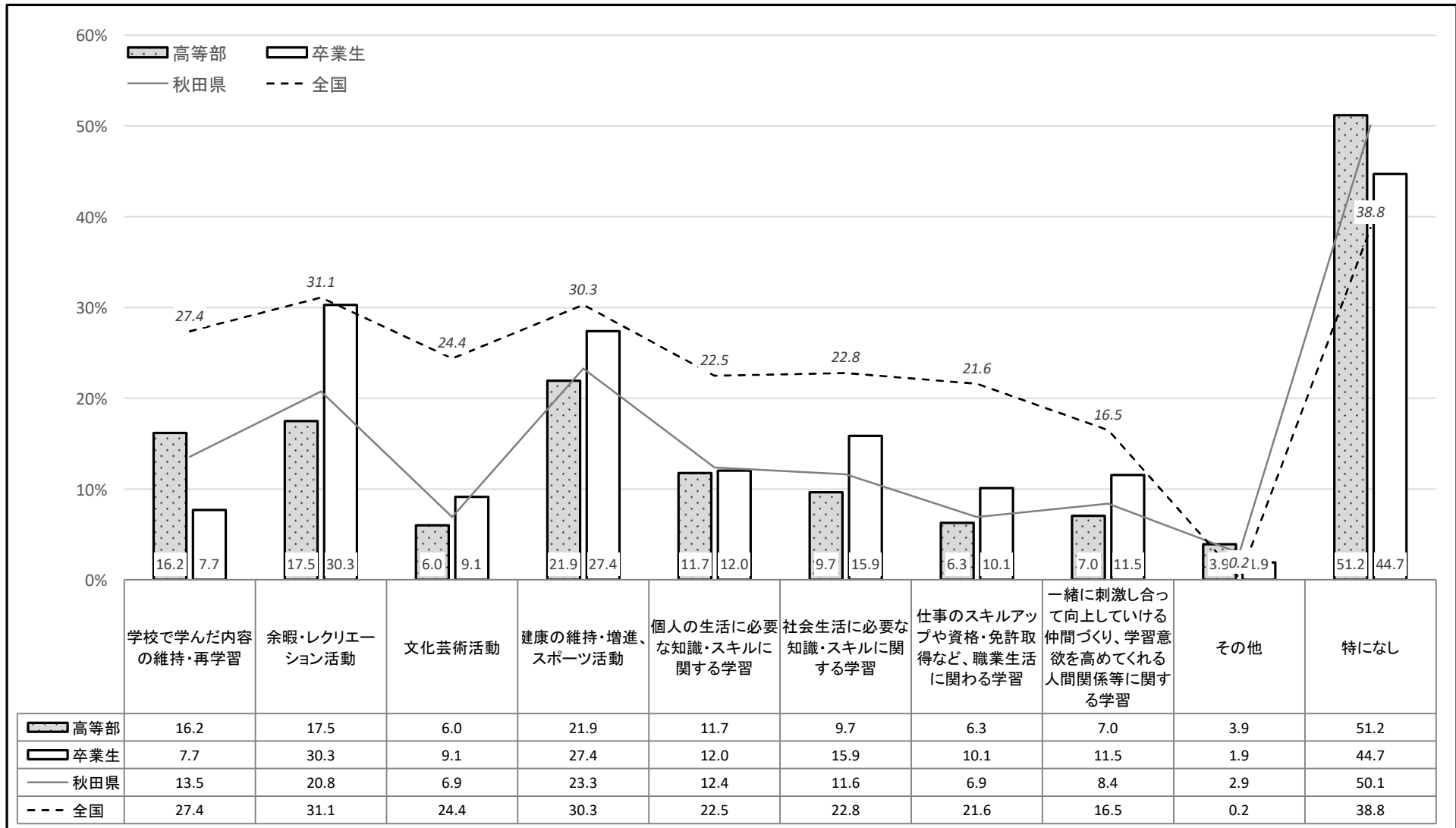
身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳等の手帳所有別で見た場合、生涯学習に取り組む割合が一番高いのは療育手帳所有者である。次に割合が高いのが精神障害者保健福祉手帳所有者、一番割合が低いのは身体障害者手帳所有者である。身体障害者手帳所有者の生涯学習経験は全般的に低く、特に「文化芸術活動」「健康の維持・増進、スポーツ活動」「個人の生活に必要な知識・スキルに関する学習」の割合が低い。視覚・聴覚障害や肢体不自由等、学習を行う場所へ行くことに困難を感じるのが原因の一つと考えられる。一方、精神障害者保健福祉手帳所有者は、「学校で学んだ内容の維持・再学習」や「余暇・レクリエーション活動」では参加割合が最も高いが、「社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」「職業生活に関わる学習」「仲間づくり、人間関係等に関する学習」への参加割合が低い。

●「生涯学習の経験」全体分析

秋田県の場合、全国と比べて「生涯学習の経験」に回答している割合＝少しでも生涯学習を継続している割合が全体的に低い。個別の質問項目では、「余暇・レクリエーション活動」「健康の維持・増進、スポーツ活動」に取り組む割合が高く、「文化芸術活動」「個人の生活／社会生活に必要な知識・スキルに関する学習」「職業生活に関わる学習」「仲間づくり、人間関係に関する学習」に取り組む割合が低い。これらの割合は、県内各地域における障害者支援等を行う取組の動向にも左右されると考えられる。また、身体障害者手帳の所有者は他の手帳所有者と比べると生涯学習に取り組む割合が低い。結論として、学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等に取り組もうとする個人の意識や、それらに取り組みやすくするための社会の仕組み・枠組みが十分ではないと考えられる。

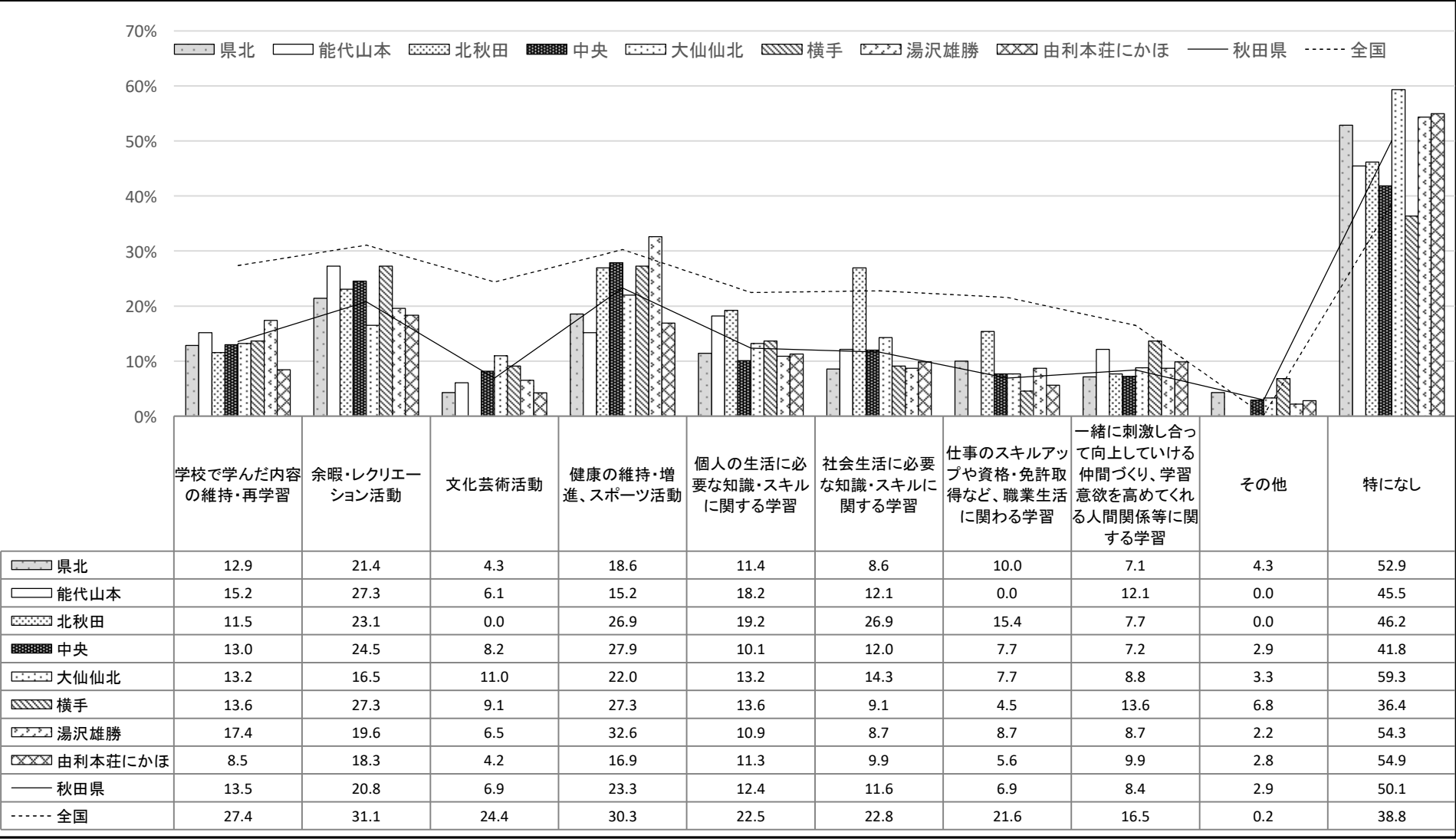
■生涯学習の経験(在籍状況別)

お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)で続けていることは何ですか。(複数回答可)



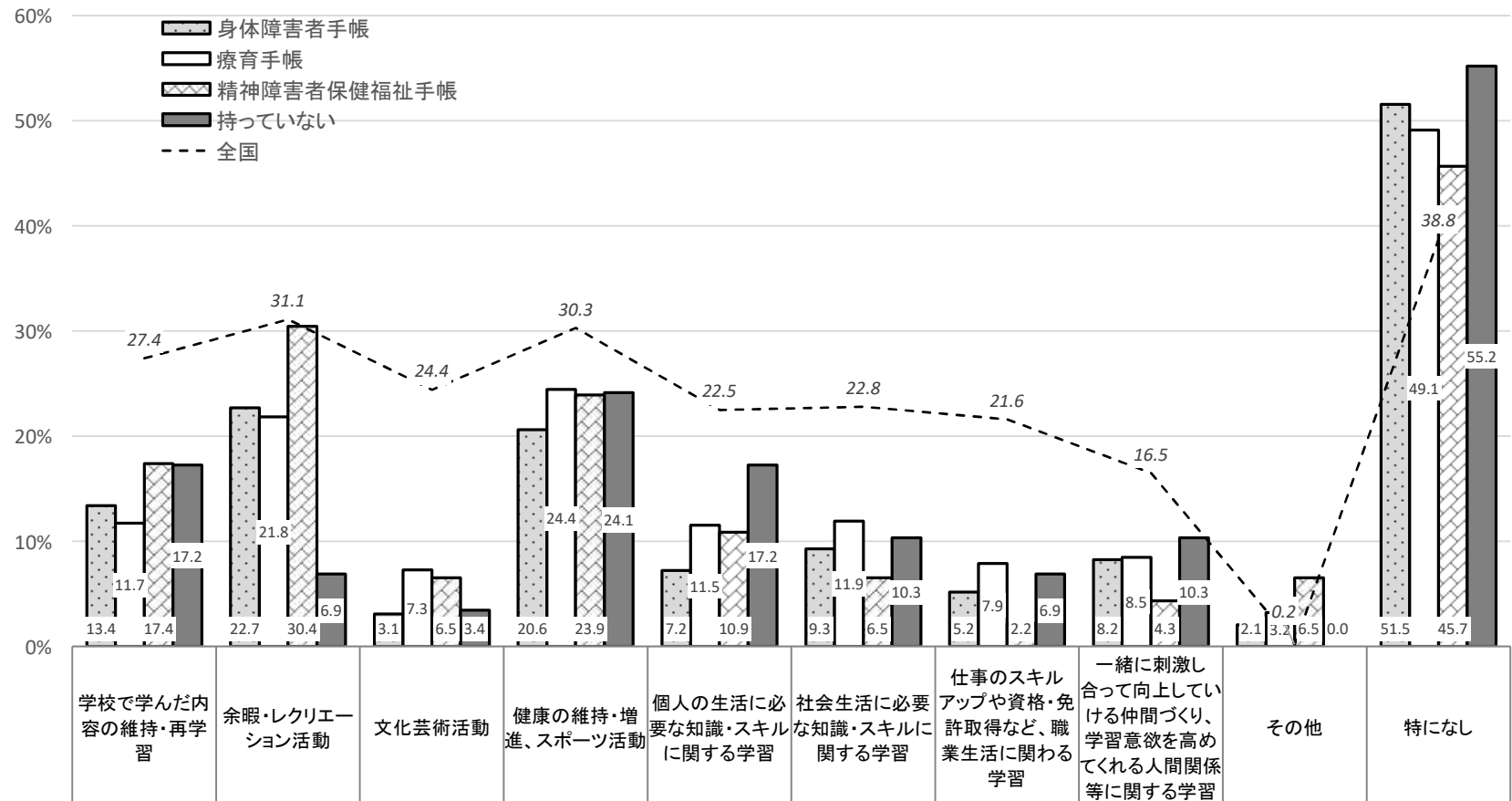
生涯学習の経験(地区別)

お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)で続けていることは何ですか。(複数回答可)



■生涯学習の経験(障害者手帳別)

お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)で続けていることは何ですか。(複数回答可)



身体障害者手帳	13.4	22.7	3.1	20.6	7.2	9.3	5.2	8.2	2.1	51.5
療育手帳	11.7	21.8	7.3	24.4	11.5	11.9	7.9	8.5	3.2	49.1
精神障害者保健福祉手帳	17.4	30.4	6.5	23.9	10.9	6.5	2.2	4.3	6.5	45.7
持っていない	17.2	6.9	3.4	24.1	17.2	10.3	6.9	10.3	0.0	55.2
--- 全国	27.4	31.1	24.4	30.3	22.5	22.8	21.6	16.5	0.2	38.8

■「生涯学習を実施した理由」に関する分析

○在籍状況別

生涯学習を実施した理由として、高等部生・卒業生ともに、「様々な経験を通じて成長するため」「他の人と交流したり、友人を得るため」と回答した割合が高く、全国平均を大きく上回っている。一方、「地域や社会におけるボランティア活動などに生かすため」「教養を深めるため」と回答した割合は、全国平均においても低い。秋田県の場合、その割合は高等部・卒業生どちらもさらに低い。これらを含め見ていくと、生涯学習を続ける理由は大きくA群【自己成長・健康増進・交流・豊かな人生設計】とB群【生活課題解決・仕事の必要性・地域還元・教養の深化】とに分けられ、二極化が進んでいることがわかる。このような傾向から、①自己成長を望んではいるが、生涯学習と生活課題解決とが直結しない一方、②交流・つながりを求めるというニーズが強いことが伺える。

○地区別

生涯学習の実施理由について、全県の平均と比べ、差が大きいのが北秋田市であった。全県平均と比べて、「暮らしの中で生じる課題の解決を図るため」は20ポイント以上高く、一方「様々な経験を通して成長するため」は20ポイント以上低かった。北秋田市は他地区よりも、生活課題解決に結び付く生涯学習を展開していることが、数値として現れたのかもしれない。これに対し、地域間格差が少ない回答もあった。「教養を深めるため」は全県平均が15.9%と低く、地区別で見ても最大23.8%・最小12.1%と差はそれほど大きくなく、取組自体が少ないまま定着してしまっている状況が伺える。

○障害者手帳別

グラフを元に全県平均を計算し、各項目について全県平均との差を比較した。その結果、全県平均と比べて、「人生を豊かにするため」を選んだ身体障害者手帳所有者の割合が最も高く、「人生を豊かにするため」を選んだ手帳を所有しない者の割合が最も低かった。それぞれの質問内での、手帳所有者による割合の開きを見ると、「人生を豊かにするため」が24.6%と突出して多かった。これらのことから、生涯学習が豊かな人生設計に関係しているという捉え方が、手帳の有無によって異なることが伺える。

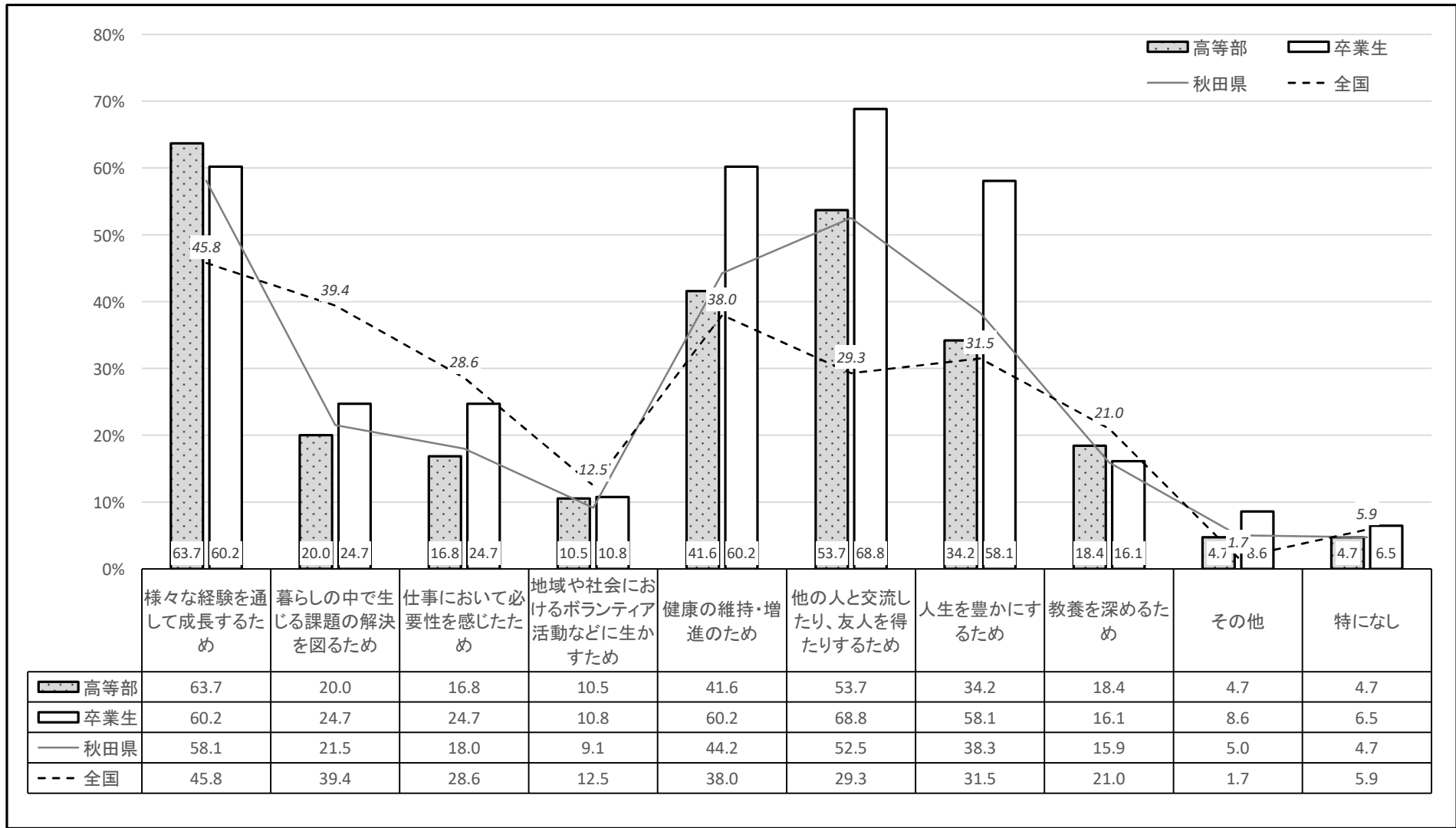
逆に差が小さいのは、「暮らしの中で生じる課題の解決を図るため」「仕事において必要性を感じたため」「地域や社会におけるボランティア活動などに生かすため」であった。つまり、これら3つの理由に関しては障害者手帳別・有無別であまり差異はないと考えられる。また、これら理由の平均値は共通して全国平均値より低いことから、手帳別・有無別に関係なく、これらを主とした生涯学習のニーズが低いと考えられる。

●「生涯学習を実施した理由」全体分析

高等部生・卒業生ともに生涯学習に自己成長を求める傾向がみられる。卒業生になると交流・健康増進・豊かな人生設計を求める傾向が強く、地域還元といった地域の一員として生涯学習を継続する意識は相対的に低い。地区別では格差がそれほど認められず、特に教養を理由とした場合それが顕著であった。障害者手帳別では、質問項目間でのばらつきが大きかったのは豊かな人生設計理由で、所有していない者の低さが際立った。逆に差が小さいのは生活課題解決・仕事の必要性・地域還元である。また、これらに共通しているのは平均値がいずれも全国平均値より低いことである。このように、各種別を問わず、生涯学習を他者との交流目的として高く求める一方で、生活に直面した課題や地域課題への解決に結び付けることに関しては、生涯学習に求めようとはしない傾向が伺えた。また全国値と比べるとこの二極化はさらに顕著であるといえる。

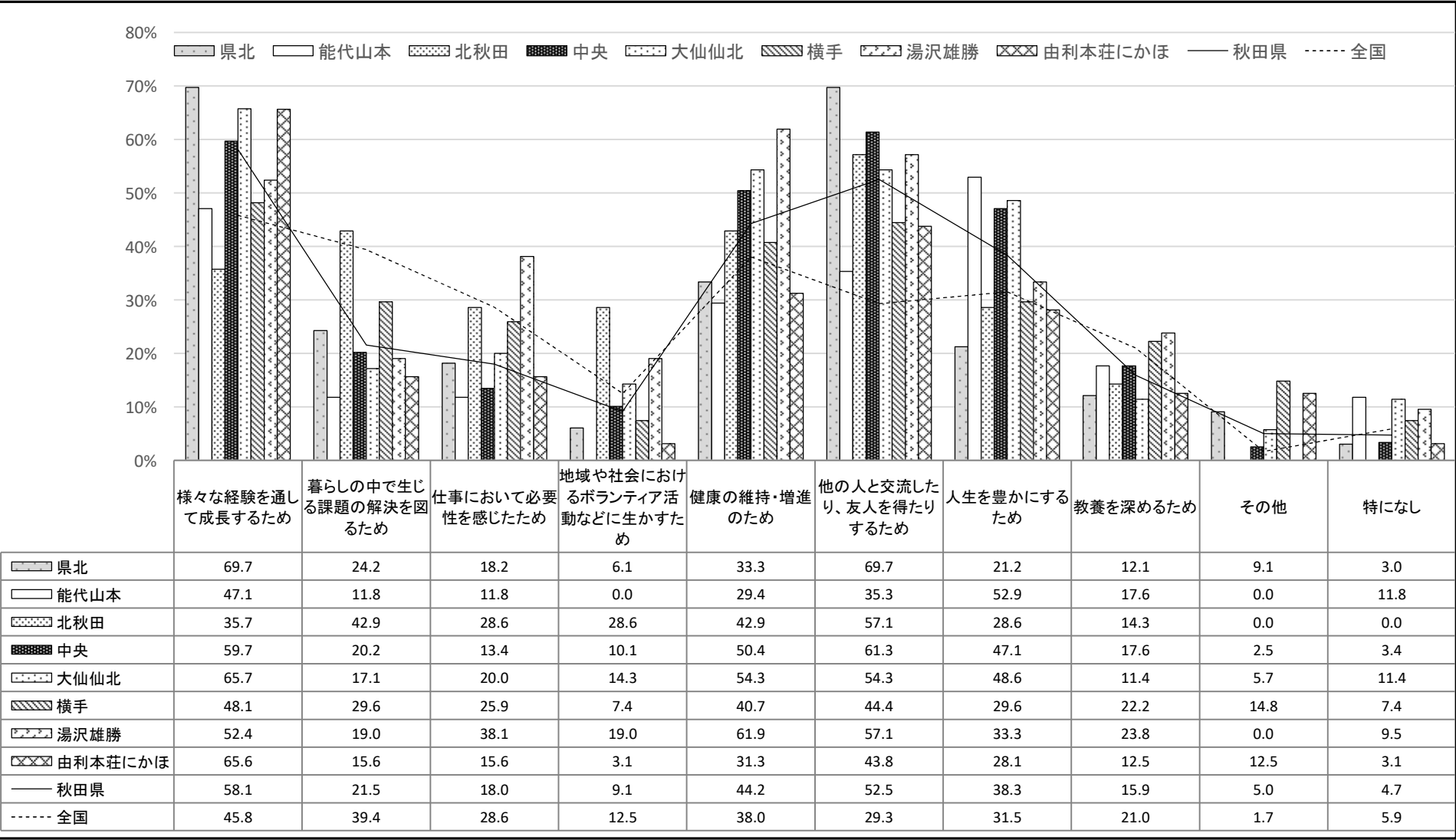
生涯学習を実施した理由（在籍状況別）

お子さんが、生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）を続けている理由は何ですか。（複数回答可）



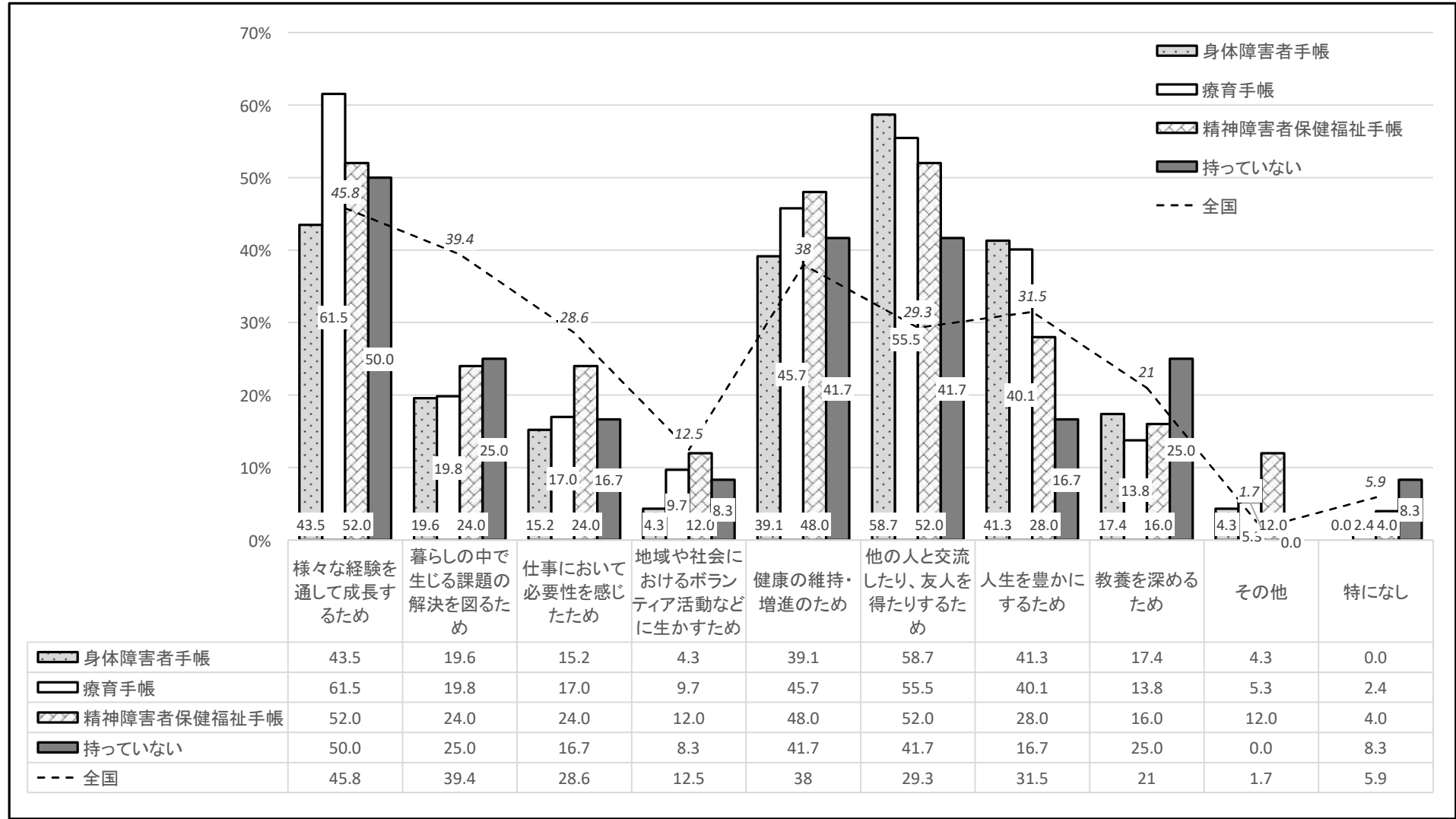
生涯学習を実施した理由(地区別)

お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)を続けている理由は何ですか。(複数回答可)



■生涯学習を実施した理由(障害者手帳別)

お子さんが、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)を続けている理由は何ですか。(複数回答可)



■「学習形態」に関する分析

○在籍状況別

高等部生よりも卒業生が、多くの学習形態を選択して利用している割合が総じて高い。これは、卒業した後に学習機会の選択肢が拡大している状況を示している。しかし、その中で「障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動」の割合が、高等部生よりも 33.8 ポイント高く、突出している。このように、卒業生にとっての生涯学習が障害福祉サービスの中で続けられる機会が多い現状は、障害者の生涯学習が障害福祉の中だけで実施（完結）されていると見ることもできる。

その反面で、高等部生では「自宅での学習活動」の割合が卒業生よりも 4.9 ポイント、「学校の講座や教室」の割合が 6.9 ポイント高くなっている。卒業後、より充実した学習を継続し、学習機会選択、学習形態選択の可能性を広げるためには、在学中に多くの学習機会を体験しておくことも有効である。そのために社会教育が果たす役割は大きい。

○地区別

県北地域と県南地域において、「自分の学校や同窓会組織等が主催する学びの場」を活用している割合に大きな差がある。同窓会活動の頻度や内容に違いがあるのだろうか。学校における卒業後の学習機会確保のケアという観点からも興味深い。

県央地域において、「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育」を活用している割合が突出して高い。これは、他の地域と比べて、秋田市におけるカルチャーセンターやスポーツクラブの設置数が多いためと思われる。その反面で、県央地域では「障害福祉サービス事業所等の講座、余暇活動」を利用する割合が低い。

当然ながら、環境によって生涯学習の機会選択が影響を受ける端緒な例であると言える。大仙仙北・横手地域において、「図書館・博物館・美術館」を利用している割合が高いが、これについても同様のことが推察される。

○障害者手帳別

全体的に「自宅での学習活動」「テレビやラジオ」「インターネット」を利用して生涯学習に取り組む割合が高くなっているが、その中でも「身体障害者手帳」を所有している者の利用割合は、「自宅での学習活動」33.3 %「テレビやラジオ」35.6 %「インターネット」37.8 %と特に高くなっている。これは、便利なツールを積極的に利用しての結果であるのか、移動の困難さゆえに外出を控えている状況を示した結果であるのかは、別の検証が必要である。

それ以外では、「精神障害者保健福祉手帳」を所有している者の「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育」を利用して生涯学習に取り組む割合が、32.0 %と突出して高い。精神障害は周囲から見えにくい障害であるため、カルチャーセンターやスポーツクラブを健常者と同じように利用しやすいことと、比較的外出しやすい者が多いという背景が影響していると推測できる。

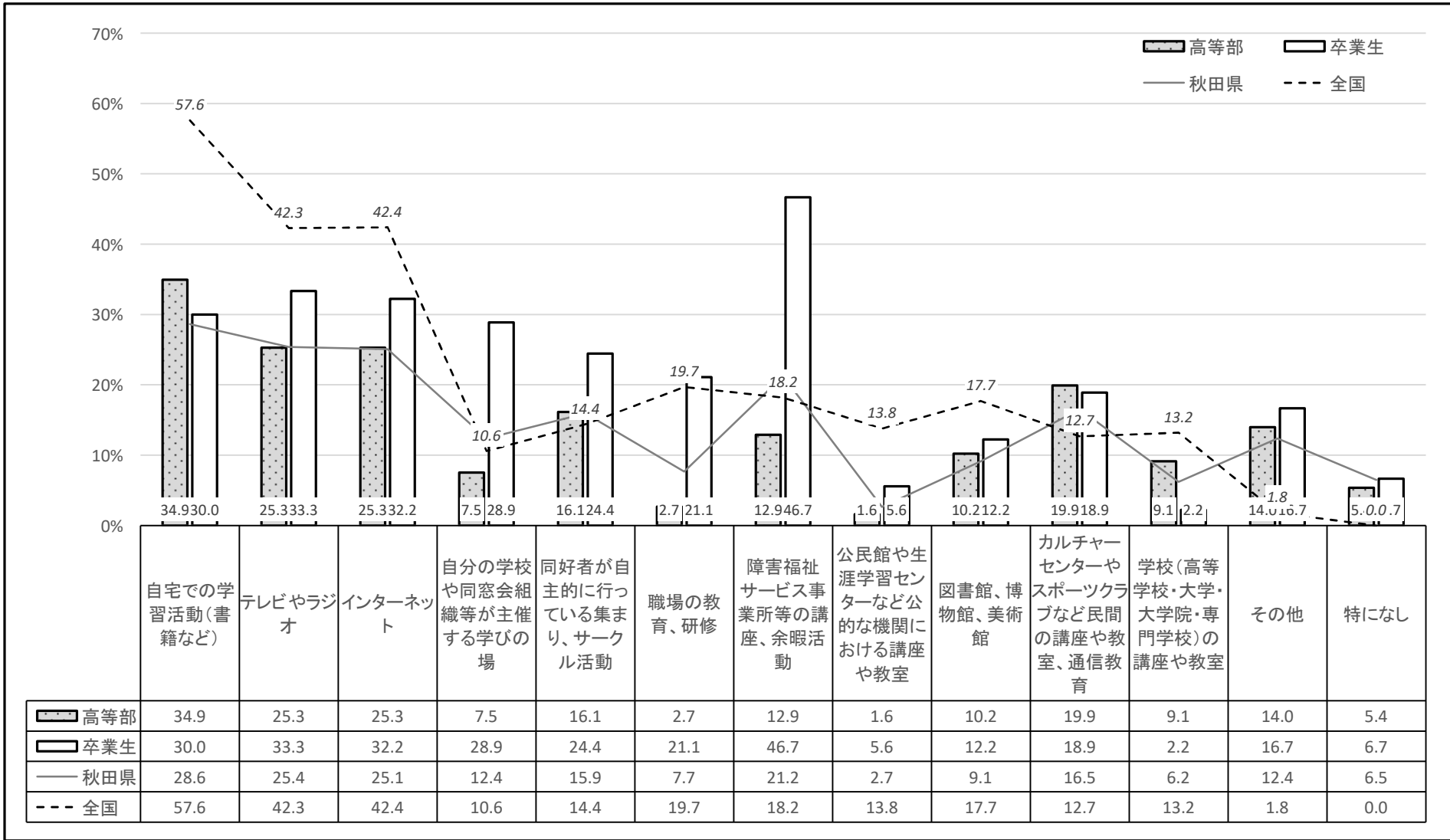
●「学習形態」全体分析

多くの学習形態において、その選択に全国平均と大きな差がない中、秋田県では「テレビやラジオ」で 16.9 ポイント、「インターネット」で 17.3 ポイント低い割合であった。それと連動するかのようになり「自宅での学習活動」が 29.0 ポイント低い割合になっている。昨今の社会情勢を考えると、「自宅にいながら」という視点が重要になり、秋田県でも今後増加することが見込まれるが、これは同時に障害程度の重い方の生涯学習の充実にもつながることが期待できる。その一方で、外出することによって学習機会選択、学習形態選択の可能性が広がるという観点からは、行動援護や同行援護、移動支援の充実が課題であると考えられる。

また、回答中で最も低い割合だった学習形態は「公民館や生涯学習センターなど、公的な機関における講座や教室」2.7 %であった。これは、全国平均の 13.8 %と比べても明らかに低い割合である。「障害者の生涯学習」が、身近な公的サービスとなっていない状況が示されている。

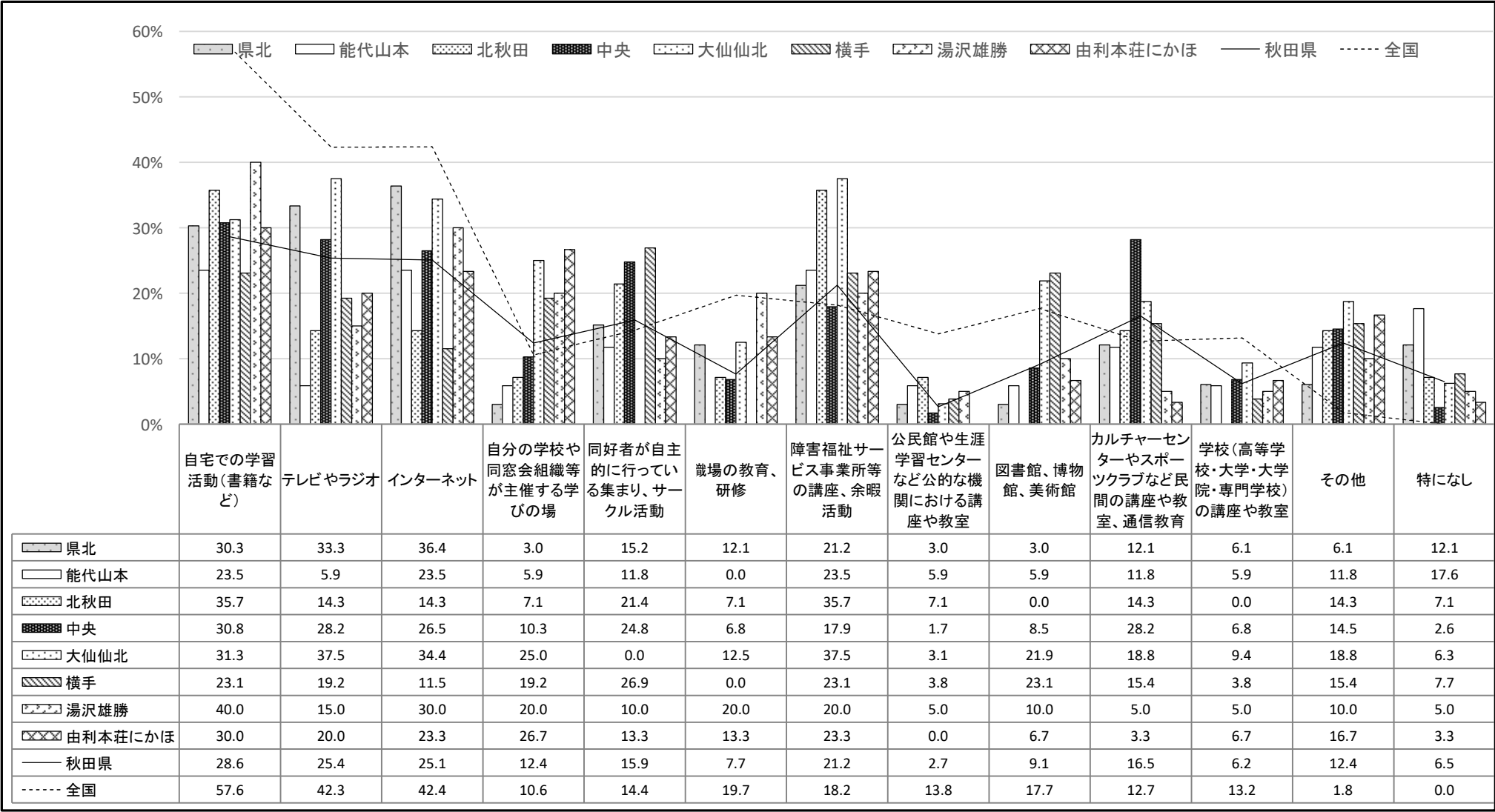
■学習形態(在籍状況別)

お子さんは、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)をどのようにして続けていますか。(複数回答可)



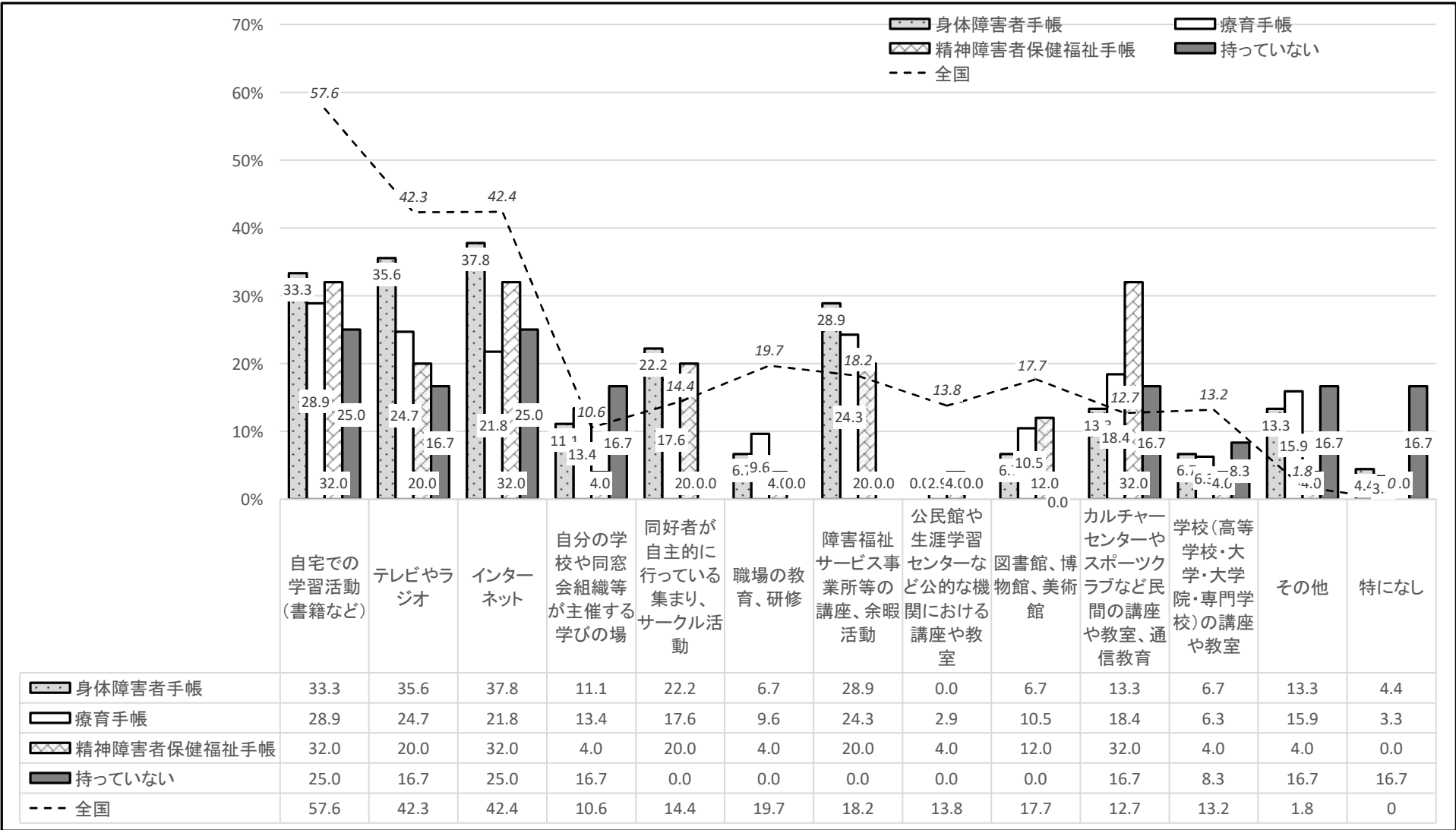
■学習形態(地区別)

お子さんは、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)をどのようにして続けていますか。(複数回答可)



■学習形態(障害者手帳別)

お子さんは、生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)をどのようにして続けていますか。(複数回答可)



■「学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか」に関する分析

○在籍状況別

必要な情報に関しては、全ての設問で全国平均を下回っている。特に、技術に関する情報が「ない（あまりない）」の回答は高等部生が62%、卒業生が53%となっている。場や機会に関しては、高等部生、卒業生ともに「ない（あまりない）」との回答が60%近い。「情報、場、機会、プログラム」全てにおいて「ある（とてもある）」が全国平均を大きく下回り、各項目で7～12ポイント程度の差が見られる。「身に付けたい技術を学べる機会」では、「ある（とてもある）」においては卒業生が5ポイントほど高い。就業・生活支援センターや福祉事業所が実施する学びの機会、民間のパソコン教室、スポーツサークル等を利用する方が一定数いるためだと思われる。それでも、全体としては18%と、数値としてはかなり低い。知りたいこと、技術、芸術文化、体を動かすことに関する情報では、在校生の方が「ある（とてもある）」の回答が3～5ポイント程度多い。学校からの配付物や本人、保護者同士のネットワークにより、情報を得ていると推察できる。

○地区別

学習の場、機会が身近に「ある（とてもある）」との回答は、各項目で全国平均（に対して10～29ポイントほど県内各地区の方が低くなっている。これは、情報の発信、学びの場やプログラムの創出を改めて考え直し、変えてゆく必要性を示しているとも言える。個別に見ると、能代山本、北秋田、大仙仙北地区では、情報、場、プログラムが「ない（あまりない）」という回答が60%近くを示している。様々な情報の「発信」や「共有」を高め、支援学校、地域、各団体の「つながり」が望まれる。また、能代山本、湯沢雄勝地区は、仲間と学び合う情報、場、プログラムを「必要としていない」という回答を選んだ人が10%以上を示している。この数字に関しては、個々の聞き取りなど詳しい分析が必要である。

○障害者手帳別

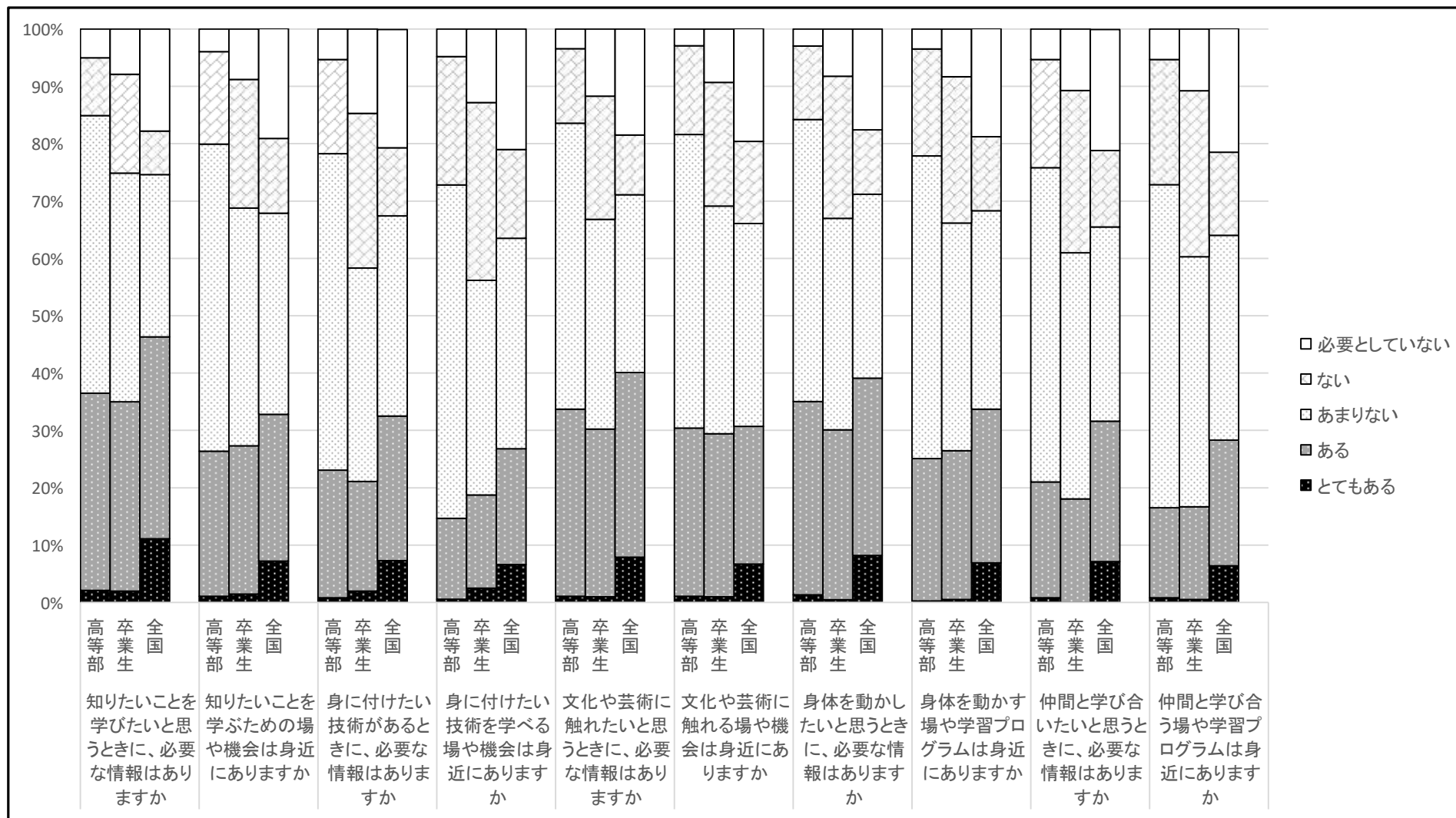
精神障害の方の特徴は、文化芸術の情報が「ある（とてもある）」という回答が50%と高い。学びたいこと、技術、身体を動かすこと全てにおいても情報がある、と答えている割合が他の障害種に比べ高い。精神障害の方は知的障害を伴わない場合が多く、メディアリテラシーが高いため、自分で情報を探せる方が多い。他の特徴としては、仲間と学び合うことに関する情報、学習プログラムが「ある（とてもある）」、「必要としていない」と答える方がどちらも15%程度となっている。このことは就業・生活支援センターへのヒアリング調査で得た、「ピアカウンセリング等の学びが効果的である一方、個別支援を望む傾向もある」という結果とも合致する。身体障害の方は全ての項目で他の障害種の方と比べ「ある（とてもある）」と回答する割合が低い。特に、身に付けたい技術を学べる場や機会が「ある（とてもある）」は9%となっている。生涯学習の経験の有無に関わらず、約半数の方が物理的バリアを感じており、機会や場を「必要としていない」と答える割合が他の障害種に比べ高い。個々のアンケート記述からは支援内容や施設設備等に関する記載が多い。そうしたことから、学ぶ場の選択肢が少ないと考える方が複数いるのではないかと推察される。ニーズの多様性から、学ぶの場を創出する観点も重要だが、既存の学習の場に「学びたいものはないか、どうしたら参加できるか」という視点で見直す作業も有用だと考える。

●「学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか」全体分析

全国平均と県平均のデータを比べてみると、情報、学ぶ場、学習プログラムに対して「ある（とてもある）」の回答は10ポイント程度低い数値を示している。反対に「ない（あまりない）」に関しては、県平均が全国平均より約20ポイント高い。個々の記述からは情報の発信を欲していたり、学び合う場や学習プログラムを求めたりしていることが伺える。地区別の項目でも触れたが、情報の発信、場、学習プログラムの創出には、特別支援学校、就業・生活支援センター、公民館などで行われている学びの機会、情報提供のあり方について、様々な立場の担当が集い、時間を掛けて仕組みを構築していくことが効果的だと考える。

■学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか（在籍状況別）

お子さんの生涯学習（学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等）について、あてはまるのを一つ選んでください。



お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



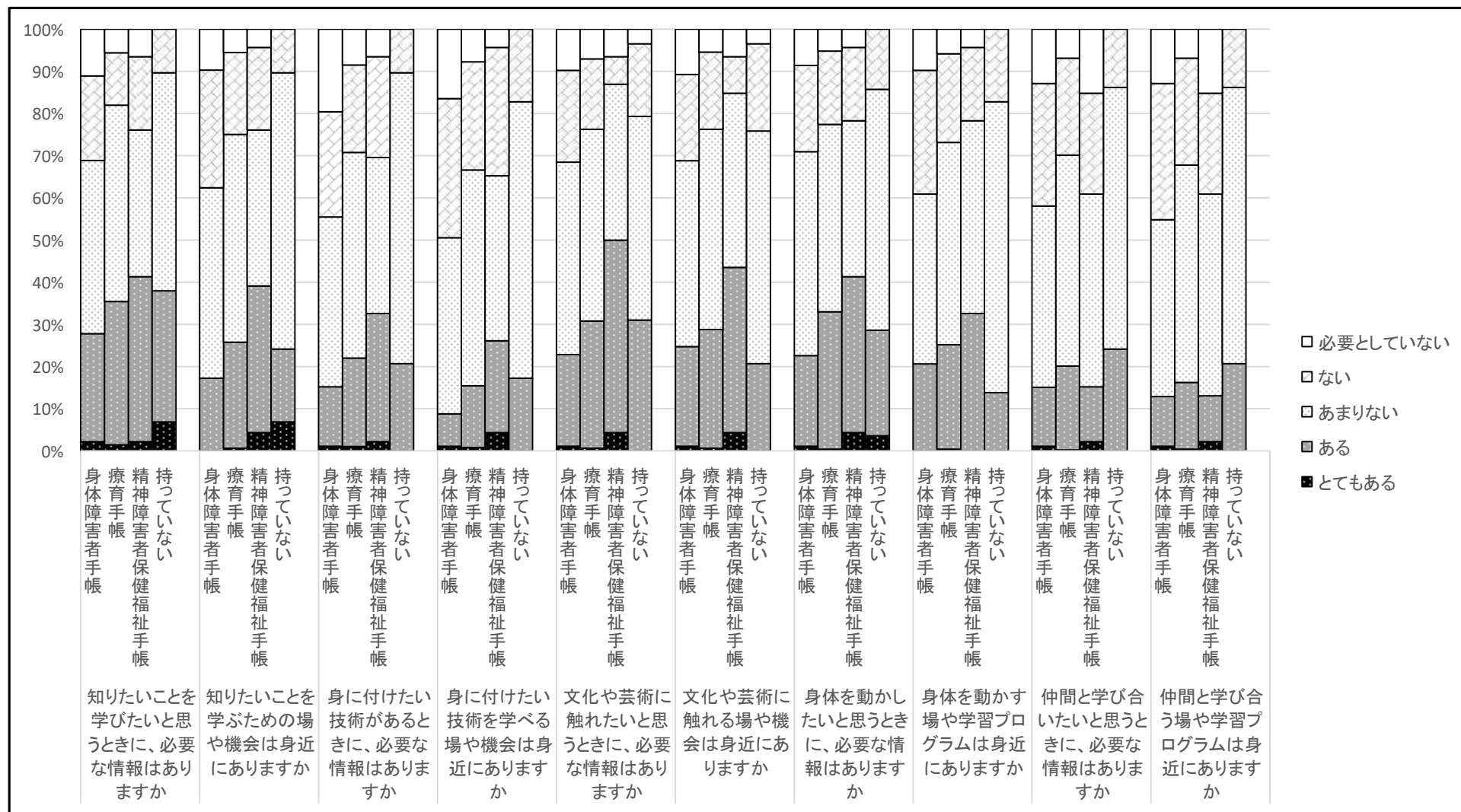
■学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか(地区別)

		とてもある	ある	あまりない	ない	必要としていない
知りたいことを学びたい と思うときに、必要な情報 はありますか	県北	2.9	44.3	34.3	12.9	5.7
	能代山本	3.0	27.3	54.5	3.0	12.1
	北秋田	4.2	33.3	54.2	8.3	0.0
	中央	2.0	33.8	47.5	13.2	3.4
	大仙仙北	0.0	25.3	51.6	13.2	9.9
	横手	2.4	38.1	35.7	14.3	9.5
	湯沢雄勝	0.0	40.0	37.8	11.1	11.1
	由利本荘にかほ	4.4	30.9	44.1	17.6	2.9
	全国	11.1	35.2	28.3	7.6	17.8
身に付けたい技術があ るときに、必要な情報は ありますか	県北	0.0	27.1	54.3	11.4	7.1
	能代山本	0.0	12.1	57.6	18.2	12.1
	北秋田	4.2	16.7	62.5	16.7	0.0
	中央	1.0	22.1	51.0	20.1	5.9
	大仙仙北	1.1	16.9	43.8	24.7	13.5
	横手	0.0	27.9	46.5	16.3	9.3
	湯沢雄勝	2.2	24.4	44.4	15.6	13.3
	由利本荘にかほ	1.4	17.4	36.2	34.8	10.1
	全国	7.3	25.2	34.9	11.9	20.6
文化や芸術に触れたい と思うときに、必要な情報 はありますか	県北	0.0	25.7	51.4	15.7	7.1
	能代山本	3.0	21.2	51.5	12.1	12.1
	北秋田	0.0	25.0	54.2	16.7	4.2
	中央	1.0	35.8	42.6	16.2	4.4
	大仙仙北	2.2	20.2	52.8	14.6	10.1
	横手	0.0	46.5	34.9	14.0	4.7
	湯沢雄勝	0.0	34.8	32.6	21.7	10.9
	由利本荘にかほ	1.4	30.0	44.3	21.4	2.9
	全国	7.9	32.2	31.0	10.4	18.5
身体を動かしたいと思 うときに、必要な情報はあ りますか	県北	1.4	31.9	47.8	11.6	7.2
	能代山本	0.0	24.2	51.5	15.2	9.1
	北秋田	0.0	37.5	45.8	12.5	4.2
	中央	1.0	34.5	43.8	16.7	3.9
	大仙仙北	0.0	24.7	46.1	25.8	3.4
	横手	0.0	39.5	39.5	18.6	2.3
	湯沢雄勝	0.0	37.8	37.8	15.6	8.9
	由利本荘にかほ	2.9	25.7	48.6	18.6	4.3
	全国	8.2	30.9	32.1	11.2	17.6
仲間と学び合いたい と思うときに、必要な情報 はありますか	県北	0.0	15.7	55.7	20.0	8.6
	能代山本	0.0	15.2	57.6	12.1	15.2
	北秋田	0.0	20.8	54.2	16.7	8.3
	中央	0.5	20.2	51.7	23.2	4.4
	大仙仙北	1.1	16.9	47.2	28.1	6.7
	横手	0.0	18.6	53.5	25.6	2.3
	湯沢雄勝	0.0	28.9	35.6	20.0	15.6
	由利本荘にかほ	0.0	18.6	47.1	25.7	8.6
	全国	7.1	24.5	33.9	13.3	21.1

		とてもある	ある	あまりない	ない	必要としていない
知りたいことを学ぶた めの場や機会は身近にあ りますか	県北	1.4	31.4	50.0	12.9	4.3
	能代山本	3.0	15.2	63.6	9.1	9.1
	北秋田	0.0	29.2	45.8	20.8	4.2
	中央	1.0	25.5	51.0	19.1	3.4
	大仙仙北	0.0	21.1	48.9	20.0	10.0
	横手	2.3	34.9	39.5	16.3	7.0
	湯沢雄勝	2.2	23.9	52.2	10.9	10.9
	由利本荘にかほ	1.4	21.4	42.9	31.4	2.9
	全国	7.2	25.6	35.1	13.0	19.2
身に付けたい技術を学 べる場や機会は身近に ありますか	県北	0.0	23.2	52.2	15.9	8.7
	能代山本	0.0	15.2	54.5	21.2	9.1
	北秋田	4.2	12.5	50.0	33.3	0.0
	中央	1.0	14.8	52.2	26.1	5.9
	大仙仙北	0.0	12.5	48.9	29.5	9.1
	横手	2.3	16.3	55.8	16.3	9.3
	湯沢雄勝	2.2	15.2	45.7	23.9	13.0
	由利本荘にかほ	1.5	8.8	47.1	35.3	7.4
	全国	6.6	20.2	36.7	15.5	21.0
文化や芸術に触れる場 や機会は身近にありま すか	県北	0.0	21.4	54.3	17.1	7.1
	能代山本	0.0	27.3	48.5	15.2	9.1
	北秋田	0.0	29.2	41.7	25.0	4.2
	中央	1.5	31.2	46.0	17.8	3.5
	大仙仙北	2.3	25.3	48.3	16.1	8.0
	横手	0.0	37.2	46.5	11.6	4.7
	湯沢雄勝	0.0	28.3	39.1	26.1	6.5
	由利本荘にかほ	1.4	28.6	47.1	20.0	2.9
	全国	6.7	24.0	35.4	14.3	19.7
身体を動かす場や学習 プログラムは身近にあり ますか	県北	0.0	22.9	52.9	17.1	7.1
	能代山本	0.0	12.1	57.6	15.2	15.2
	北秋田	0.0	37.5	37.5	20.8	4.2
	中央	0.5	25.9	45.8	22.9	5.0
	大仙仙北	0.0	17.0	54.5	25.0	3.4
	横手	0.0	34.9	41.9	20.9	2.3
	湯沢雄勝	0.0	26.1	45.7	19.6	8.7
	由利本荘にかほ	1.4	28.6	47.1	21.4	1.4
	全国	6.9	26.8	34.6	12.9	18.9
仲間と学び合う場や学 習プログラムは身近に ありますか	県北	0.0	14.3	58.6	20.0	7.1
	能代山本	0.0	9.1	63.6	9.1	18.2
	北秋田	4.2	16.7	45.8	33.3	0.0
	中央	0.5	16.7	52.2	24.6	5.9
	大仙仙北	1.1	12.5	51.1	30.7	4.5
	横手	0.0	18.6	48.8	27.9	4.7
	湯沢雄勝	0.0	19.6	43.5	19.6	17.4
	由利本荘にかほ	0.0	17.4	46.4	29.0	7.2
	全国	6.4	21.9	35.7	14.5	21.6

■学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか(障害者手帳別)

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



■「生涯学習に関する課題」に関する分析

○在籍状況別

大きな特徴として、学ぶ意欲、充てる時間、出かける気持ち、周囲の理解は全国平均を上回っている。また、費用、物理的なバリアへの負担感は全国を下回る。しかし、情報、機会、仲間に関しては「ない（あまりない）」が 60 %を超えている。つまり「意欲があり、負担も感じないが、情報、機会、仲間が不足している」ということが課題となっている。

特別支援学校と就業・生活支援センターを対象にしたヒアリング調査からは、能代公民館主催の行事に特別支援学校の生徒、就業・生活支援センターの登録者が一緒に参加できた例、大曲支援学校せんぼく校が仙北市教育委員会生涯学習課と連携し、わらび座劇団員との体験学習を実施した事例があった。しかし複数の所から予算、人的な支援の不足、情報が全ての方に届かないなどの課題について聞く事ができた。

○地区別

生涯学習の機会、情報に関しては、全域で「ある（とてもある）」が 30 %以下となっており、全国平均を下回っている。県北地区、由利本荘にかほ地区では、他地区と比べて情報、機会、そして仲間に不足を感じている傾向がある。

外出に困難を抱える地区（能代山本 55 %、由利本荘にかほ 38 %）は、手助けしてくれる支援も不足（能代山本 20 %、由利本荘にかほ 39 %）を感じる傾向がある。

どの地区でも情報、機会、仲間が不足しているが、相談する人、支援、理解についてはある程度充実している。これは支援が個別化している事を指していると思われ、同時に仲間とともに学ぶ機会へのニーズが伺える。

○障害者手帳別

全ての障害種で情報、機会、仲間の不足を感じている割合が高い。その中でも特に、身体障害の方が物理的バリアと外出自体の困難さに関して高い数値を示した。具体的には施設の設定備面、交通手段に関する記述が多数見られる（トイレ、段差、狭さ、駐車場、ベッド、公共交通機関、アクセス）。

自由記述には、「公共の場利用において理解が周りから得られない」「付き添いが必要で、他者との意思疎通が難しい。親は子どもとともに生きられない。安心できる環境を少しでも早く、多く、整えてほしい」といった意見もある。当事者の声を生涯学習の担当者、福祉担当者などが直接伝え合い、協働することが、こうしたバリアの軽減につながると思われる。

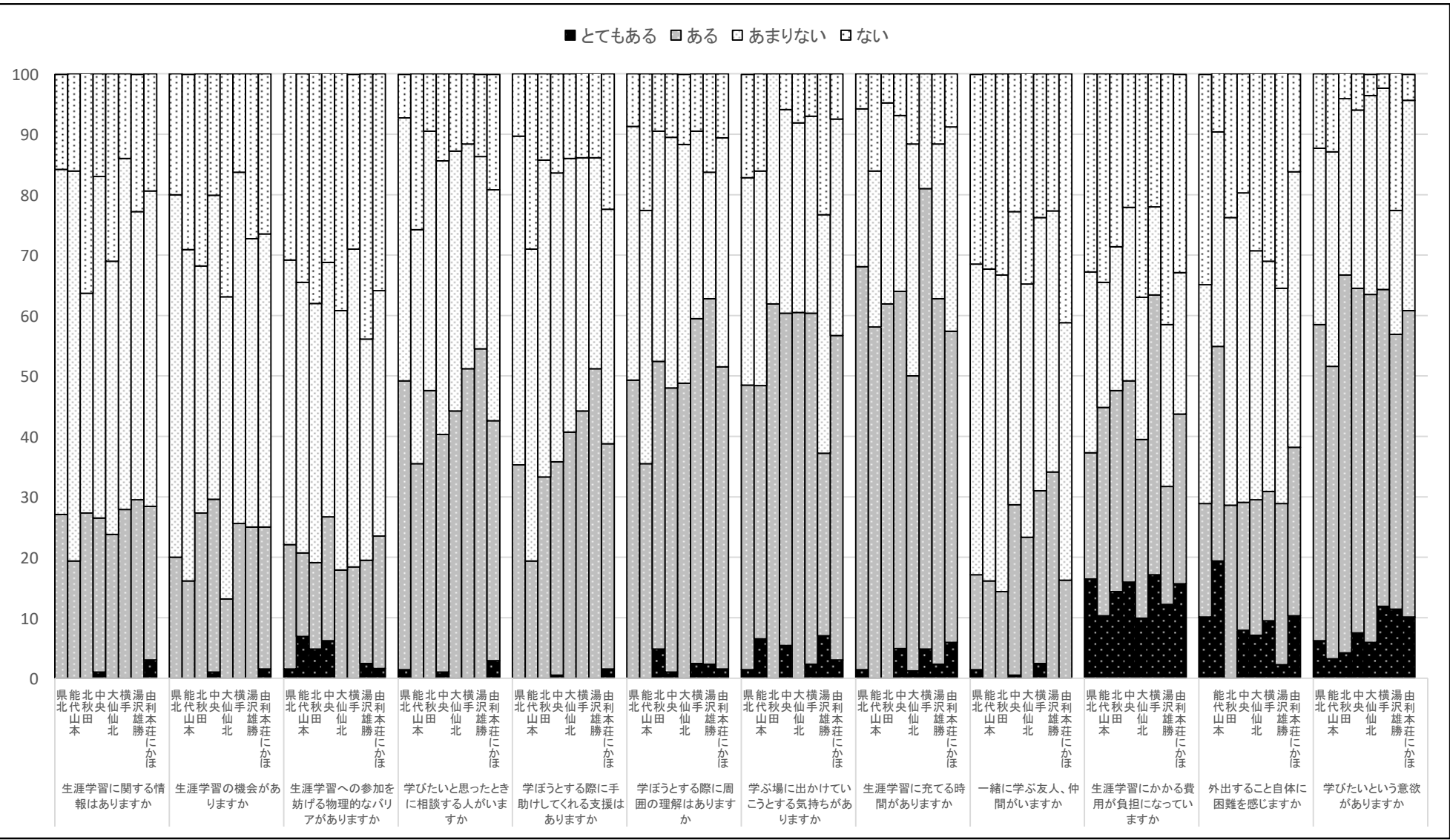
●「生涯学習に関する課題」全体分析

在籍状況、地区、障害者手帳ともに最も課題となっている部分は「情報、機会、仲間」の3点であった。このうち情報については、施設設備面の情報、学習機会など、内容について具体的に記載されているものが多い。しかし、どこに、どうやって、といった記載はない。これは、生涯学習に関する情報を得る方法自体が少ないことを表しているのではないか。

物理的バリア、心理的なバリアについては、生涯学習の観点だけでなく、日常生活で生じているものも多い。学習の機会が充実するためには、複数のサポートの組合せが必要なケースも予想される。誰が、何のサポートを行うことができるか、情報を集約させる仕組みや担当者同士話し合う機会を創出することが、バリアの軽減に効果的だと思われる。

生涯学習に関する課題(地区別)

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



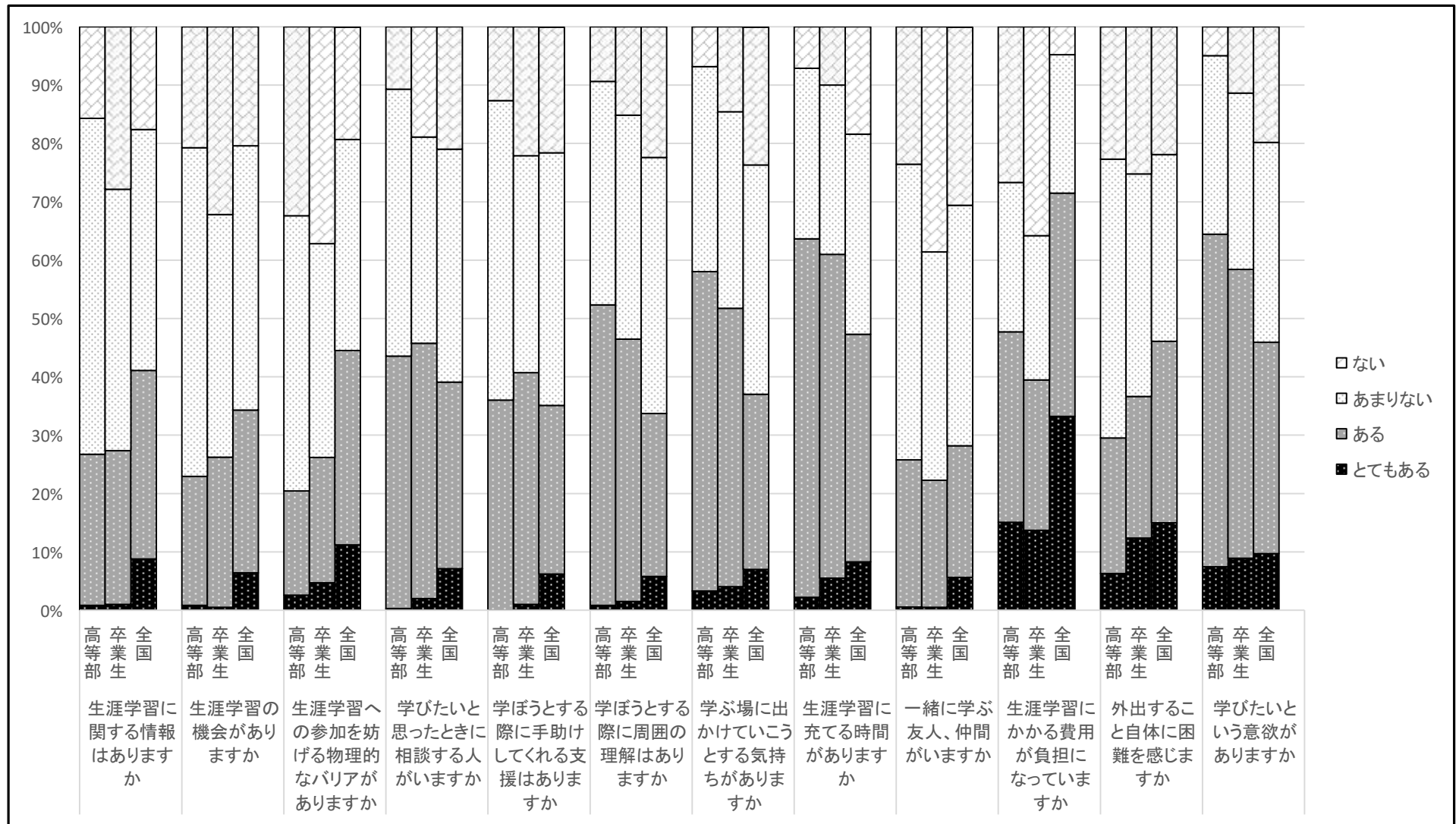
■生涯学習に関する課題(地区別)

		とてもある	ある	あまりない	ない
生涯学習に関する情報はありますか	県北	0.0	27.1	57.1	15.7
	能代山本	0.0	19.4	64.5	16.1
	北秋田	0.0	27.3	36.4	36.4
	中央	1.0	25.5	56.5	17.0
	大仙仙北	0.0	23.8	45.2	31.0
	横手	0.0	27.9	58.1	14.0
	湯沢雄勝	0.0	29.5	47.7	22.7
	由利本荘にかほ	3.0	25.4	52.2	19.4
	全国	8.8	32.3	41.3	17.7
生涯学習への参加を妨げる物理的なバリアがありますか	県北	1.5	20.6	47.1	30.9
	能代山本	6.9	13.8	44.8	34.5
	北秋田	4.8	14.3	42.9	38.1
	中央	6.2	20.5	42.1	31.3
	大仙仙北	0.0	17.9	42.9	39.3
	横手	0.0	18.4	52.6	28.9
	湯沢雄勝	2.4	17.1	36.6	43.9
	由利本荘にかほ	1.6	21.9	40.6	35.9
	全国	11.2	33.3	36.2	19.2
学ぼうとする際に手助けしてくれる支援はありますか	県北	0.0	35.3	54.4	10.3
	能代山本	0.0	19.4	51.6	29.0
	北秋田	0.0	33.3	52.4	14.3
	中央	0.5	35.3	47.8	16.4
	大仙仙北	0.0	40.7	45.3	14.0
	横手	0.0	44.2	41.9	14.0
	湯沢雄勝	0.0	51.2	34.9	14.0
	由利本荘にかほ	1.5	37.3	38.8	22.4
	全国	6.2	28.9	43.3	21.5
学ぶ場に出かけていこうとする気持ちがありますか	県北	1.4	47.1	34.3	17.1
	能代山本	6.5	41.9	35.5	16.1
	北秋田	0.0	61.9	38.1	0.0
	中央	5.4	55.0	33.7	5.9
	大仙仙北	0.0	60.5	31.4	8.1
	横手	2.3	58.1	32.6	7.0
	湯沢雄勝	7.0	30.2	39.5	23.3
	由利本荘にかほ	3.0	53.7	35.8	7.5
	全国	7.0	30.0	39.3	23.6
一緒に学ぶ友人、仲間がいますか	県北	1.4	15.7	51.4	31.4
	能代山本	0.0	16.1	51.6	32.3
	北秋田	0.0	14.3	52.4	33.3
	中央	0.5	28.2	48.5	22.8
	大仙仙北	0.0	23.3	41.9	34.9
	横手	2.4	28.6	45.2	23.8
	湯沢雄勝	0.0	34.1	43.2	22.7
	由利本荘にかほ	0.0	16.2	42.6	41.2
	全国	5.6	22.6	41.2	30.5
外出すること自体に困難を感じますか	県北	10.1	18.8	36.2	34.8
	能代山本	19.4	35.5	35.5	9.7
	北秋田	0.0	28.6	47.6	23.8
	中央	7.9	21.2	51.2	19.7
	大仙仙北	7.1	22.4	41.2	29.4
	横手	9.5	21.4	38.1	31.0
	湯沢雄勝	2.2	26.7	35.6	35.6
	由利本荘にかほ	10.3	27.9	45.6	16.2
	全国	15.0	31.1	32.0	21.9

		とてもある	ある	あまりない	ない
生涯学習の機会がありますか	県北	0.0	20.0	60.0	20.0
	能代山本	0.0	16.1	54.8	29.0
	北秋田	0.0	27.3	40.9	31.8
	中央	1.0	28.6	50.3	20.1
	大仙仙北	0.0	13.1	50.0	36.9
	横手	0.0	25.6	58.1	16.3
	湯沢雄勝	0.0	25.0	47.7	27.3
	由利本荘にかほ	1.5	23.5	48.5	26.5
	全国	6.4	27.9	45.3	20.4
学びたいと思ったときに相談する人がいますか	県北	1.4	47.8	43.5	7.2
	能代山本	0.0	35.5	38.7	25.8
	北秋田	0.0	47.6	42.9	9.5
	中央	1.0	39.3	45.3	14.4
	大仙仙北	0.0	44.2	43.0	12.8
	横手	0.0	51.2	37.2	11.6
	湯沢雄勝	0.0	54.5	31.8	13.6
	由利本荘にかほ	2.9	39.7	38.2	19.1
	全国	7.1	32.0	39.9	21.0
学ぼうとする際に周囲の理解はありますか	県北	0.0	49.3	42.0	8.7
	能代山本	0.0	35.5	41.9	22.6
	北秋田	4.8	47.6	38.1	9.5
	中央	1.0	47.0	41.5	10.5
	大仙仙北	0.0	48.8	39.5	11.6
	横手	2.4	57.1	31.0	9.5
	湯沢雄勝	2.3	60.5	20.9	16.3
	由利本荘にかほ	1.5	50.0	37.9	10.6
	全国	5.8	27.9	43.9	22.4
生涯学習に充てる時間がありますか	県北	1.4	66.7	26.1	5.8
	能代山本	0.0	58.1	25.8	16.1
	北秋田	0.0	61.9	33.3	4.8
	中央	4.9	59.1	29.1	6.9
	大仙仙北	1.2	48.8	38.4	11.6
	横手	4.8	76.2	19.0	0.0
	湯沢雄勝	2.3	60.5	25.6	11.6
	由利本荘にかほ	5.9	51.5	33.8	8.8
	全国	8.3	39.0	34.3	18.4
生涯学習にかかる費用が負担になっていますか	県北	16.4	20.9	29.9	32.8
	能代山本	10.3	34.5	20.7	34.5
	北秋田	14.3	33.3	23.8	28.6
	中央	15.9	33.3	28.7	22.1
	大仙仙北	9.9	29.6	23.5	37.0
	横手	17.1	46.3	14.6	22.0
	湯沢雄勝	12.2	19.5	26.8	41.5
	由利本荘にかほ	15.6	28.1	23.4	32.8
	全国	33.2	38.3	23.7	4.9
学びたいという意欲がありますか	県北	6.2	52.3	29.2	12.3
	能代山本	3.2	48.4	35.5	12.9
	北秋田	4.2	62.5	29.2	4.2
	中央	7.5	57.0	29.5	6.0
	大仙仙北	5.9	57.6	32.9	3.5
	横手	11.9	52.4	33.3	2.4
	湯沢雄勝	11.4	45.5	20.5	22.7
	由利本荘にかほ	10.1	50.7	34.8	4.3
	全国	9.7	36.2	34.3	19.8

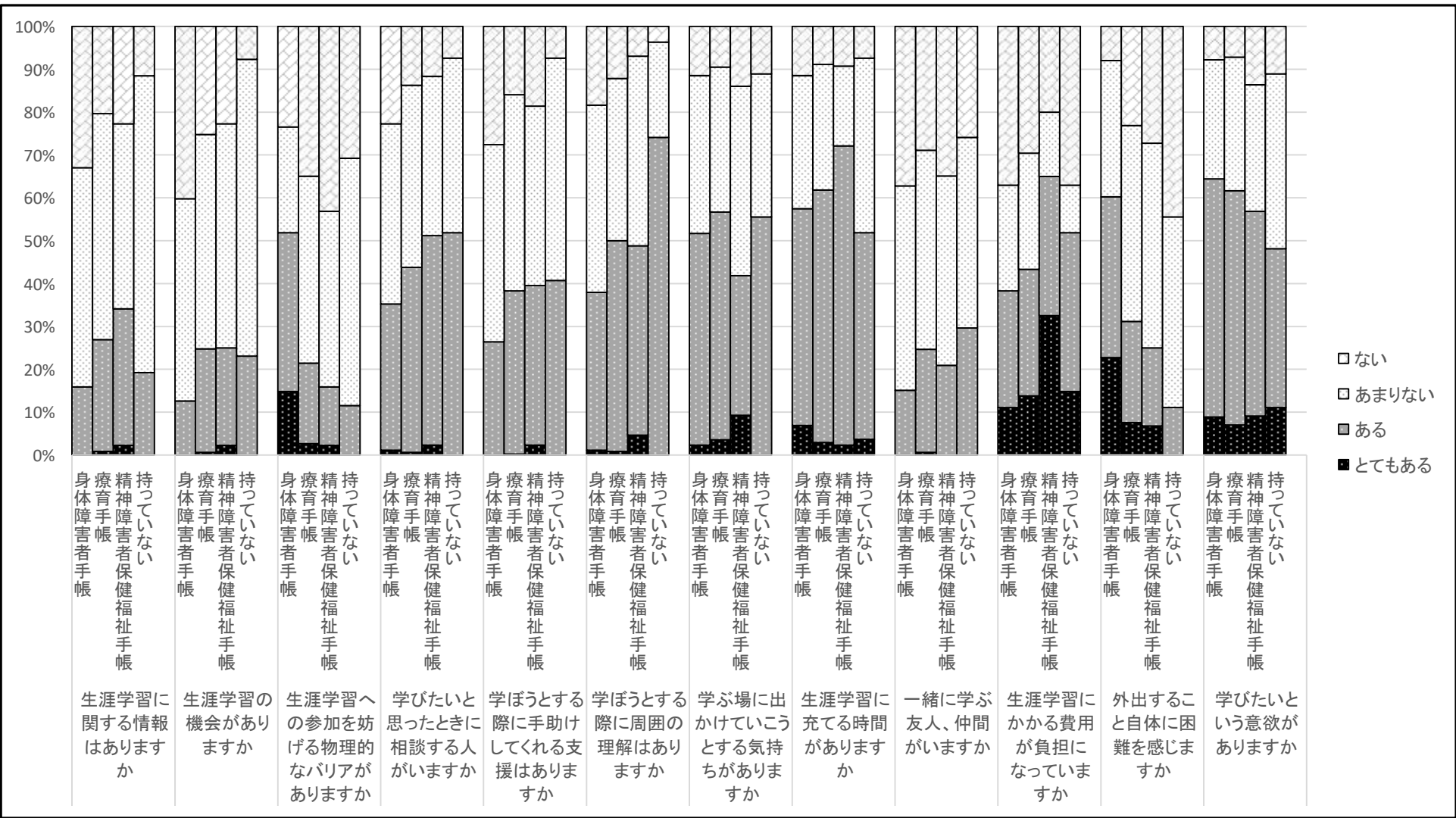
■生涯学習に関する課題(在籍状況別)

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



■生涯学習に関する課題(障害者手帳別)

お子さんの生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)について、あてはまるのを一つ選んでください。



■「障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識」に関する分析

○在籍状況別

生涯学習の機会が必要だと認識をしている人の割合は全体の 94 %となっており、全国平均の81.8 %を大きく上回っている。生涯学習の必要性は多くの人々が認識しているものの、生涯学習の継続の有無については、「特になし」が半数（50.1 %）に上り、全国平均（38 %）よりも高く、必要性の認識と行動にずれが起きている。このことは、情報の量、学習の場、機会の少なさによるものではないか。ただし、「そう思う」と答えた人が生涯学習を行っている割合は、高等部生 52.6 %、卒業生 59.7 %と割合がとても高くなっている。「まあそう思う」と答えた人と比較（高等部生 37.7 % 卒業生 47.8 %）しても、高い割合である。このことから、必要性を強く感じていると生涯学習を行うことに繋がっていると言える。

高等部生と卒業生を比較すると、必要性を認識している人の割合はほぼ同じだが、「そう思う」の割合は卒業生が少し高くなっている。ニーズに答えて積極的に情報発信したり、支援学校や生涯学習課・福祉課・障害者生活センター・サークル運営母体と連携を密にして事業を行ったりすることが、今後の課題になっていくと思われる。

○地区別

生涯学習の機会が必要だと認識している割合は、どの地区も高くなっている。特に北秋田市では 100 %の人々が、生涯学習の機会が必要だと認識している。この地区では問 6 で「そう思う」と答えた人の 70.5 %が生涯学習を続けて行っている。これは、秋田県全体（46.4 %）と比較するとかなりの高率である。また、この地区では卒業生が生涯学習に取り組んでいる割合が高い（高等部生 60 %、卒業生 85.7 %）。個々のアンケートを見ると卒業生は、福祉事業所で学んでいる人の割合が多いことが特徴であった。障害者福祉サービスに関連する、生活支援センターや支援学校、生涯学習課、健康福祉課の連携による事業展開が卒業生の生涯学習へ取り組む機会の契機になっていると考えられる。

記述には、どの地区からも「生涯学習の情報はほとんど無い」「障がい者が集える場所などがあれば嬉しいです」という声が上がっている。

○障害者手帳別

生涯学習の機会が必要だと認識している人は、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉手帳、持っていない人の全てで90%を越えている。その内、生涯学習を続けている人の割合は 54.5 % である。生涯学習を続けている人の割合の結果は、身体障害者手帳 52 %、療育手帳 54.5 %、精神障害者手帳 55.5 %、持っていない 62.5 %となっている。障害の程度が軽い人は、健常者と交じっての学習を行いやすいと考えられる。身体障害者の 27 %が重複して手帳を持っており、生涯学習をする機会や場にある程度の制限がかかると考えられる。それでも生涯学習を続けている人の割合は、重複障害者53名中20名、37.7 %となっている。それは、保護者を中心とした支援する人々の存在が大きいと思われる。

「共に生きる社会を目指すのであれば、障がいのない方の差別意識を少しでもなくす取り組みもしていただければ嬉しいです。」という記述にもみえるように、健常者が障害者と触れ合ったり、理解し合ったりする機会をもつことが必要である。

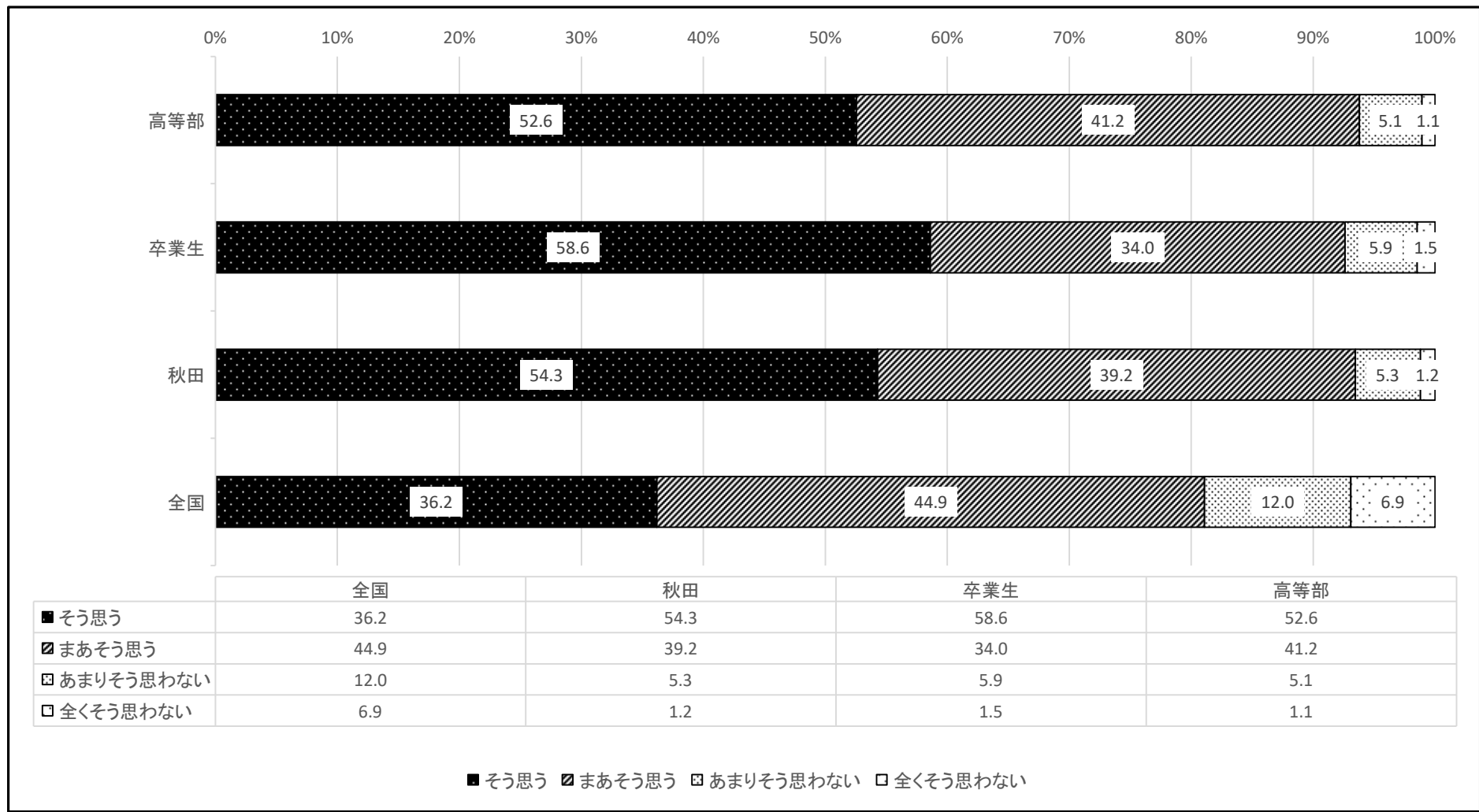
●「障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識」全体分析

生涯学習の必要性への意識は全国を大きく上回り、90%を超えている。在籍別、地域別、手帳別全てで均等に高い割合を示している。その中で障害種別では、身体障害の方が最も必要性を感じていた。例えば聴覚障害、視覚障害、身体の一部に障害のある方などは、資格取得を希望する場合がある。

一方、障害が重く、医療的ケアを必要とする方などは、周囲の理解や、人との関わりを求めていることが予想される。こうしたことから、生涯学習の場において、障害者が個々に応じた支援を受けられる体制づくりが心配されがちだが、全体の 50 %近い方は、生涯学習を継続している。まずはその方たちが活用している支援や学習内容を生涯学習の実施者、学習者が共有し、お互いの理解を深めることで、生涯学習の機会充実につながるとと思われる。

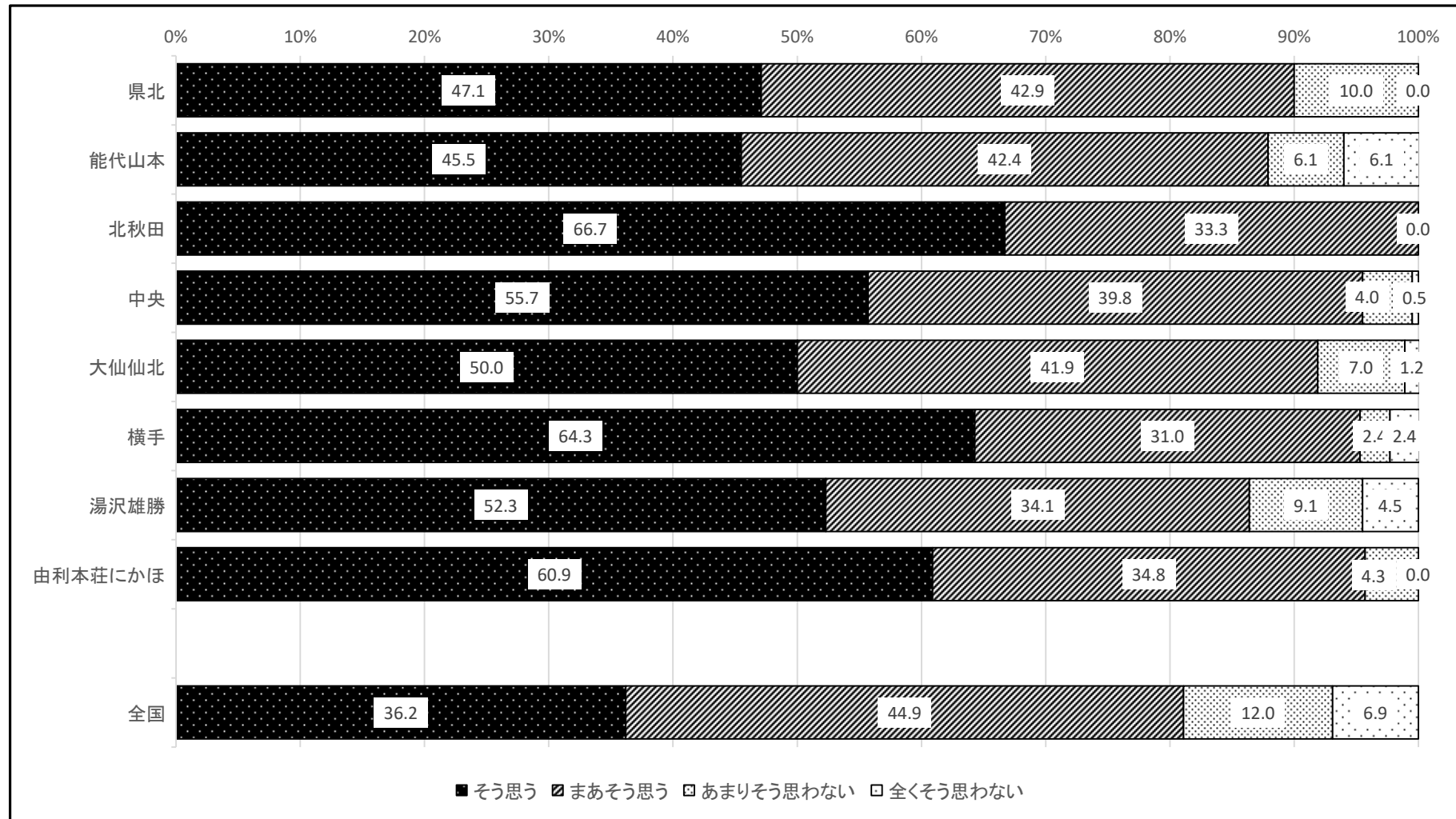
■障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識(在籍状況別)

「共に生きる社会」になるために、障害のある方の生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)の機会が必要だと思いますか。



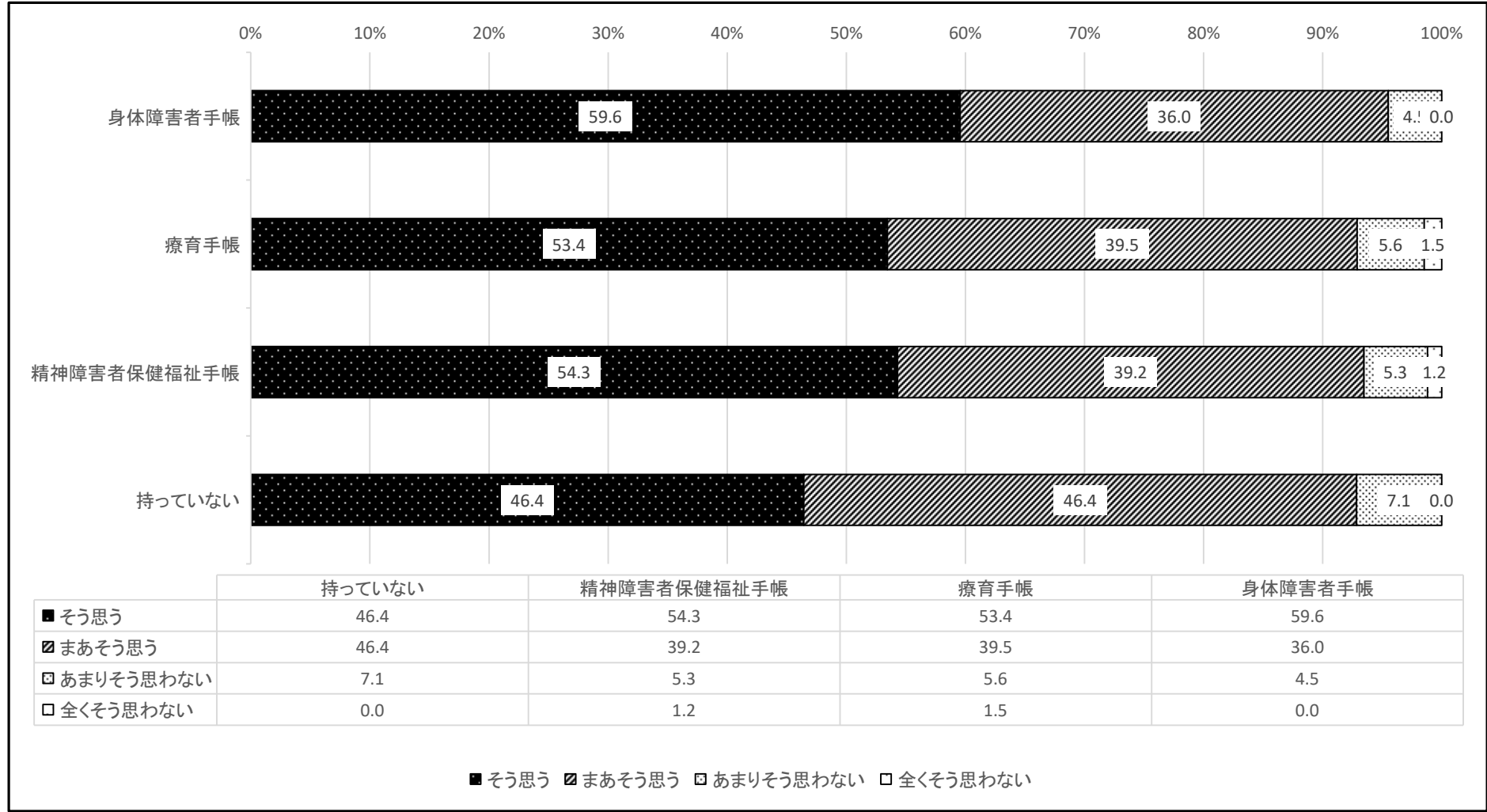
■障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識(地区別)

「共に生きる社会」になるために、障害のある方の生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)の機会が必要だと思いますか。



■障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識(障害者手帳別)

「共に生きる社会」になるために、障害のある方の生涯学習(学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事等)の機会が必要だと思いますか。



● 問 1 ～ 3 考察
「生涯学習の経験」「生涯学習を実施した理由」「学習形態」

秋田県の場合、全国と比べて生涯学習に取り組んでいる障害者の割合がそもそも低い。生涯学習の内容は「余暇・レクリエーション活動」「健康の維持・増進、スポーツ活動」が多く、学習形態も「テレビやラジオ」「インターネット」など自宅での学習活動が多い。この傾向は、特に身体障害者手帳所有者に顕著である。このように、それほど場所にこだわらずに取り組むことが可能で、自己の成長に資する活動に主眼が置かれる一方で、社会生活や職業生活に関わる学習への意欲や、公民館・生涯学習センターなど公的な機関における講座・教室への参加率は低い。しかし、支援団体の活動によって、生活課題解決を生涯学習に求める割合が高い地区もある。

今後は、行動援護や移動支援の充実を図ることで「学びの場に至る手段」を安定させた上で、生活に直面した課題や地域課題への取組を促していく、社会の仕組み・枠組みを整備する必要があると考えられる。

● 問 4 ～ 6 考察
「学習に関する情報の有無、学ぶ場や学習プログラムが身近にあると思うか」「生涯学習に関する課題」
「障害者の学習機会の充実の重要性に関する認識」

アンケートの課題として高い数値を示したのは、①生涯学習の機会、②共に学ぶ仲間、③情報の3項目であった。県内の就業・生活支援センター、特別支援学校に実施したヒアリング調査では、各所で調理、話し合う場づくり、成人を祝う会等の学びの機会が提供されていた。その周知は、大半が登録されている方へ郵送で行われている。地域全体を見ると現状では「生涯学習の機会や情報が限られている」と言える。さらに記述からは「生涯学習の機会」「施設設備の充実」「講座の障害への対応」への情報を求める意見が多数あげられた。

障害者には、自分で情報を探せない方も多い。全ての方に情報が届く仕組みが、今回課題となった「生涯学習の機会」、「共に学ぶ仲間」にも繋がり、包摂的な生涯学習の展開に結びつくと考える。

聞き取り調査について

今後望まれる障害者の生涯学習環境について、就業・生活センター 8 か所、特別支援学校 16 校に聞き取り調査を実施した。

聞き取り調査実施一覧

	県内就業・生活支援センター	住所	調査日	方法
1	秋田県北障害者就業・生活支援センター	大館市泉町9番19号泉町 地域ふくしセンター1階 総合サービスセンター内	令和2年10月6日	訪 問
2	北秋田障害者就業・生活支援センター	北秋田市宮前町9番地67号	令和2年10月9日	ZOOM
3	秋田県能代山本障害者就業・生活支援センター	能代市字長崎42-1	令和2年10月22日	訪 問
4	ウェルビューいずみ障害者就業・生活支援センター	秋田市泉菅野2丁目17-27	令和2年10月9日	ZOOM
5	由利本荘・にかほ圏域障害者就業・生活支援センター E-Support	由利本荘市二番堰25番地1 由利本荘地域生活支援センター内	令和2年10月15日	ZOOM
6	秋田県南障害者就業・生活支援センター	大仙市大曲戸巻町2-68	令和2年10月14日	ZOOM
7	ネット横手障害者就業・生活支援センター	横手市梅の木町8-5	令和2年10月21日	訪 問
8	秋田県湯沢雄勝障害者就業・生活支援センター ぱあとなあ	湯沢市字両神15-1	令和2年10月21日	訪 問

	県内特別支援学校	住所	調査日	方法
1	秋田県立比内支援学校	大館市比内町達子字前田野1-2	令和2年10月8日	ZOOM
2	秋田県立比内支援学校 かつの校	鹿角市花輪字案内2	令和2年10月6日	訪 問
3	秋田県立比内支援学校 たかのす校	北秋田市七日市字家向49の内	令和2年10月6日	訪 問
4	秋田県立能代支援学校	能代市真壁地字トメキ沢135	令和2年10月1日	ZOOM
5	秋田県立視覚支援学校	秋田市南ヶ丘一丁目1-1	令和2年10月23日	ZOOM
6	秋田県立聴覚支援学校	秋田市南ヶ丘一丁目1-1	令和2年10月14日	訪 問
7	秋田きらり支援学校	秋田市南ヶ丘一丁目1-1	令和2年10月2日	ZOOM
8	秋田県立栗田支援学校	秋田市新屋栗田町10-10	令和2年10月22日	訪 問
9	秋田県立支援学校 天王みどり学園	湯上市天王字追分西27-18	令和2年10月8日	ZOOM
10	秋田県立ゆり支援学校	由利本荘市水林456-3	令和2年10月9日	ZOOM
11	秋田県立ゆり支援学校 道川分教室	由利本荘市岩城内道川字井戸ノ沢84-40 独立行政法人国立病院機構あきた病院内	令和2年11月19日	電 話 メール
12	秋田県立大曲支援学校	大曲市大曲西根字下成沢122	令和2年10月20日	訪 問
13	秋田県立大曲支援学校 せんぼく校	仙北市角館町小館77-2	令和2年10月20日	訪 問
14	秋田県立横手支援学校	横手市赤坂字仁坂105-1	令和2年10月15日	ZOOM
15	秋田県立稲川支援学校	湯沢市駒形町字八面寺下谷地33-2	令和2年10月20日	訪 問
16	秋田大学教育文化学部附属特別支援学校	秋田市保戸野原の町7-75	令和2年10月21日	ZOOM

令和2年10月6日		秋田県北障害者就業・生活支援センター
15:00～15:40		管理者 吉原 正男
取組の概要	(1) 取組名	交流会、学習会、就職応援セミナー
	(2) ねらい	障害のある方の交流の場、生活の質・働く意欲の向上
	(3) 実施主体	就業・生活支援センター
	(4) 対象者	地域の在職者、休職者（登録者 471 名、未登録だが相談 70 名）
	(5) 実施場所	北部エリア（大館市・鹿角市・小坂町）
2	取組の経緯	・ハローワーク、相談支援、市の障害者センター、「仲間ネット」（本人同士の団体）と連携し、就職応援セミナー、交流会、学習会を行っている。 ・就労支援機関連絡会議（大館市、鹿角市でそれぞれ 2 回）の中で、福祉サービスを利用している障害者が一般事業所に就業する可能性について話し合っている。
3	具体的な取組	・在宅での就労者（在職者）について、年 4 回の交流会と学習会。学習会は市の出前講座を依頼したり、金銭管理をテーマにしたりしている。交流会は「仲間ネット」（本人同士の団体：就労者、休職者）をサポートする形で実施。 ・就業・生活支援センターが主催する就労者対象の就職応援セミナーでは、職場のマナーなどを取り上げている。
4	予算	お金がかからないように工夫している。交流会、学習会の案内は郵送せず、就業・生活支援センター職員が職場などを訪問して届けている。
5	取組の成果	・交流会は「仲間ネット」と共同で実施。仲間ネットには男子 1 名、女子 1 名の代表者がおり、「仲間通信」という会報を発行している。通信の郵送をセンター職員が支援し、在職者個々の職場などを訪問する。職場での様子や要望等を知ることができる。 ・交流会、学習会の企画については、当事者が率直に感想を話してくれる。 ・近年高校へのサポートが増えている。手帳取得に対する抵抗感を軽減させる支援、筋ジストロフィーの生徒が就職する際の、職場での支援体制を構築する支援を行った。
6	取組の課題	・交流会、学習会を広げようとする、マンパワーが必要となる。 ・高校へのサポートに関しては、一旦就職しても、職場の要求水準が高い場合がある。普通高校を卒業時に、トライアル雇用（援護制度。継続雇用が前提の 3 ヶ月間の試用期間）を利用してもうまくいかない事例がある。
7	今後の展望	今後については市や福祉サービス事業所からの要望もあり、 <u>一般市民への障害者の就労について広く知らしめる場</u> を考えている。
8	障害者の声	・交流会に入りたいという人もいる。話を聞いて欲しい人がいる。話を聞き、時間をかけて支援していく中でやりたい事を見つけ、「面接→実習→雇用」となった例もある。 ・身体の方については、<u>会社が駐車場を固定し、カーポートを設置するなど、理解のある事例</u>もある。
担当：栗田、佐藤、羽川（訪問による実施）		

令和2年10月9日		北秋田障害者就業・生活支援センター
13:30～14:30		就業支援員 岩本 幸哉
取組の概要	(1)取組名	チームつながり
	(2)ねらい	障害者の生涯学習および社会参加・地域移行
	(3)実施主体	社会福祉法人 県北報公会
	(4)対象者	北秋田市・上小阿仁村 在住の障害児・者
	(5)実施場所	障害者生活支援センター内、各種イベント会場など圏域全土
2	取組の経緯	平成30年度より、国・県の「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」を法人受託。障害者の社会参加・地域移行の観点から、当センターも事務局の一員として参画している。 <u>以前から民生委員、他の法人職員との関わりがあり、行事などでは重度の方の支援にも携わってきた。</u>
3	具体的な取組	(主にカフェを軸にした活動) ・「重心カフェ」を自宅以外にほとんど過ごす場が無い方たちのために実施。緑日風にカフェを行い、本人、保護者の交流の機会が生まれた。 ・保護者の会『チャレンジ!きたっこ』を中心に開催した「冬のおまつり」は北秋田市の施設「コムコム」で実施。障害児・者30名、学生ボランティア22名参加。高校生ボランティアが企画したゲームも実施。 ・「<u>光の会</u>」活動支援(ボランティア)。光の会は当事者の活動。赤い羽根の予算と会費で運営している。障害当事者が様々な企画、報道への取材依頼なども行う。
4	予算	事業予算、法人資金、寄付金より支出。割合としては事業予算が大半を占める。
5	取組の成果	【当事者】 地域資源の活用促進・社会参加の機会の増加につながっている。モデル事業により参加人数、活動回数が増えたことで、<u>障害者と健常者の交流が生まれた。</u>町中で声を掛け合う姿もみられた。地域のイベントでも活動が増え、<u>障害者が自分の活動として取り組めるようになった。</u> 【職員】 ・当事者が地域で暮らすために必要な支援や受け皿としての地域の役割、連携体制など、<u>地域全体の実情と課題の把握</u>に繋がっている。 ・中学生、高校生、福祉大学と連携し、ボランティア育成を行っている。
6	取組の課題	・行政機関および関係機関との連携。モデル事業以前から連携していた市生涯学習課と、イベントのスケジュール調整を行っている。イベントによっては、<u>主催者の意図と参加側の認識のずれ</u>が生まれることもある。 ・コロナ禍における活動の運営、維持。 ・障害のある方の中には、<u>地域の理解などにより、出てこれない人</u>もいる。 ・北秋田市は福祉が一番の産業であるが、<u>担い手が少ない。</u>
7	今後の展望	3ヵ年の事業として実施しているが、今後は事業から「地域全体の取組」へ、そして「 <u>地域の当たり前</u> 」として実践される <u>地域社会の構築のための一歩として発展させていきたい。</u> 秋田県生涯学習センターで行っているような障害者スポーツ、防災等の学びの企画も魅力的だと感じている。
8	障害者の声	<当事者(本人)の声> ・(コロナ禍により)イベントが少なくなって寂しい。 <重度心身障害者の保護者の声> ・<u>生涯学習の活動以前に、気軽に集える場所や機会が少ない。</u>行事や活動に参加する際には設備や機材、サポートの人手も必要になる。

担当：栗田（ZOOMによる実施）

令和2年10月22日		能代山本障害者就業・生活支援センター
13:30～14:30		センター長・主任就業支援員 若松 尚志 生活支援員 小柳 光子、就業支援員 鈴木 瑠衣子
1 取組 の 概 要	(1) 取組名	余暇支援・在職者交流会（4回）・ピアサポート
	(2) ねらい	心身のリフレッシュ、居場所づくり、意欲の向上、余暇の有効な活用
	(3) 実施主体	秋田県能代山本障害者就業・生活支援センター
	(4) 対象者	センター登録者（現在344人）
	(5) 実施場所	就業・生活支援センター、県内の施設等
2	取組の経緯	障害者就業・生活支援センターにおける活動の一部であるため実施
3	具体的な取組	・余暇活動について 秋田市（大森山動物園・セリオン）／八峰町（ハタハタ館・さくら園・おらほの館）／市内（音楽療法）等、スポーツ（バレーボール・バドミントン・ボウリング）、カラオケ ・在職者交流会について 「はたらく」マナーと有給休暇／清掃の基本等（清掃関係職の登録者向け） ・能代中央公民館との連携 お菓子作り、リース作り・料理、防災体験講座（炊き出し・テント張り等：日赤短大・及川先生）、衛生グッズ作り（マスク・石鹸） ※公民館主催の行事は、特別支援学校の児童生徒も就業・生活支援センター登録者も参加できる大きなメリットがある。 ・お知らせの送付対象者について センターへの登録者のうち、一人一人の状況を職員が判断し、送付している。
4	予算	生活支援事業（県）と雇用安定等事業（労働局）の委託費等からの支出 ※飲食は自己負担。
5	取組の成果	・就労への意欲が向上し、行事を心待ちにしてくれる方が増えた。職員と一緒に活動することでコミュニケーションが図られ、より良い関係性を築くことができる。 ・能代中央公民館と連携して活動することで、双方にメリットが生じた。 ・発達障害のあるシングルマザー同士が情報交換や交流を自主的に行うようになった。 ・面識のない方同士でも、参加を重ねることでつながりが生まれている。（一方では、面識のない方とふれあうのが嫌な方もいる）
6	取組の課題	・参加者の偏り 自分で余暇の過ごし方をもっている方はあまり参加しない。面識のない方とふれあうのが嫌な方もいる。<u>支援学校の新卒者の参加が少ない。</u> ・新型コロナウイルスの影響。
7	今後の展望	・参加者の幅を広げるため、内容や参加対象者について工夫。 ・遠出したいもののその機会がない方が多く、リクエストも来ている。また、やりたいことについての希望を出す方もいる。これに対してできるだけ応えていきたい。 ・モデル事業は今年度で3年目だが、延長・継続があることを期待したい。
8	障害者の声	・遠出したい、出かけたいという希望がある。

担当：栗田、佐藤（訪問による実施）

令和2年10月9日		ウェルビューいずみ障害者就業・生活支援センター	
15:00～15:40		センター長 牧野 真悟	
1 取組の概要	(1) 取組名	①料理教室 ②集い場 ③JST（ジョブ スキル トレーニング）	
	(2) ねらい	①単居生活を想定した自炊訓練 ②安心かつ気軽に立ち寄れる拠点としての位置づけ。仲間作りや情報交換の場 ③就業上における対人技能を学ぶ	
	(3) 実施主体	ウェルビューいずみ障害者就業・生活支援センター	
	(4) 対象者	①～③登録者（※③は企業就労している発達障害者）	
	(5) 実施場所	①東部ガス ②秋田市拠点センターALVE	
2 取組の経緯		①単居生活した際の自己管理ができるようになる事を目的に平成18年から東部ガスのキッチンスペースにて実施。当該企画に参加してはじめて包丁を持つ参加者もいた。 ②社会に出ると友人を作る機会が少ない、休日には家にいることが多く過ごし方が単調、といった相談を登録者本人や保護者から受けていた。余暇の効果的な使い方や集まれる場所の必要性から設置。 ③コミュニケーションの苦手意識をもつ発達障害者を対象にして平成30年から委託事業の一環として「スクエア秋田(秋田市中通)」を会場に年6回開催。	
3 具体的な取組		①シンプル（単純明快）、シャープ（要点が明確）、ショート（短く）といった3S対応。各工程をできる人（やりたい人）が担当し、最終的に全員でデザートも含めて2～3品を作り、最後は全員で雑談しながら食べ、洗浄～片付け、調理場を掃除して終了。 ②平成18年9月より月1回（第3土曜）サンパル秋田の一室を借りて開催。10時から15時まで出入りは自由。工作、おやつ作り、雑誌を読んだり、雑談など過ごし方は自由。平成19年度からは、サンパル秋田（中央公民館）の共催事業として位置付け。 ③実際に職場で困った事例を当事者から出して貰い、他参加者間で共有。自分の身に置き換えて適切な対応方法を学ぶ機会とした。障害者職業センター職員の研修、ロールプレイなどを取り入れている。	
4 予算		生活支援等事業の委託費から計上	
5 取組の成果		①包丁や熱源機器が日常生活で利用できるようなったり、 <u>レシピを参考に家族のために料理を作ったり</u> という事例あり。調理と食事ができる余暇企画の側面もある。 ②毎回、10数人が参加。 <u>ここに来れば誰かに会える、話ができる、という心のよりどころ</u> になるとともに、互いに仕事や生活に関する情報交換の場。土曜日にしか支援機関と相談出来ない本人または家族との相談の場や通知書類の内容確認や記載といった支援の場としての機能も持ち合わせている。 ③発達障害者を対象にした集まりの場、ジョブスキルを高めるための場が無かったことから、参加者からは、話せる場面が無かったのでスッキリした。いろいろな助言を得る事ができた、 <u>実際の就業場面で学んだ対応をしてみたらうまくいった…</u> などの声が聞かれた。	
6 取組の課題		企画する立場から、①料理教室と②集い場に関しては、同じ様な内容を繰り返しているようにも感じている。	
7 今後の展望		②集い場に関して、新しい企画を取り入れながら継続予定。生涯学習センターの障害者スポーツコーナーを利用したボッチャなど、場所を変えた実施も検討する。	
8 障害者の声		参加者からは「新鮮味がない」「飽きた」といった感想はなく、「いつも同じ」という安心感を感じているようにも思われる。 重度障害の方のニーズについては、相談は少ない。	

担当：栗田（ZOOMによる実施）

令和2年10月15日		由利本荘・にかほ圏域障害者就業・生活支援センターE-Support
9:30～10:30		生活支援員 朝日 紀予
1 取組の概要	(1)取組名	ふれあいサロン、ピアサポート活動、在職者交流会
	(2)ねらい	登録者同士の情報交換、交流の場を提供する。
	(3)実施主体	E-Support
	(4)対象者	E-Support登録者（約400名）
	(5)実施場所	由利本荘地域生活支援センターや公共施設
2	取組の経緯	外出企画や料理教室の開催など、参加者同士が交流する場を定期的に提供している。
3	具体的な取組	①令和元年5月 ふれあいサロン（懇談会） 参加者11名 ピアサポートの要素がある。自己紹介、お互いへのアドバイスなど。発達障害の方や精神障害の方もいるので工夫し実施している（配置、みんなが話せるように）。 ②令和元年9月 調理体験（焼きそば作り） 参加者6名 ③令和元年11月 ドライブツアー（増田まんが美術館） 参加者10名 事業所の車を職員が運転して出かける。 ④令和元年12月 スマートフォンを安全に使うための講座 参加者11名 市のまちづくり講座担当の方へ外部講師を依頼。
4	予算	障害者就業・生活支援センター事業（生活支援等事業）費より、お茶等の購入。できるだけ予算がかからないよう工夫している。調理体験等の材料費は、参加者負担としている。
5	取組の成果	・毎回、参加者へのアンケートを実施し「参加してよかった」「楽しかった」という感想がある。参加者同士の懇談の場が、<u>互いの状況や悩みを話す場や、共感やアドバイスを</u>得る機会にもなっていることが伺われる。 ・調理を体験した方は、<u>「自分でもやってみようと思います」</u>と意思表示しており、趣味の広がりや前向きな気持ちにつながっている。 ・ドライブ外出などの余暇支援を行い、参加者の気分転換を図ることができた。車内では様々な会話が生まれ交流が図られるが、言い合いになることもある。そうした際に、自然に仲裁をする方がいるなど、職員も普段とは違った面を知ることができる。
6	取組の課題	・参加費を抑えた企画の立案や講師の開拓。企画の立案にあたっては、本人たちのアンケートも参考にしているが、（その講座を）求めているかが分からない場合がある。 ・<u>新卒の方に来て欲しかった在職者交流会は、ベテランの方の参加が多かった。</u>趣味の話やキャリアアップの話など、実のある会になったので、特別支援学校卒業時に呼びかけるなどしていきたい。
7	今後の展望	今後も定期開催を通じて、登録者同士の交流の場を提供したい。ニーズの中には、外出以外にも生活的な自立に役立つ講座、作品作りの希望もある。
8	障害者の声	福祉サービスを利用している方でも、通所（事業所に通い、日中活動や作業を行う）することはできるが、休日になにをしたらよいかわからないなどの声も多い。当センターでの余暇支援の充実を図るだけでなく、生涯学習や行事についても情報提供をしていきたい。
担当：栗田（ZOOMによる実施）		

令和2年10月14日		秋田県南障害者就業・生活支援センター	
11:00～12:00		センター長 本間 啓之	
1 取組の概要	(1)取組名	ほのぼのネット	
	(2)ねらい	余暇の過ごし方を提供し（余暇活動）、ストレスの軽減と相談、レクリエーションを行い、仕事（就業）への活力にするため	
	(3)実施主体	秋田県南障害者就業・生活支援センター	
	(4)対象者	登録者（就職している知的障害者 180名）	
	(5)実施場所	様々（年10回開催）	
2 取組の経緯		余暇（休日）の過ごし方がわからず、仕事（就業）に影響が出ていることがあった。一方、スポーツを優先してしまい仕事に影響が出ている方もおり、休日、余暇の過ごし方に課題を感じた。また、仕事をしている方同士の交流の場とつながりの場として「ほのぼのネット」を開始した。	
3 具体的な取組		①支援学校での相談会：運動会や学校祭にブースを設け、本人、保護者の相談に対応。 ②座談会：食事を取り、お互いの情報交換をしながら、経験したいことなどについても意見を出し合う場となっている。 ③カラオケ、ボウリング、アロマ、フラワーアレンジメント、調理、化粧：外部講師は料理教室の方、化粧品会社の方、個人店の経営者等に依頼。	
4 予算		基本は本人負担。施設等を借り上げる際の会場費等はセンター負担。（会場費等）郵送費はセンターで負担。	
5 取組の成果		・座談会で集まった方が「（コロナ禍で）仕事が増えて大変」と話した際、他の方の「仕事が減ってしまった」という話を聞き、自分も頑張ろうという気持ちをもつことができた例があった。この取組では在職者のつながりだけでなく、職場でのマナー、振る舞いなどを身に付ける場にもなっている。 ・余暇活動を実施した場所（アロマ体験で行った店）に一人で行き、余暇を楽しむことができた方もいる。 ・職員サイドとしては、就業の場以外の利用者（対象者）の様子を見ることができ、就業場での支援に生かすことができた。	
6 取組の課題		・内容によって、参加者のムラがある。（レクリエーションだと参加者は多いが、勉強会になると少ない） ・基本的に土・日で実施するため、シフトの関係上参加できない方もいる。（ほのぼのネットのために仕事を休んでもらいたくない） ・知的障害の方が対象だが、精神障害の方、発達障害の方の登録者が増えてきているので、対象を広げることも検討している。	
7 今後の展望		・今年度はコロナ禍で実施できないので、社会情勢に併せて活動を企画する。 ・当事者（登録者）が自ら企画運営できるようサポートしたい。 ・企業、行政、地域を巻き込んだ活動。 座談会に経営者が参加し、ディスカッションをするなど、新しい取組。 ※地域防災については、避難所に自閉症の方が入れるのかなど、心配な面もある。	
8 障害者の声		・仲間とのつながりを求めて「ほのぼのネット」に参加する方が多い。 ・障害の重い方については、市の方でニーズを把握しているのではないかな。	

担当：栗田(ZOOMによる実施)

令和2年10月21日		ネット横手障害者就業・生活支援センター
10:00～11:00		センター長 齊藤 愛理良
1 取組の概要	(1) 取組名	在職者交流会
	(2) ねらい	仕事を続けるための在職者のリフレッシュとピアサポート、豊かな生活のための公共機関の利用
	(3) 実施主体	ネット横手障害者就業・生活支援センター、外部講師（北都銀行等）
	(4) 対象者	登録者（在職者）
	(5) 実施場所	ネット横手障害者就業・生活支援センター、わいわいプラザ、花火アム、ふるさと村等
2	取組の経緯	平成27年4月から、上記のねらいのもと、 <u>在職者のリフレッシュとピアサポートや公共機関の利用を実施してきた。内容はニーズにより変わってきている。</u>
3	具体的な取組	・社会マナー（公共交通機関の利用） ・健康づくり（バドミントン） ・ピアサポート（仕事、生活について本人同士が話し合う） ・新年会（交流会、カラオケ等）
4	予算	郵送代は支援費より。活動が企画される毎に希望者に郵送している（80名程度）。交通費、食事代、会場費などは参加者が負担。
5	取組の成果	・新しい地域資源の開拓。尚、開拓は職員が行っている。 ・登録者同士のつながり。<u>もともと仲がよい人たちが一緒に在職者交流会に参加する例もある。</u>
6	取組の課題	・精神障害者の利用が少ない（交流できる機会を望んでいるが個別対応を望む）。 ・企画内容によっては障害別に開催する取組を検討。
7	今後の展望	・登録者のニーズに応じた企画を検討。 ・在職者交流会に参加しない人のニーズ把握。
8	障害者の声	・講座の内容はリクエストにより決めている。 <u>※同法人の移行支援事業のOBの方は、自分たちで話し合いを行い、温泉に行く計画を実行することができている。</u>

担当：栗田、佐藤（訪問による実施）

令和2年10月21日		秋田県湯沢雄勝障害者就業・生活支援センター ばあとなあ
13:00～15:00		センター長 後藤 則男
1 取組の概要	(1) 取組名	①余暇支援活動「ふれあいネット・ばあとなあ」(勉強会やスポーツ、文化活動による交流)の実施 ②就労支援フォーラム(障害者の理解と就労支援等)、リカバリー・ピアサポート(ピアサポーターの養成)
	(2) ねらい	①各種余暇支援による障害者同士の交流 ②障害者理解促進と就労支援(障害者差別の解消と、一人一人が人に優しい共生社会の実現のため、積極的に行動するきっかけにして欲しい)
	(3) 実施主体	・秋田県湯沢雄勝障害者就業・生活支援センターばあとなあ、労働局(ハローワーク)、秋田大学、農水省・農福連携担当、湯沢雄勝地域包括支援ネットワーク協議会、障害者職業センター、特別支援学校企業等
	(4) 対象者	・障害者とその保護者、一般市民、障害者団体、企業(事業主)、県及び市町村、保健・福祉・教育・労働等の行政機関並びに団体、就労系福祉施設、障害者就業・生活支援センターの職員等
	(5) 実施場所	・複合施設ばあとなあ、市内ホテル【新型コロナウイルス対策】 ・体育館、カルチャーセンター等
2 取組の経緯		① 年間事業計画の作成にあたり、国から障害者の理解と就労支援に係る啓発活動のほか、働く障害者の余暇支援活動等の実施を指示されていること。 ② 全国の障害者就業・生活支援センターが会員として参加する「全国就業支援ネットワーク」が、毎年実施する研修・研究会のほか、「職業リハビリテーション研究・実践発表会」(主催：高齢・障害・求職者雇用支援機構)、「就労支援NIPPON2020」(主催：日本財団)、「JC-NET会議」(主催：NPO法人ジョブコーチネットワーク会議)、「リカバリー全国フォーラム」(主催：地域精神保健福祉機構)、「農福連携セミナー」(主催：東北農政局)等に参加する中で、各講師の発表や、全国各地の障害者就労支援の実態にふれ、是非、地域にフィードバックし就労支援に対する理解と意識の醸成を促す方策として考える。
3 具体的な取組		① 余暇支援活動、勉強会 ・スポーツ教室【フライングディスク、ボッチャ、バドミントン、バスケットボール】 ・勉強会【スマホ・安全教室、消費者トラブル、体力テスト、健康保持、お金の使い方、防災フェス、メイクアップ講習、漫画文化とワークショップ、Ipad操作・書道・名刺作り等】 ・交流会等【プロバスケット観戦、横手・稲川支援学校の運動会や学校祭に参加】 ② 就労支援フォーラム、リカバリー・ピアサポート ・H28年度から「就労支援セミナー」を年1回開催、今年度からリカバリー・ピアサポート講座を開催【障害者・保護者・障害者団体、事業主、地方自治体、福祉、教育、労働関係機関や団体等の参加(50人から150人)：県内外から外部講師による講演、パネルディスカッション等】
4 予算		・国又は県の委託費からの支出の他、法人からの持ち出し。
5 取組の成果		① 余暇支援活動、勉強会 ・参加者には好評である。【参加者は、10人～20人の範囲で固定されつつある。不参加者は仕事の都合】バスケットボールは、秋田ノーザンホピネッツ(B1に所属)が横手市増田体育館で試合の際に観戦。 ② 就労支援フォーラム、リカバリー・ピアサポート講座 ・地域における就労支援ネットワークの構築がスムーズに行われ、インクルージョン、地域共生社会の実現など、障害者を取り巻く現代的な課題に迫る内容を展開【企業や障害者団体、大学・高校・特別支援学校等の教育機関、県・市町村、国の福祉・労働行政機関や団体並びに福祉施設等との各種情報交換や密接な連携のほか、地域包括支援ネットワーク協議会就労支援部会の一員として、障害者の職業自立や定着促進の向上に貢献。】 ・ピアサポーター養成講座の開設により、増加傾向にある精神・発達系障害者の理解と就労支援を地域に広げる。
6 取組の課題		・参加者の拡大と、興味を持てるテーマの設定、開催曜日等 <それぞれが、新型コロナ次第になる>
7 今後の展望		① 「余暇支援活動、勉強会」について、テーマの拡充と参加者の拡大につとめる。 ・余暇支援については、毎月1回の開催が目標【これまでは、年8～10回程度の開催】 ② 「就労支援フォーラム、リカバリー・ピアサポート」については、テーマと内容の充実を図る。 ③ 目標である共生社会の実現を図るため、人材育成が基本であると考えことから、小・中学生に対する「インクルーシブ教育」の実施が不可欠と考えている。 県知事が新たに目指そうとしている差別解消について、基本を学び、相手の立場を理解し、多様性を受け入れられる心の優しい人づくりにもつながることで、障害者支援の理解の広がりも期待している。また、新たな課題でもある発達障害者が増加傾向(高校で300人超え)にあり、障害を受容できる住民が増えることで、多様性を尊重する「きのくに子どもの村学園」の誘致にも期待。
8 障害者の声		① 余暇支援活動、勉強会 ・具体的にアンケート等は実施していないが、就労中の当事者の場合、参加したいが出勤日と重なり休暇が取れないので、日程を工夫して欲しいという要望がある。 ・毎回、希望は聞いており、コロナ禍の中で希望によりホテルでカラオケ大会を開催。 ・障害の重い方のニーズについては、入所施設担当者の声も参考になる。 ② リカバリーとピアサポート講座に参加した当事者から「当事者の参加が少なく残念。もう少し当事者が増えると気が楽になる」とのことだった。(保護者の団体の方の参加はあった) 次回(来年3月)開催に向け、病院と連携し当事者の参加に向け配慮する必要性を感じた。

担当：栗田、佐藤(訪問による実施)

令和2年10月8日		秋田県立比内支援学校
13:30～14:30		進路指導主事 畠山 純
取組の概要	(1)取組名	青年学級
	(2)ねらい	卒業生の交流の場所、親睦を深める（運動、文化的活動を通して）
	(3)実施主体	比内支援学校（進路指導部が計画運営、全職員がローテーション参加）
	(4)対象者	比内支援学校卒業生、保護者、教職員
	(5)実施場所	比内支援学校、北部シルバーエリア
2	取組の経緯	・同窓生同士の集いの場を設定するため。 ・学校としても最近の仕様の様子を聞いたり、アドバイスをしたりするなど、日々の追指導の情報を得るため。
3	具体的な取組	・活動は年6回。創作活動、学校行事への参加、体育館開放によるバスケットボール、ボッチャなど。 ・年2回卒業生に対して情報提供（1年間のスケジュール等）。HPでの情報提供も行っている。 ・創作活動は学校の授業で行っている水彩、ぬり絵など実態に合わせて行えるよう配慮している。ピアノ教室に通っている卒業生が曲を披露する場も設けている。
4	予算	・年間2000円（傷害保険代：1回参加でも6回参加でも同額） ・郵送費は同窓会費（1年1,000円）
5	取組の成果	・卒業生は、友達や同窓生と会うことで、交流することができる。 ・体育館開放は自分でスポーツを選んで自由に行っている。運動が得意な方だけが集まるわけではないので、様々な方に合わせて運動を楽しめるようにしている。 ・教職員は卒業生の最近の様子を知ることができる。<u>全職員がローテーションで参加しているため、負担感が少ない。</u>
6	取組の課題	・若い人（卒業してから日が経っていない同窓生）の参加率が低い。集まる卒業生の年齢層に若い人が少ないため、<u>仲間を求めて参加する人が減っているのではないかな。</u> ・HPでの情報提供も行っているが、<u>スマホを持っていない、見られる環境がない方もいる。</u> ・毎回同じ内容になりがちであり、目玉の活動が少ない印象がある。内容が大きく変わらないことで、安心して参加できる方もいる。 ・公共の交通機関が便利ではなく、集まれる場所も少ない。
7	今後の展望	・カラオケやボウリングなど、卒業生がこれからの余暇の幅を広げることができるような場所でのレクリエーションの開催。 ・スマホの使い方など、日々の生活で活用できる情報が提供できる講座。
8	障害者の声	・卒業生の様子として、車を運転して自由に活動する、地域のギター教室に通うなどの例もあるが、<u>一般の方と会う機会も少なく、ニーズを把握できない人もいる。</u> ・障害の重い方に関しては、ショートステイ、福祉事業所の日中活動などを利用している方は充実した生活を送っている印象。 ・学校に来ることが楽しみである。（先生と話がしたいというニーズが多い） ・土日に行うことが少ない。家でじっと過ごすことが多い。そのために、学校に来ることが楽しみである。
担当：栗田（ZOOMによる実施）		

令和2年10月6日		秋田県立比内支援学校かづの校
13:00～14:00		進路指導主事 藤田 泰幸
1 取組の概要	(1)取組名	同窓生のつどい（青年学級）
	(2)ねらい	卒業後も同窓生が集まり楽しむ交流の場を設け、同窓生、保護者、学校職員が懇談しながら親睦を深める。
	(3)実施主体	学校：進路指導部
	(4)対象者	卒業生、在校生（卒業後を意識して高等部3年生も可）
	(5)実施場所	学校でやることが多いが、活動によっては校外施設を利用。
2 取組の経緯	・分校当時から継続（20年ほど） ・年3回開催（運動会、学習発表会、お楽しみ会） ・案内の宛先数60名程度（全卒業生100名のうち）…同窓会費より支出	
3 具体的な取組	・同窓会通信：卒業生の近況、つどい、学校行事の様子、今後の予定 ・同窓会総会 ・成人を祝う会：成人を迎える同窓生、保護者、職員で校外施設を利用して ・調理活動：保護者も入り全員でケーキ作り ・映画鑑賞：アニメと洋画部門に分かれてビデオ鑑賞 ・ゲーム：校内で（ポッチャ、将棋、トランプ、ネオホッケー等） ・昼で終了 ※今年度はコロナウイルス感染症のため実施できていない。 <学校側> ・実施担当は、進路指導部の教員。 ・教職員の参加は任意。<u>全職員一人1回は参加している。</u>	
4 予算	同窓会会費 3,000円（2年間）	
5 取組の成果	<同窓生> ・学校行事を楽しみにしており同窓会通信を見て参加する同窓生が増えた。 ・卒業した当時の担任や、現在いる先生方に会えるのを楽しみにしている同窓生もいる。 ・調理活動と映画鑑賞をセットで実施したところ好評だった。 ・同窓生と在校生の交流の場となっている。 ・保護者同士の横のつながりができている。 <職員> ・数年前に卒業した面識のない同窓生に会えるのを楽しみに参加している。	
6 取組の課題	・近年は参加者が固定化されてきている。 ・同窓生のつどいは土曜日開催が多かったが、仕事の関係で参加できないこともあり日曜日に開催するようにした。 ・同窓会通信を発出するにあたって、<u>郵送代がかさんでいる。</u> ・同窓生が参加し続ける期間は、卒業後およそ5～7年くらいの傾向にある。その後の同窓生の生涯学習活動および動向については把握していない。仕事に取り組んでいるものとみられる。 ・運営においては、学校の教員によるボランティア的側面がみられる。 ・同窓生においては、学校以外で行われる一般講座に生かせるような取組はない。	
7 今後の展望	・近年は参加者が固定されてきているので、同窓生にアンケートを取り参加しやすいように開催日時や新たな活動を検討したい。 ・本取組の運営は、今後も学校が中心に行っていく予定。<u>保護者や同窓生が主体となることは難しい。（参加する保護者は母親が中心）</u> ・地域の方々の参画は学校行事での来校時には考えられるが、本取組において具体的にボランティアとしての協力を得ることは特に考えていない。	
8 障害者の声	・同窓生のつどいや学校行事を楽しみにしている。（同窓生） ・卒業しても学校とのつながりがもてる機会があり、ありがたい。（保護者） ・<u>学校以外の催し物にも積極的に参加させたい保護者もいる。（保護者）</u> ・来年も同じような形でやってほしい。（保護者）	

担当：栗田、佐藤、羽川（訪問による実施）

令和2年10月6日		秋田県立比内支援学校たかのす校
9:30～10:30		進路指導主事 藤本 博明
1 取組の概要	(1) 取組名	絆カフェ・ショップ
	(2) ねらい	(1) 自分や仲間ができることに気付いて、役割分担したり、助け合ったりしながら協力して活動する。 (2) 地域のイベントでの出店を目指して、必要な情報を収集したり、意見を出し合ったりして、カフェ・ショップ出店の一連の活動に取り組む。 (3) カフェ・ショップの運営に関わる実務の取り扱いについて学ぶ。
	(3) 実施主体	秋田県立比内支援学校たかのす校高等部（「絆カフェ・ショップ」は、たかのす校単独の取組）
	(4) 対象者	秋田県立比内支援学校たかのす校高等部生徒
	(5) 実施場所	北秋田市内（主に北秋田地域振興局でのカフェ・ショップの出店）
2 取組の経緯	・カフェ出店を目指す学習が取組の始まり。作業製品を販売するショップのポスター・装飾作り、製品の在庫管理など、<u>高等部生徒全員が取り組む活動を設定。</u> ・卒業後の継続を願い、令和2年度からは、「<u>ささえカフェ</u>」（北秋田市障害者生活支援センターささえに集う“なかま”が運営するカフェ）と合同での学習を実施。以前から作業製品共同開発などでつながりのある<u>北鷹高校とも連携し、第1回なかま市へと発展した。</u>	
3 具体的な取組	・地域振興局での定期的な出店。 ・ささえカフェとの連携は、ささえの職員がたかのす校でカフェの研修を実施し、学校がカフェのノウハウを提供。 ・その後障害者の生涯学習モデル事業の連絡協議会の中で「チームつながり」として「ふれあいプラザコムコム」を会場にしたイベントへと発展。<u>北鷹高校、たかのす校の販売、カフェコーナーを共同で運営した。</u>	
4 予算	作業製品販売の売り上げ、学部運営費を運営予算としている。	
5 取組の成果	・高等部生徒の変容（個別の事例：3年間の変化） 1年時：接客技能、良好な接客態度の意識が向上。（学校での挨拶等が良好になる） 2年時：生徒同士、お互いの良さを認め合ったり、友達の良いところを真似してみようとしたりする。 ・職員の変容 3年時：後輩に接客技能を教えたり、見本となる接客態度を身に付けたりする。 ・<u>「卒業後の生活への接続」を意識するようになってきており、在学中の取組を卒業後につなげる可能性や、地域のニーズを学習活動に反映させる点について、情報交換を関係機関ともつように努めている。</u>	
6 取組の課題	・生徒数の減少傾向と障害の重度・重複化に対応した学習内容・学習活動の設定。 ・卒業後生活介護サービスを希望する生徒が多いため、接客等、カフェ運営が難しい場面が想定される。 ・<u>障害の重い方の学びについては、ささえの職員と共通の課題として認識している。</u>	
7 今後の展望	・現在の取組を継続しながら、「ささえカフェ」（北秋田市障害者生活支援センターささえに集う“なかま”が運営するカフェ）と合同で商品開発に取り組むなど、<u>活動の幅を広げていく。</u> ・障害者と健常者のかかわりは難しい面もあるが、「<u>集ってみようかな</u>」と感じ、人とのつながりができるような機会を大切にしていきたい。（内陸線の取組など）	
8 障害者の声	保護者の声： <u>卒業後の「学びの場」が少ない</u> （北秋田市の場合、「学びの場」は多くはないが、生涯学習の場を設定している関係機関は情報発信をしており、在学中から、生徒・保護者へ生涯学習の情報、学習の意義を伝えていきたいと学校でも考えている）	

担当：栗田、佐藤、羽川（訪問による実施）

令和2年10月1日		秋田県立能代支援学校
10:00～11:00		進路指導主事 虻川 由作
1 取組の概要	(1) 取組名	文部科学省委託の県事業「障害者の生涯学習支援モデル事業」（能代市中央公民館）との連携による活動
	(2) ねらい	本事業全体のねらいを共有し、地域の特別支援学校という立場から、関係機関との連携による生涯学習支援の理解促進及び活動の充実を図る。
	(3) 実施主体	能代市中央公民館、能代支援学校
	(4) 対象者	能代山本管内の障害のある方（能代支援学校在校生及び卒業生を含む）
	(5) 実施場所	能代市中央公民館 能代支援学校 ほか
2	取組の経緯	令和元年度の関係者会議で能代市中央公民館との連携体制を確認している。本校青年学級との連携や、卒業生名簿等の提供を中心に取組を進めている。 <u>生涯学習の取組に学校が他と連携するのは初めて。</u> 能代市中央公民館の取組に児童生徒が参加することはあった。
3	具体的な取組	令和元年度は2回、同窓会と連携した。 ①午前：きりたんぽ会（同窓会）、午後：スポーツレク（能代市中央公民館） ②午前：同窓会活動、午後：「のしろまち灯り」作品制作 2月に行われた能代市のイベント「のしろまち灯り」では、複数の団体が制作したコロコロドミノ装置を展示する。能代市中央公民館と能代支援学校の作品を隣同士に設置し交流を図った。 能代支援学校では、同窓会活動が盛ん。 <u>会長を選挙で選び、活動内容も自分たちで決める。</u> ミュージカルのボランティアへ積極的に参加する方もいる。
4	予算	本校は協力機関としての参加のため予算等は関与なし。 学校で行う同窓会の活動は、会費から支出している。
5	取組の成果	「のしろまち灯り」への出展では、職員や卒業生、在校生が共に関わることにより、相互で達成感を共有したり、理解し合ったりすることにつながった。また、イベントで本校在校生が能代市の生涯学習の取組を知り、休日の生涯学習講座へ参加することにもつながった。 卒業生からは、「休日の余暇として楽しみ。時間を見つけて顔を出したい。」との話が聞かれた。休日家にいて外出することが少なく、外出するきっかけの一つとなっている。 <u>能代支援学校は「のしろまち灯り」に数年前から参加しているため、中央公民館との合同参加もとてもスムーズだった。</u>
6	取組の課題	本事業に関わる職員の少なさ。県のモデル事業と学校の同窓会を同じと考える職員もいる。担当の職員だけが関わっている。 参加者の固定化、少なさ。事業の周知方法。 <u>卒業後3年間は郵送によるイベント情報を通知している。</u> 今年度はコロナ対策で約300名の卒業生に、学校HPの情報等を郵送で通知した。
7	今後の展望	現在は能代市中央公民館と能代支援学校で、日程と場所を共有している。今後は、共催でイベントを運営することも検討しながら、目標を共有し、事業にあたりたい。本校HP等でも、「障害者の生涯学習支援モデル事業」のパンフレット等を載せる等検討していきたい。 能代山本障害者就業・生活支援センターと連携し、目標を共有したい。
8	障害者の声	<u>SNSトラブル等についての講座を開いてほしい</u> という希望があった。 <u>仕事上の悩みを打ち明ける場所にもなってほしい</u> という希望があった。 本人、保護者がどういった情報を必要としているか、知りたい。 <u>車椅子の方も保護者が送迎し参加している。</u> <u>受け入れのスタッフが不足することがある。</u>

担当：栗田（ZOOMによる実施）

令和2年10月23日		秋田県立視覚支援学校
10:00～11:00		進路指導主事 泉 良昌
1 取組の概要	(1) 取組名	①高等部生活情報科（1年課程） ②あいサポート教室
	(2) ねらい	①視覚の障害に応じたQOL（生活の質）の向上を目指し、積極的に社会へ参加することを目指している。②視覚障害のある方に対するQOLの向上と社会自立を目指した生活技能について、一定期間の相談、体験活動を支援する。
	(3) 実施主体	視覚支援学校
	(4) 対象者	①中途視覚障害者 ②視覚障害のある方（本校に相談に来られた方）
	(5) 実施場所	①校内外（街歩き支援など） ②主に校内・敷地内
2 取組の経緯		①②ともに南ヶ丘に移転してから立ち上げた。
3 具体的な取組		①高等部生活情報科 ・中途障害の方が多く（今年度は4名）、 <u>できていたことができなくなる、という段階からスタートする。</u> ・生活再建に向けて、調理、街歩き、創作等の学習を行う。 ・歩行指導は、資格のある専門の職員が行っている。 ②ロービジョン支援センター 生活情報支援班 ・情報・コミュニケーションに関する内容、日常生活動作に関する内容、歩行・移動に関する内容をバランスよく実施。
4 予算		特に無く、物品等を購入した際に必要に応じて徴収するなど（①）。
5 取組の成果		①視力を失って諦めていたことの中にも、いろいろできることがあると分かり、 <u>意欲を取り戻した。</u> ②見えなくてやり方が分からなかったことでも、やれる方法を教えてもらって生活の幅が広がった。
6 取組の課題		・人数自体が少なく、みんなでやる活動がしにくい。 ・歩行指導等を専門的にできる職員が少ない（現在2名）。 ・本人と一緒に活動を体験しないと支援の仕方が分からない。時間が必要。
7 今後の展望		・展示、音声アプリなど、情報の取り方を指導していく。 ・ニーズを吸い上げ、様々な人と関わる機会を増やす。 ・不安を解消し、有効な支援をすくい上げる。そのためにロービジョン支援センターなどできめ細かい支援を行っていく。
8 障害者の声		・生活において、不便が限りなく出てくる。 ・周囲の把握、移動に困難があるだけでなく、情報弱者にもなりやすい。 ・一度行ったことがある、経験がある、ということが自立や指導に大きな意味をもつ。
担当：栗田（ZOOMによる実施）		

令和2年10月14日		秋田県立聴覚支援学校
15:00～15:40		進路指導主事 幡宮 明
取組の概要	(1) 取組名	部活動、教科指導
	(2) ねらい	将来へのつながりを意識した教科指導、部活動指導により、生涯を通じて健康、文化面において生活を豊かにする。
	(3) 実施主体	聴覚支援学校職員（聴覚支援部活動担当、地域の中学校・高等学校部活動指導者）
	(4) 対象者	中学部・高等部生徒
	(5) 実施場所	聴覚支援学校、地域の小学校・中学校・高等学校
2	取組の経緯	聴覚支援学校生徒、卒業生の中には、デフリンピック（聴覚障害者の世界大会）を目指し、実際に出場する方もいる。そうした生徒のニーズに応えるために、部活動に力を入れてきた結果、卒業後の余暇にもつながっている。
3	具体的な取組	<u>部活動</u>：基本的に週5日間。運動部（陸上、卓球）は大会出場に向けて強化練習。 ①陸上部：地域の中学校の練習に参加。陸上競技場の合同練習にも参加。 ②卓球部：地域の高等学校との練習や練習試合。 ③美術部：秋田県高等学校総合美術展（高美展）への出展に向けての取組。 ④部活動以外：寄宿舍での茶道体験、フラワーアレンジメント体験。 <u>交流学习</u>：下北手中学校と体育祭を行い、「一緒にスポーツを楽しもう！協力し合おう！」のテーマのもと、ソフトバレーボール、チームロープジャンプ、ボッチャ、ソフトテニスの種目を体験した。
4	予算	部活動費
5	取組の成果	・第22回夏季デフリンピックブルガリア・ソフィア大会、陸上競技で入賞した日本代表の選手2名（H19卒阿部祐介選手：400m、4×400mリレー6位、H22卒小松彩香選手：400m7位、4×100mリレー6位）。 ・日本ろうあ者卓球協会指定（高等部生徒）など部活動出身者が全国、世界で活躍している。卓球の松本選手は、<u>地域で卓球を習い、一般の方と一緒に練習を行ってきた。</u> ・秋田県高等学校総合美術展では、絵画部門、デザイン部門、写真部門で高等部生徒が入賞している。
6	取組の課題	生徒数減少による部員数の不足。 <u>重複障害の方が地域で充実した活動ができる場が少ない。</u>
7	今後の展望	新学習指導要領の実施に伴い、今後も将来の生活を見据えた教科指導を行う。部活動についても同様で、生徒が将来の生活に希望をもてるよう応援する。
8	障害者の声	・「デフコミュニティ」という聴覚障害の方のネットワークがある。そうしたつながりなどから、手話サークルに所属し講師を務める、大学サークルに所属する、フットサルやバスケ、バレーなどのスポーツを楽しむ方もいる。先輩から誘われる例もあるなど、<u>ネットワークを活用し生活を充実させている方がいる。</u> ・<u>重複障害の方は、地域ごとの集まりがあっても情報保障の面、コミュニケーションの難しさなどから、孤立する傾向にあるのではないか（本人でなく担当の先生の声）。</u>
担当：栗田、羽川（訪問による実施）		

令和2年10月2日		秋田きらり支援学校
10:00～11:00		進路指導主事 近江 美歩
1 取組の概要	(1)取組名	同窓会活動、かがやきの丘まつり
	(2)ねらい	同窓会：会員相互の励ましと親睦の機会とする。母校の教育の発展に寄与する。 かがやきの丘まつり：地域の方との交流を深め、理解啓発を促進する。
	(3)実施主体	同窓会活動：秋田きらり支援学校 かがやきの丘まつり：秋田きらり支援、聴覚支援、視覚支援（エリア3校）で連携
	(4)対象者	同窓会活動：卒業生 かがやきの丘まつり：エリア3校児童生徒、関係事業所、地域の方 等
	(5)実施場所	同窓会活動：秋田きらり支援学校 かがやきの丘まつり：かがやきの丘駐車場等
2 取組の経緯		同窓会：H23から実施。 かがやきの丘まつり：H23からエリア3校合同で目的を共有し実施。
3 具体的な取組		同窓会：例年役員会、同窓会総会、成人を祝う会を実施。年2回会報を発行。運動会や学習発表会（きらり祭）へは案内を送付。学習発表会（きらり祭）では、ステージ発表だけではなく、福祉サービス事業所の販売もあり、卒業生を含む参加者との関わりがある。 かがやきの丘まつり：町内会との交流がある。イベントコーナーでは地域の団体が参加し音楽等を披露、3校生徒会も企画したクイズ等を行っている。日赤看護大の防災ブースでは、秋田コアビジネスカレッジボランティアとの関わりもあった。
4 予算		同窓会：年会費は1、000円
5 取組の成果		同窓会：成人を祝う会は、成人を迎えた卒業生、同窓生、職員、保護者を招き、学校で行う。施設設備面を考慮し、同窓会活動はすべて学校で実施している。学校で開催することで、本人、保護者も安心して参加している。 かがやきの丘まつり：エリア3校と隣接する医療療育センターだけではなく、町内会、福祉サービス事業所など地域に広く宣伝することにより、卒業生も多く参加する行事となっている。日程に縛られずに好きな時間に来て帰ることができたり、知り合いが集ったりすることで、卒業生の保護者も楽しみにして気楽に参加している。
6 取組の課題		・同窓会：駐車場、段差、トイレ、エレベーター等施設設備面で、卒業生が一堂に集まれる会場となると、学校が無難となる。成人を祝う会はホテルなどを会場にすることで、生活経験を増やす機会になると思うが、設備面で課題がある。 ・保護者が送迎しなければ出かけられない人も多く、集まる際には支援者の数も必要となるため、マンパワーが不足する。
7 今後の展望		青年学級として「ボッチャ大会」や「ピン倒し大会」等を企画できないか、進路指導部内で案を検討している段階。 日 程：年1回、同窓会総会・祝う会の後、もしくは別日。 対 象：同窓生、地域の障害をもっている18歳以上の方。
8 障害者の声		・介助が必要なため、一人での外出や支援を依頼しての外出が億劫。もしくは、介助する保護者の負担が大きい。 ・建物自体のバリアフリー化が不足している。 ・トイレ設備に不足があり参加しにくい。 ・個人でボッチャサークルに入る方、プロレス、バスケットボール観戦を楽しむ人もいる。保護者が送迎している例が多い。 ・卒業時、外出、レクなどの行事がある福祉事業所の利用を望む声もある。
担当：栗田（ZOOMによる実施）		

令和2年10月22日		秋田県立栗田支援学校
9:00～9:40		進路指導主事 渋谷 真二
1 取組の概要	(1) 取組名	①同窓会活動：卒業生のつどい、成人を祝う会、レクレーション ②エンジョイクラブ（試行）
	(2) ねらい	①情報交換や近況報告をしながら、卒業生同士の絆を深める。 ②生涯スポーツの需要を知る（事務局、学校）。仲間と一緒にスポーツを楽しむ。体を動かす喜び（参加者）。
	(3) 実施主体	①栗田支援学校（進路指導部、他職員任意） ②栗田支援学校（特別活動部、特体連事務局：寄宿舍職員含む）
	(4) 対象者	①、②共に栗田支援学校卒業生
	(5) 実施場所	①、②共に栗田支援学校
2	取組の経緯	①卒業生が集まれる場、職員は状況を知る場として実施。 ②来年度の新組織設立に向け、生涯スポーツの需要を栗田支援学校卒業生を対象に調査。
3	具体的な取組	①同窓会活動 4月 卒業生の集い（近況報告、カラオケ等レクレーション） 8月 同窓会総会・成人を祝う会 10月・11月 レクレーション（カラオケ、ボッチャ、綱引きなど） 2月 秋田県綱引選手権に参加（在校生1チーム、卒業生1チームで出場） ②エンジョイクラブ 10月 バスケットボール実施
4	予算	①同窓会費や学校後援会費より支出：卒業後3年以内の方に郵送。 ②今年度は予算化されていない。
5	取組の成果	①コロナ禍で成人を祝う会のみ実施。対象を成人の方に絞った。参加者からは、祝う会に参加することができてよかった、という声が聞かれた。 例年であれば、市内のホールで実施。100名近い参加者がいる。 ②バスケットボール参加者は、卒業後運動する機会が少なく、楽しんでいる様子がみられた。
6	取組の課題	①例年土曜日に開催している。勤務等の関係で参加できる人とできない人がいる。情報の周知については、機器を持っている人、扱える人は対応できるが、すべての人には届かない可能性がある。スマートフォン等の操作、情報モラルに関しては、生徒指導部が昼休みを利用して指導している。
7	今後の展望	①、②共に日曜日の開催。参加人数を増やしたい。
8	障害者の声	①今年度はコロナ禍により会自体が延期、縮小等で参加できない卒業生がいる。仲間、恩師に会う機会が少なく、寂しいという声があがっている。 ②今後もスポーツを行う機会があればよい。

担当：栗田、佐藤（訪問による実施）

令和2年10月8日		秋田県立支援学校天王みどり学園
15:30～16:30		進路指導主事 渋谷 純一
1 取組の概要	(1) 取組名	わくわくサークル（青年学級）
	(2) ねらい	・地域に住む障害のある青年たちの生涯学習の場を保障し、精神的な支えの場、学習及び文化的活動の場としての役割を果たす。 ・公共施設を利用した活動を通し、障害者の生涯学習に対する地域への理解啓発を図る。 ・諸活動を通し、障害者の余暇の充実と活性化を図る。
	(3) 実施主体	天王みどり学園（進路指導部、地域支援部、希望職員）
	(4) 対象者	本校卒業生及び <u>地域の障害のある方</u>
	(5) 実施場所	本校及び地域の施設等
2	取組の経緯	平成18年11月に第一回青年学級が開催。その後回数や内容を変更し実施している。
3	具体的な取組	①夏祭り出店：駄菓子屋の出店。 ②バーベキュー：天王グリーンランド。 <u>地域の障害のある方も参加。</u> ③タブレット教室：学校開催 ④ボウリング：地域のボウリング場 卒業生への <u>個別の郵送の他、市役所、福祉事業所等にポスターを掲示し周知している。</u> 今年度はコロナ禍でレクリエーションを校内で2回実施（1回目終了、ボッチャ、ピン倒しボール。2回目1月実施予定）。
4	予算	参加者負担を基本とし、運営に関わる費用（通信費）等は学校後援会費より支出
5	取組の成果	・卒業生は活動を楽しみにしている。世代を超えた関わりが生まれる。 ・職員は卒業生との自然な関わりができ、事業所の担当者等との交流ができる。また、悩みを聞くなどフォローアップの場になり、離職対策につながったこともある。
6	取組の課題	参加者がほぼ固定している。青年学級の内容がニーズを反映させているか、地域への広がりには十分かといった点。 <u>地域において気兼ねなく出られる場とのマッチング、本人と、保護者のレーダーをどのように保証していくのか。</u> 通信費の削減方法。紙媒体の方が安心する卒業生もいるのではないかとといった配慮により、卒業生全員に郵送し情報提供している。
7	今後の展望	<u>学校だけの運営でなく、福祉事業所で実施する余暇活動とのコラボ、高校生ボランティアの活用などを視野に入りたい。</u> <u>選挙を取り上げた講座など、時代のニーズに合わせた内容を企画したい。</u>
8	障害者の声	直接本人から新たな活動を希望する声は出ていないが、今年度のように活動の変更があると「〇〇のお知らせが来ていない」、「△△は今年ないのか」など問い合わせがくることがある。保護者は子どもが地域に出られる機会を楽しみにしている。 <u>障害の重い方は学校で行う成人を祝う会には頑張って参加する。地域行事への参加については、ゆだねられる安心感、本人の意思などを考えると、保護者の負担が大きいのではないかと。</u>

担当：栗田（ZOOMによる実施）

令和2年10月9日		秋田県立ゆり支援学校
10:00～10:40		進路指導主事 三浦 智己
1 取組の概要	(1) 取組名	秋田県立ゆり支援学校同窓会
	(2) ねらい	同窓生同士の関わりや学校との絆を大切に深める。
	(3) 実施主体	ゆり支援学校（進路指導部、参加希望職員）
	(4) 対象者	ゆり支援（養護）学校中学部・高等部卒業生
	(5) 実施場所	ゆり支援学校、地域のホテル
2 取組の経緯		ゆり養護学校2年目となる平成14年発足。毎年7月に同窓会総会や成人を祝う会を行うとともに、レクリエーションを行っている。同窓会は、開校初年度の卒業生が20歳を迎えることを期に発足した。 その他、5月の運動会で同窓生参加の競技、10・11月の学校祭で集いの場を用意している。
3 具体的な取組		運動会：卒業生約40人参加。卒業生の参加種目を設ける他、ダンスで在校生、職員と関わる時間も設けている。 学校祭：一般参加者として卒業生約70人（同行者含む）参加。在校生の発表を参観したり、在校生が授業で作成した作業製品販売を購入したりしている。 同窓会総会：成人を祝う会と兼ねて地域のホテルで実施。会食やレクリエーションを通じ、仲間や職員との情報交換の場になっている。 参考：令和元年の参加者数同窓生49人、保護者17人、賛助会員7人、現職員31人の計104人。近年の参加者数に大きな変動はない。
4 予算		参加希望者から年500円の会費を集めている。会費を納めた方に、はがきや会報を送付している（年3回）。その他、同窓会総会や成人を祝う会で撮影した集合写真も送付している。
5 取組の成果		・卒業生の近況報告を受け、状況に応じて追指導につながられている。仲間に会えることを喜ぶ卒業生の様子が見られる。 ・同級生に限らず、 <u>異年齢の卒業生と互いに交流</u> を楽しんでいる。
6 取組の課題		・卒業後2年位は参加人数が多いが、成人を祝う会を終えると、参加する卒業生が減少し、参加する会員はだいたい決まっている。 ・ <u>障害の重い卒業生においては、継続した参加が難しい</u> 。特に担任した教師が異動することによって、参加を控える様子がある。
7 今後の展望		本校開催の同窓会は、現在の実施方法で定着している。一昨年度から由利本荘市成人式への参加を呼びかけるなど、地域開催の行事へ参加を呼びかけており、成人式参加における由利本荘市生涯学習課との連携も定着しつつある。今後も、生涯学習課からの呼びかけ等により、地域で行われる生涯学習や行事への参加につながられるよう、「チームゆり支援」の輪を広げられるようにしていきたい。
8 障害者の声		地域の生涯学習も含め、様々なことに関する情報が不足しているため、情報を取得しやすい環境を整えて欲しい。 インターネット環境が無い方もいる。知っている人がいる、誘ってくれる人がいるといった、 <u>ネットワークの必要性</u> を感じている。

担当：栗田（ZOOMによる実施）

令和2年11月19日		秋田県立ゆり支援学校 道川分教室
16:30～16:50		教諭 小松 百子
1 取組の概要	(1) 取組名	卒業生支援
	(2) ねらい	独立行政法人国立病院機構あきた病院に入院している道川分教室高等部卒業生が、 <u>卒業時までに身に付けた経験や生活リズムを病棟での生活スケジュールの中で発揮し、スムーズに卒業後の生活に移行できるように支援する。</u>
	(3) 実施主体	ゆり支援学校道川分教室職員 「保健・指導部」 中心に全職員で実施。
	(4) 対象者	前年度高等部卒業生
	(5) 実施場所	あきた病院内及び敷地内
2 取組の経緯	在学中は週 1 4 から 1 6 時間の教育活動を行っているが、卒業と同時に学校生活の部分がなくなり、 <u>医療が中心の病棟生活に戻る</u> こととなる。環境の変化が大きいことから、できるだけ段階的に病棟生活に移行できるようにしたいと考え、始まった。	
3 具体的な取組	・卒業生支援の実施に当たっては、高等部 3 年次に保護者から卒業生支援の参加希望や支援内容の要望を聞き取り、個別移行支援計画に反映させる。<u>それを基に保健・指導部が作成した卒業生支援年間実施計画書を主治医に提示し、本人の体調等から参加の可否や個別の配慮事項に関する指示を受けている。</u> ・4 月に全職員で支援対象者の実態や配慮事項を確認し、支援を開始する。 ・支援期間は、卒業後の 1 年間、1 回 2 0 分、年間 2 0 回程度を計画している。 ・内容は読み聞かせや歌、卒業生が集まってのゲーム、病院敷地内の散策など。 ・5 年ほど前までは卒業生の担任や高等部所属の職員で運営していたが、現在は、<u>分教室の全職員がローテーションで支援に当たっている。</u> ・1 年間のまとめとして、活動の様子をピックアップして記載した「活動報告書」を個別に作成し、保護者と病院の関係部署に配付している。	
4 予算	予算はない（予算を必要とする活動はしていない）。	
5 取組の成果	・同級生と会ったり、活動を楽しんだりして「快の表情」がたくさん見られる。 ・実施に当たった希望調査では、<u>保護者からの要望が高く、すべての卒業生が支援を受け、事後には保護者から喜びや感謝の言葉をいただいている。</u> ・病棟との連携が欠かせない取組であるが、<u>卒業生支援を重ねてきたことで病棟での認識が深まり、円滑な移行支援となっている。</u>卒業後は、他の入院患者と同様に病院の療育活動に参加する（担当は各病棟の保育士）。	
6 取組の課題	今年度においては、新型コロナウイルス感染防止のため、学校職員は自分が担任している児童生徒が所属する病棟以外に入ることが制限されている。したがって、卒業生が所属する病棟に配属になっている職員だけで支援に当たっている。たくさんの職員と関わってほしいという願いの下、全職員での支援を計画していたが難しい状況にあり、特定の教師としか関わることができない。	
7 今後の展望	令和 4 年度に閉室を控えているが、それまでは実施する。	
8 障害者の声	本人は回答が難しいが、笑顔で活動に参加したり同級生や職員との関わりを楽しんだりする様子が見られる。 <u>卒業後、学校の時間が全くなくなることに不安を抱く保護者も多く、来院した折に活動の様子を伝え、喜びの言葉をいただくことが多い。</u>	

担当：栗田（電話、メールによる実施）

令和2年10月20日		秋田県立大曲支援学校
10:30～11:30		進路指導主事 北林 拓也
1 取組の概要	(1) 取組名	「ふれあいハッピースクール」
	(2) ねらい	卒業生を中心とした障害のある方が安定した社会生活・地域生活を送ることができるように、余暇の活動の充実を図る。
	(3) 実施主体	大曲支援学校進路指導部
	(4) 対象者	大曲支援学校卒業生
	(5) 実施場所	大曲支援学校
2	取組の経緯	・少なくとも5年以上前から行われていた。講師もこの5年間は変わっていない。 ・案内については、卒業後10年間は卒業時に徴収した同窓会費から郵券代を出している。11年目以降は、同窓会費を継続して納入すれば、郵送による連絡を行っている。
3	具体的な取組	・茶道、フライングディスク、グラウンドゴルフの3講座から1つを選択して受講する。 ・通常は年3回（6・8・9月）の実施としているが、今年度はコロナウイルス感染拡大防止のため2回の計画（8・9月）としていた。しかし、1回目は直前に大仙市で感染者が出て中止とした。2回目は悪天候のため中止とした。 ・例年は卒業生35名程度が参加している。（大曲支援学校卒業生は約30年で550名） ・地域の方等が講師として協力している。（茶道：地域住民、フライングディスク：フライングディスク協会から派遣、グラウンド・ゴルフ：地域の同好会参加者）
4	予算	1回300円の受講料を徴収している。
5	取組の成果	・参加者は、卒業生と会うことを楽しみにしており、毎年参加している人が多い。 ・リピーターは多い。 ・グラウンド・ゴルフは、全3回の開催のうち1回は、大曲支援学校主催の「秋山台カップ」（地域の方も参加するグラウンド・ゴルフの大会）と同時開催・参加するようにしている。<u>地域住民も多く参加している。</u>
6	取組の課題	卒業生の、大曲支援学校での生涯学習に関する情報の入手手段・・・学校からの通知が主。友人間の情報のやりとりはある。 <u>→学校からの通知以外に「情報を取りに行く」方法がないか。</u>
7	今後の展望	<u>同窓生が主体となって運営できるようになってほしい。</u> 現在は学校での開催となっているので、地域に出での活動を企画できるとよい。
8	障害者の声	「こういうスポーツをやりたい」という意見はあるかもしれないが、担当のところまでは上がってきていない。

担当：進藤、菊地、栗田（訪問による実施）

令和2年10月20日		秋田県立大曲支援学校せんぼく校	
13:30～14:30		進路指導主事 佐藤 豪	
1 取組の概要	(1)取組名	①「子ども演劇体験講座（高等部宿泊学習）」②「せんぼく桜スクール（ヨガ教室）」③「せんぼく桜スクール（グラウンドゴルフ大会）」 ※B、Cは青年学級	
	(2)ねらい	①・周りの人とコミュニケーションを図る力を伸ばす。 ・自己の気持ちや感情を表現する技能を高める。 ②・地域の公民館講座の参加に興味をもつ。 ③・同窓生同士の親睦を深める。	
	(3)実施主体	① 大曲支援学校せんぼく校、仙北市教育委員会生涯学習課 ② 大曲支援学校せんぼく校同窓会、仙北市教育委員会生涯学習課 ③ 大曲支援学校せんぼく校同窓会	
	(4)対象者	① 大曲支援学校せんぼく校高等部1・2年生徒 ② 大曲支援学校せんぼく校同窓生 ③ 大曲支援学校せんぼく校同窓生	
	(5)実施場所	① わらび座 劇団員練習用小劇場 ② 大曲支援学校せんぼく校体育館 ③ 大曲支援学校せんぼく校グラウンド	
2 取組の経緯		・せんぼく桜スクール（青年学級）を地域と連携した形で実施したいと考え、昨年度から仙北市教育委員会生涯学習課と連携して計画を進めてきた。角館、西木、田沢湖にある公民館講座に新規で加える形で行うこととした。	
3 具体的な取組		※仙北市教育委員会生涯学習課と連携した取組（①、②）のみ記載 ①・あきた芸術村わらび座の劇団員の方々の協力を得て、高等部の宿泊学習における体験学習として計画した。自分で考えた好きな言葉をつなぎ合わせ、みんなで一つの劇を作り上げた。 ②・当初は仙北市に住むすべての障害のある方（せんぼく校同窓生含む）を対象として、ブルーベリー狩りや制作活動を公民館講座に組み入れて計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、中止となった。その後、生涯学習課と協議し、田沢湖公民館の講座として、せんぼく校同窓生のみを対象としたヨガ教室を9月に延期して開催することになった。	
4 予算		・仙北市教育委員会生涯学習課と連携して進めているため、講師依頼料等の経費は生涯学習課で負担している。	
5 取組の成果		①・事前に劇団員の方々とやりとりをしていたこともあり、当日はすぐに打ち解け、お互いに笑顔で交流することができた。生徒たちも普段の生活では発しないような声量で気持ちを表現する場面が多く見られた。また、終了後にはわらび座取締役劇場事業本部長より、「今後も新たな形で学習活動に関わらせてほしい」との申し出があった。 ②・開催当日は、同窓生18名中、12名が参加するなど、初の開催に興味をもって参加する同窓生が多かった。講師も障害のある方へのヨガ教室に興味を抱いてくださり、参加者の言葉の理解の程度や身体面の注意点等について、詳しく知っていただくことができた。	
6 取組の課題		・新型コロナウイルス感染症の影響で、毎回の開催には慎重な判断を強いられている。当初の計画であった、仙北市のすべての障害者の方を対象とした公民館講座については、不特定多数の方が集まってしまうことから、次年度も開催は難しいと思われる。	
7 今後の展望		・地域の公民館や観光施設等を会場にするなど、徐々に地域に移行する機会を作っていく。また、仙北市に在住する障害者を対象とした公民館講座として開設してもらえよう、仙北市教育委員会生涯学習課と連携して進めていく。	
8 障害者の声		・同窓生については、生涯学習そのものに対する関心よりも、旧友や教師に会いに来る感覚で参加している印象が強い。本人や保護者からの要望は今のところ特にない。	

担当：菊地、進藤、栗田（訪問による実施）

令和2年10月15日		秋田県立横手支援学校
14:00～15:00		進路指導主事 朝倉 知司
取組の概要	(1) 取組名	同窓会、アンテナショップ
	(2) ねらい	同窓会：親睦を深める。余暇支援の充実。イベントを通じた学び合いの場を創出。 アンテナショップ：地域への理解啓発、作業製品の質の向上、達成感を味わう場。
	(3) 実施主体	同窓会：同窓会（事務局は学校）、進路指導部、希望する職員、PTA アンテナショップ：中学部、高等部
	(4) 対象者	同窓会：同窓生（約300人：昭和54年開校） アンテナショップ：中学部生、高等部生
	(5) 実施場所	同窓会：学校、地域の施設（公民館など） アンテナショップ：地域の店舗3か所
2	取組の経緯	同窓会：開校当初から実施。 アンテナショップ：地元企業と連携した作業製品の開発、地域の伝統野菜、十文字和紙など作業学習の取組の一環で実施。
3	具体的な取組	同窓会 ・年6回実施（今年度は成人を祝う会1回）。 ・例年は運動会、学校祭、スポーツレク、吹奏楽、鍋っこ等を実施。 ・スポーツレクはフットサル、ボッチャ（外部講師：ボランティア）。 ・吹奏楽は横手清陵学院高校、鍋っこはPTA（親父の会）が実施するなど、学校職員以外も実施。 アンテナショップ ・生徒が納品し、地域の方と接しながら運営している。
4	予算	同窓会費は卒業時に1,000円。現在は約100名に年3回郵送。支える会（在校生並びに卒業生の社会的自立を援助、教育の振興・充実を図ることを目的に発足した会）からも支出。
5	取組の成果	同窓会 ・就職している卒業生が、 <u>楽しみにして仕事を頑張っている</u> という声を聞く。 ・成人を祝う会に出席した保護者からは、喜びの声が聞かれる。 <u>地元の成人式と2回出席する方</u> もいる。 ・職員に関しては、卒業生の近況を知るだけでなく、共通の話題での会話を楽しむなど、社会人として接している様子が見られる。 アンテナショップ ・生徒が <u>製品の説明を求められたり、店の方と自然なやりとりが生まれたり</u> する中で達成感を得ている。
6	取組の課題	同窓会 ・スポーツレクは「またやりたい」という感想もある中、 <u>個人でやるにはどうしたら良いか、などの相談</u> もある。 ・内容、メンバーが固定化されている。若い人の参加が成人を祝う会が過ぎると減る。
7	今後の展望	同窓会 ・障害者就業・生活支援センターと合同でできることがあれば。 ・高等部3年生から社会へのつなぎの部分を工夫する。
8	障害者の声	同窓会 ・参加した方は楽しめている。 ・学校の担当としては、お金をかけずに楽しめる方法を卒業生が身に付けることができるように、 <u>無料の講師、地域のボランティアを活用した実践</u> をしていきたい。

担当：栗田（ZOOMによる実施）

令和2年10月21日		秋田県立稲川支援学校
15:30～17:00		進路指導主事 佐藤 貴子
1 取組の概要	(1) 取組名	青年学級 in TABIJI
	(2) ねらい	・地域の生涯学習支援スペースの利用をとおして自分の興味関心のある事柄について学んだり、ライフステージの各段階で必要な知識を得たりして、生涯にわたって学び続けることができるようにする。(卒業生) ・地域の生涯学習支援スペースの利用体験をとおして、生涯学習について知り、卒業後にスムーズに利用ができるようにする。(高等部3年生)
	(3) 実施主体	トータルサポートスクール リード学舎
	(4) 対象者	卒業生(卒業して5年以内)、高等部3年生
	(5) 実施場所	トータルサポートスクール リード学舎、その他公共施設
2 取組の経緯	秋田県障害者の生涯学習支援モデル事業委託「YUZAWAアダプタサポートTABIJI」の開始を機に、<u>従来の青年学級の課題</u>となっていた事項の改善を目指して、青年学級の共催を始めた。 ※従来の青年学級の課題 ・多様なニーズに応えられる内容の設定 … 一般就労の方々が楽しめるような内容となると、参加している方々のニーズと合わないことが考えられる。 ・参加者の固定化 … 一般就労した方々は欠席の傾向にある。 ・ライフステージの各段階に応じた学びの機会…一般就労の方々がこれに近い方々を対象にすることを考え、TABIJIに頼った。	
3 具体的な取組	○令和元年度 〈第1回〉「iPadを体験しよう①」写真加工アプリを活用した写真のコラージュとフレームの装飾、塗り絵アプリ 〈第2回〉「iPadを体験しよう②」美文字判定アプリ体験、名刺づくり、クッキーデコレーション ○令和2年度 〈第1回〉12月実施予定。「スポーツを楽しもう！」e-スポーツ、ボッチャ ※12月13日実施。	
4 予算	卒業生への郵送料はリード学舎が支出。(発送準備は、学校) ※お知らせを希望する案内対象の卒業生は約70名。	
5 取組の成果	・卒業生やその家族からは、居住地域の生涯学習について知ることができた、今後も利用したいとの感想が聞かれた。 ・職員からは、<u>生涯学習について考える機会になった</u>との感想が聞かれた。 ・卒業後5年以内の卒業生に、青年学級の内容についてのアンケートを実施した。カラオケ、スポーツの希望が多かった。青年学級でこれまで行われてきたものを希望する傾向があった。 ・就労継続支援B型を利用している方から得られた反応がよかった。	
6 取組の課題	・内容によって、想定した人数に満たなかったり、人数を制限したりすることがあった。 ・コロナ禍で延期になった活動の再開を知るタイミングが遅くなり、連携不足を感じた。 ・一般就労の方々は、余暇においては自分たちで集まって楽しんでいる模様。そのため、学校に来る必要性がないようにみられる。	
7 今後の展望	・地域の生涯学習支援について周知し、利用を促したい。昨年度は参加人数に上限を設けた。今年度は会場を別に設定することで、学校主催の青年学級と同様、幅広く参加を呼びかけたいと考えている。 ・<u>高等部3年生に参加を呼び掛けている。</u>参加は任意のため、今年度は青年学級実施日とは別に学校の学習活動として見学や体験の機会を設定し、<u>卒業後のスムーズな利用につなげたい</u>と考えている。	
8 障害者の声	・TABIJIの活動が土曜日のため、仕事で行くことができない方もいる。 ・本人が一人で行くことができず、保護者の都合が合わないに参加できない。	

担当：佐藤、栗田（訪問による実施）

令和2年10月15日		秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
13:00～14:00		進路指導主事 黒木 良介
1 取組 の 概 要	(1)取組名	【研究】「児童生徒の『生涯学習力』を高める教育課程の編成」 ・夏のセミナー（8月実施 オンライン）・公開研究会（1月実施予定）
	(2)ねらい	【小】表現活動を通して、豊かな情操を養う。 【中】作業学習を通して自己理解を深め、意欲、態度を育てる。 【高】生涯学習力の基盤（知識や技能、問題解決、生涯にわたって自ら学びに向かう意欲や態度）を養う。
	(3)実施主体	学校、PTA、生涯学習課、生涯学習センター
	(4)対象者	本校児童生徒
	(5)実施場所	学校、公共施設、遊興施設
2 取組の経緯		「『生涯学習力』を高める教育課程の編成」研究の2年目（2年次計画）。「はたらく」「くらす」「たのしむ」の視点から、小学部、中学部、高等部それぞれ、 <u>生涯学習力を高める授業づくりを通して、教育課程の編成を研究。</u> ※例：高等部：「問題発見」→「問題解決」といった思考力や学び方を身に付けることで、生涯にわたって学び続ける生徒の育成につながるのではないかとして「Dスタディ」という授業を設定。
3 具体的な取組		【小】表現活動を通して、豊かな情操を養う。 【中】作業学習：紙工班はローソンと連携し、コーヒー豆のにおいとり袋を作成。 【高】Dスタディ：自分たちで目的地までの行き方を調べ、公共施設等を利用。 【PTA】チャレンジデー：県内の遊興施設を利用したり、人材を活用。 ※今年度は実施していない。 【研究】セミナーをオンラインで実施し、生涯学習についての知見等を公開。
4 予算		主に各学部の学年費やPTA会費、研究関係は学校の予算から。 大学のモデル講座は本人負担ありの予定（一日保険等）。
5 取組の成果		【職員】 ・図画工作研究授業において <u>大学教授、NPO法人代表、生涯学習奨励員と連携し実施。</u> ・ <u>現在行っている学習活動が、生涯学習と密接につながっていることを学習活動の設定や発言から見て取れる。</u> ・研究を通して、様々な公共施設を利用するだけではなく、生涯にわたって学ぼうとする意欲や考え方を学ぶ基盤を育てようとしている。 【児童生徒】 ・例：高等部の生徒はDスタディにおいてプランニング能力の向上、テイクアウトの予約経験で自信を得るなど、体験を通じた学びによる自信。
6 取組の課題		・学問的な学びに興味をもつ児童生徒への対応を含め「学びの質」を高めたり、学べる場所の情報の提供。 ・コロナ禍での体験機会の不足（ <u>地域や社会教育施設とのつながりが重要だと研究を通して職員が理解した</u> ）。 ・ <u>一人でどこかに出掛けたり、家庭でICT機器を活用したりすることは難しいことが予想される。</u> ・ <u>重度の障害のある方の学ぶ意欲への対応が可能なのか。</u>
7 今後の展望		在学中に生涯学習への意識、生涯学習を行う力を高めることができるように、教育課程を編成しようとしている。生涯学習を考えるに当たり、「はたらく」「くらす」「たのしむ」の視点は欠かすことのできないものであると捉え、3つのワーキンググループによる研究を推進している。今後は、時間割の組み替え、年間指導計画・授業時数などの検討、学部間の話合い、授業で使えるコンテンツ作りなどを行う予定である。
8 障害者の声		【職員の声】 ・在学中の仲間や先生たちに会いたい卒業生が多い。 ・ <u>地域資源の活用</u> （図書館、美術館、博物館、生涯学習センターなど）、 <u>地域人材の活用</u> （畑作り、染色、縫製、クラフトテーブル作り）。 ・ <u>生涯学習につながる様々な経験ができる学習環境を小学部段階からつくる。</u> ・ <u>地域とのつながりを授業の中に取り入れる</u> （交流、スポーツクラブ等の公共施設の利用、生涯学習奨励員の活用）。

担当：栗田（ZOOMによる実施）

ここからは、県内全ての特別支援学校高等部在籍生徒及び卒業生（卒業後３年以内）の保護者を対象に実施した「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査（アンケート）、県内の就業・生活支援センター（８か所）、特別支援学校（１６校）に対し実施した「今後望まれる障害者の生涯学習環境について」の聞き取り調査の結果に加えて、それを受けて当センターで実施した各種研修や生涯学習講座等の取組を通して見えてきた障害者を取り巻く生涯学習の状況や今後取り組むべき課題について考察していく。

まず、「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査から見えてきた本県の特徴は、全国と比較して、生涯学習の機会が必要だと認識している人や学びたいという意欲をもつ人の割合は高いが、生涯学習を継続している人の割合が低いことである。つまり、生涯学習の必要性の認識と実際の行動にずれが見られるのである。この要因として、一つは生涯学習に関する情報の不足、二つ目は学ぶ場やプログラムの不足、三つ目は共に学ぶ仲間の不足が挙げられ、これが本県が抱える課題の一端と言える。

これらについて、聞き取り調査から、各所では様々な学びの機会が構築されているが、その情報は郵送等の個別の対応で提供されていることが多く、この状況が学ぶ仲間の不足にもつながっていることが見えてきた。生涯学習に関する情報を得る方法が限られ、必要な情報が障害者の元に届いていない現状が浮き彫りになったのである。併せて、予算や人的な支援の不足により、学ぶ場やプログラムの充実を図ることが難しいという問題も明らかになった。

学習の内容や形態については、余暇や健康維持等に関するものが多く、テレビやインターネット利用等による自宅学習が全国よりもかなり低い割合となっていた。このことから、現状では同行援護や移動支援等の充実を図り、物理的バリアの解消に努めることが不可欠である。残念だったのは、公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座や教室での学びが最も低い割合だったことである。社会教育に携わる機関としては重く受け止めなければならない結果が示された。今後は、公的な機関として障害者の生涯学習支援にしっかりと取り組み、現状を改善する努力を続けなければならない。

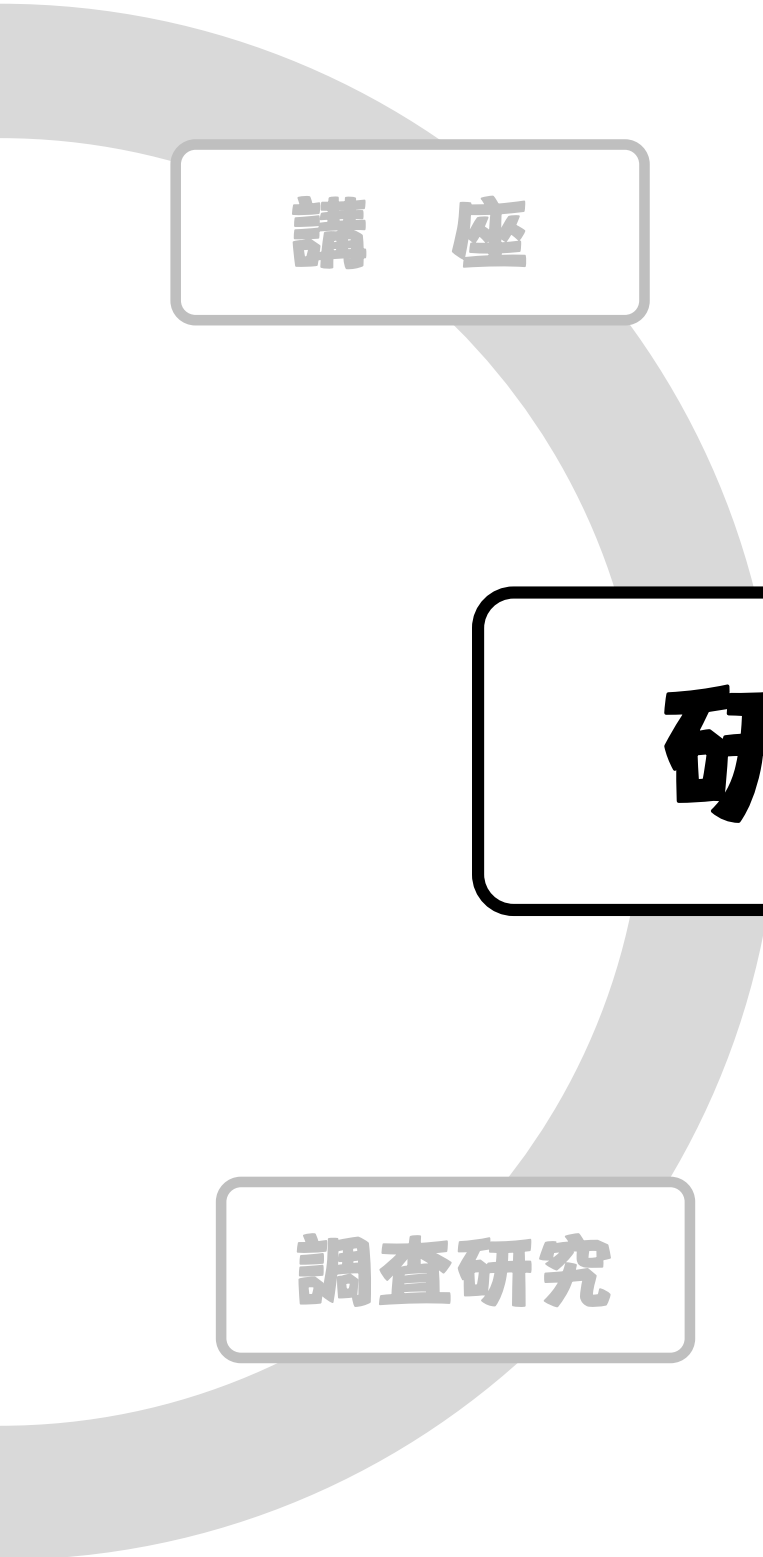
情報については、その不足が指摘され、全ての方に届く仕組みが望まれている。そして、その実現が学習の機会や仲間の不足という課題の解決にもつながると思われる。今後は全県域の関係情報を一元的に提供できるシステム構築、そのための自治体、関係機関、学校等間の連携が喫緊の課題となる。

これらの取組が進むために、前提として次のような取組の必要性も見えてきた。

一つは、特別支援学校と卒業後の生活の場となる地域（事業所、公的機関等）との連携である。特別支援学校においては、地域とのつながりを授業に取り入れ、生涯学習につながる様々な体験ができる学習環境を整えること。地域は、卒業後安心して学べる場となることが肝要である。

今一つは、障害のある方、ない方の枠を越えたネットワークの構築であり、共に学ぶ場の創出である。当センターでは、これらの調査結果を元に、県の生涯学習・社会教育の中核機関として、市町村や関係機関、民間企業と連携しながら、共生社会の実現に向けたいくつかのアプローチに着手してきた。一つ目は、障害者理解と共に学ぶ学習機会の構築について、体験を通して学ぶ内容の市町村関係職員専門研修を実施し、各市町村における学習機会の創出を促進しようとしたことである。実際、この研修に参加した市町村職員が「障害者の生涯学習」に関する事務事業を企画し、実施に向けて奮闘している例がある。二つ目は、共に学ぶ場の創出である。センター内に障害者スポーツスペースを設け、障害者スポーツを通して障害の有無にとらわれない交流機会を実現しようと試みた。これらの取組により、障害者の生涯学習に対する認識が高まり、課題解決の一助になるものと考えたからである。三つ目は、共生社会の実現を目指す取組を民間と協働して行うという試みである。アンケートや聞き取りを通して、障害者の生涯学習を推進するためには行政、民間を問わず目標を共有し、互いの強みを生かして課題解決に取り組むことの必要性がクローズアップされてきた。そこで、志を一にする企業（１０社）と連携して障害者スポーツ交流大会を企画、実施した。今後、このような取組がコンソーシアムに発展し、官民協働による学びの機会が創出されることが期待される。

この研究を通して、共生社会の実現には包摂的な生涯学習の展開が不可欠であることがわかってきた。しかし、その実現には多くの偏見や無関心が障壁になっている。今後は、幼少期からのインクルーシブ教育の必要性も視野に入れ、共生社会を目指す事業が県内各所で展開されることが期待されるとともに、本研究がその一助となることを願うものである。



講座

研修

調査研究

市町村職員専門研修① 実施レポート

実施日：令和2年9月9日（水）10時～16時 会場：県生涯学習センター及び周辺 参加者：29名

行政職員の知識や技術の向上を図るため、「市町村職員専門研修」を実施しました。1回目は「障害者の生涯学習支援～障害者の視点で街を見よう～」がテーマです。

【講義】

当センターの栗田 寿社会教育主事補が、『障害者の生涯学習』に対するニーズ調査から見てくること」と題して、また柏木 睦主任社会教育主事が、『障害者の生涯学習』講座の企画のために」と題して、それぞれ講義を行いました。前者の講義では、障害のある方の生活状況を学び、「ニーズ調査」の結果の数値の意味を考えた後、「障害者の生涯学習を進めていく上での課題について考えました。

後者の講義では、昨年度から始まった当センターでの「障害者の生涯学習」への取組について説明がありました。当センターが「調査・研究」「研修・人材育成」「学習活動推進・情報発信」の3つの機能を持っていることを活かし、「障害者の生涯学習」の中で取り組みやすい分野として「障害者スポーツ」を選択したこと、その後「障害者と防災」へと取組を拡大したことなどの説明がありました。

【体験活動】障害者スポーツ体験！～ボッチャに挑戦～

講義終了後、パラリンピックの正式競技として採用されている「ボッチャ」を体験することになりました。「ボッチャ」は1～3人以内の2チームが対戦します。バドミントンコートとほぼ同じ大きさのコートに、最初にジャックボールと呼ばれる白球を投げます。このジャックボールに向け、両チームが赤球・青球をそれぞれ投げ合い、双方がすべての赤球・青球を投げ終わった後、よりジャックボールに近い球のチームが得点を得る競技で、この研修では参加者を6チームに分け、リーグ戦で勝敗を争いました。



優勝チームには、秋田大学附属特別支援学校の生徒が作業学習で作ったお皿などの製品が贈られました。

【ワークショップ】車椅子の視点で街歩きをしてみよう！in 山王

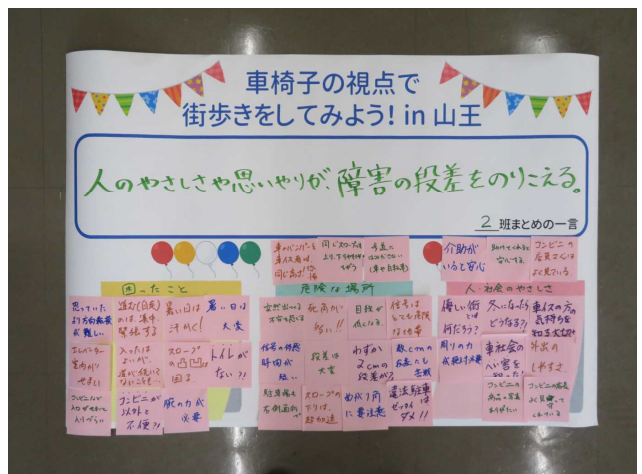
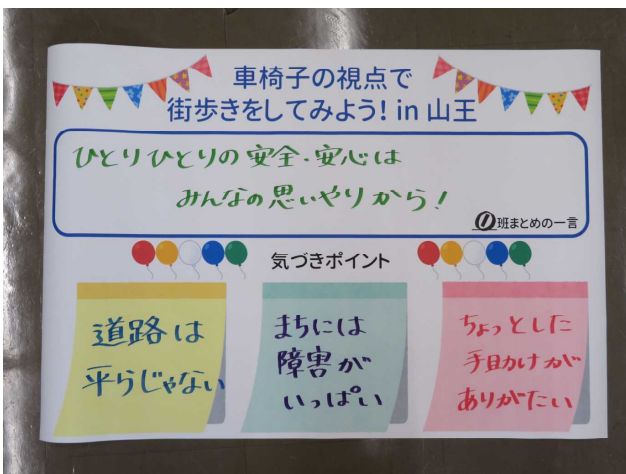
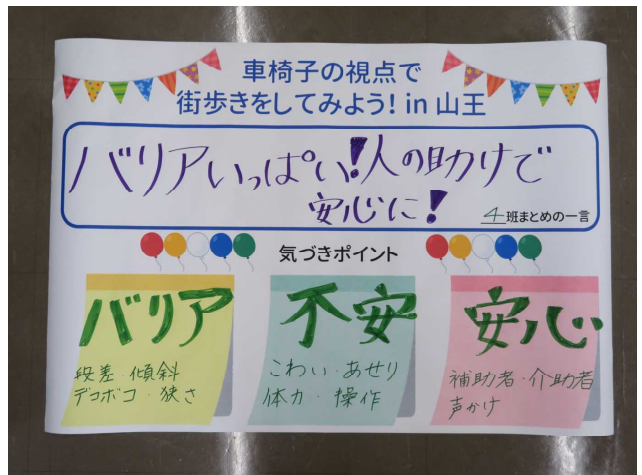
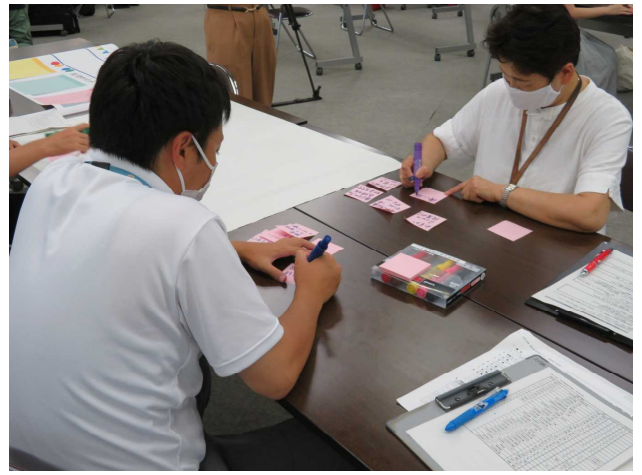
午後は、4班に分かれて「車椅子での街歩き体験」を行いました。各班には「ビンゴミッション」カードが配付され、『全員1回車椅子で1分以上自走する』『車椅子でお店に入って買い物をする』などのミッションをクリアしながら、車椅子での街歩きを体験することとなりました。実際に車椅子で街歩きをしてみると、「2cm程度の段差を乗り越えるのも危険」「側溝の蓋の溝に車輪がはまって動けない」「スロープは上るのも降りるのも大変」など、それまで想像したことのない困難さが街中にあふれていることを実体験することができました。

街歩き終了後、各班に分かれ、街歩きを通して気付いたことを話し合いました。それをまとめ、発表を行い、理解を深めて研修は終了しました。



【参加者の声】（抜粋）

- ・車椅子の大変さ、バリアの障害を身をもって感じる事ができた。実際に感じる事の重要性が理解できた。
- ・普段の業務では経験できない内容であった。行政として何ができるか、するべきかを考えるきっかけとなった。
- ・県内の実態や企画の実際、体験も交えてとても濃い内容でした。障がいの有無に関係なく「誰でも参加できる」「誰でも行ける」ことを意識して、仕事に取り組みたいと思った。



市町村職員専門研修②(兼)公民館等職員専門研修② 実施レポート

実施日：令和2年10月7日(水) 10時～16時 会場：県生涯学習センター 参加者：35名

行政職員や公民館等職員の知識や技術の向上を図るため、「市町村職員専門研修(兼)公民館等職員専門研修」を実施しました。合同開催となった今回の研修のテーマは、『障害者の生涯学習×公民館の防災』です。

【講義】「避難所設営体験」・「障害者の視点による街歩き」実施報告

当センターの進藤 尊信社会教育主事が、公民館等職員専門研修①で実施した「避難所設営体験」と、市町村職員専門研修①で実施した「障害者の視点による街歩き」の概略を説明しました。今回の研修は市町村職員専門研修と公民館等職員専門研修とを兼ねており、午後の講義・演習・熟議で「障害者の生涯学習×公民館の防災」について学び、議論を行う際のレディネスを揃えることを目的として行われました。

【講義】障害者の生涯学習×公民館の防災

午後は最初に、日本赤十字秋田短期大学講師の及川 真一先生が、「なぜ『障害者の生涯学習×公民館の防災』が必要なのか」のタイトルで講義を行いました。及川先生は、『被災者』として一括されやすいが、性別、性別自認、年齢、障害の有無、国籍や母語の違い、家族構成や就労状況によって必要とされる支援が異なること、避難所の運営には段階的かつ確実に「質の向上」を目指さなければならないことなどを、自身の被災体験や他地域での被災者支援等の具体的な経験を交えてお話してくださいました。また、防災に関わる手話・指文字や多様性、「公平」と「平等」の違いなど、障害者と防災に関係するトピックスについても教えてくださいました。



指文字を勉強中

【演習】本格手洗い

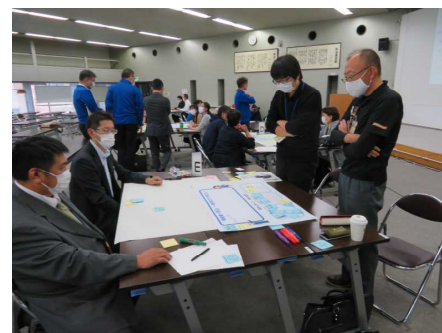
続いて、及川 真一先生の指導のもと、「すべての基本 感染防止・本格手洗いのススメ」のテーマで、手洗いの重要性を学びました。手洗いチェッカーとブラックライトを利用し、どのように手洗いを行えば手の汚れを落とすことができるのかを実体験しました。手洗いチェッカーを手に塗ったあと、及川先生の「いつものやり方で手を洗ってきてください」との指示を受け、参加者は手を洗いました。しかしブラックライトで照らすと手洗いチェッカーは全く取り除けておらず、皆大変驚きました。この手に付着していたものが新型コロナウイルスだったとしたら、知らないうちに感染し、感染を拡げている可能性がある…実感をもって知ることができました。



いつものやり方では汚れが落ちない…

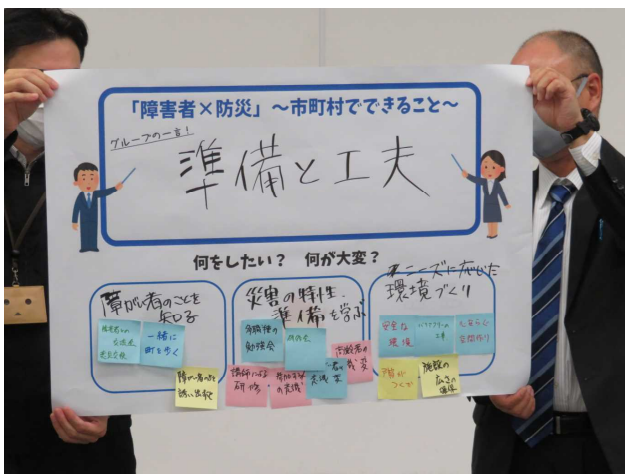
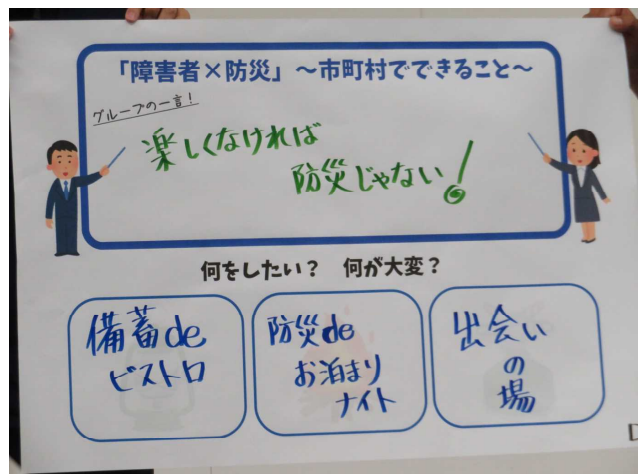
【熟議】障害者×防災

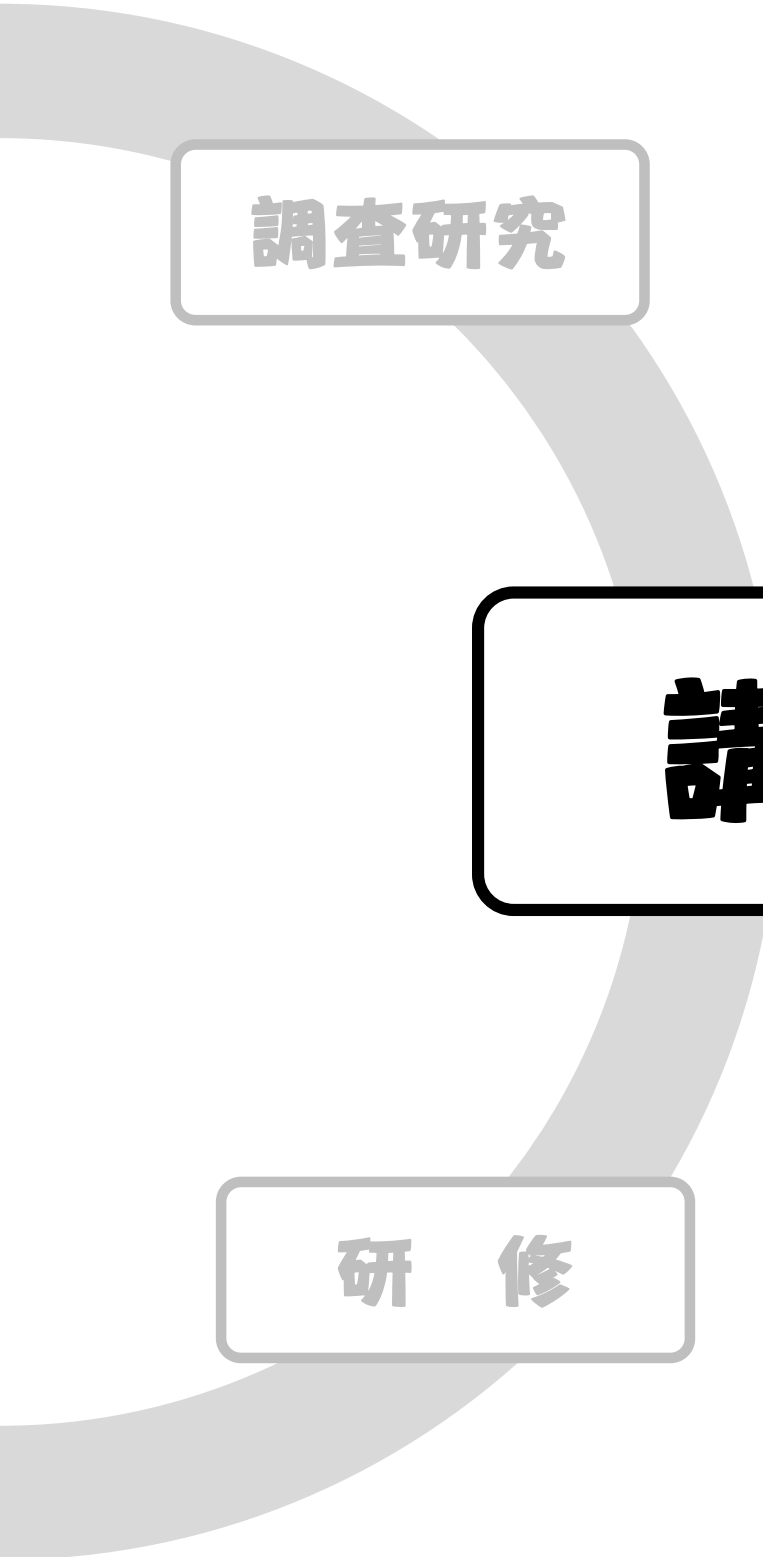
最後に、及川 真一先生と当センターの柏木 睦主任社会教育主事による、『障害者×防災』～市町村でできること～」をテーマとした熟議が行われました。話し合いの中で、「障害者のニーズに応じた環境づくり」の必要性や、「市町村対抗手洗いオリンピック」、「福祉施設・学校との合同避難訓練」の実施、「備蓄deビストロ」(期限切れが近くなった備蓄食材を利用した料理コンテスト)や「防災deお泊まりナイト」など、障害者と防災とを結びつける、市町村が取り組んで行けそうな様々な意見が出されました。



【参加者の声】(抜粋)

- ・発想の転換：マイナスイメージ濃い「避難」を「楽しいサバイバル」に置き換えられる。一般住民にも普及させたい。事業としてプログラムしたい。
- ・資料での障害者防災は知っていたつもりだが、現実には災害が起こったら…ということを知ることができた。
- ・車いすの利用、ビデオ視聴をして、障害理解ができた参加者が多い研修と思いました。参加者が勤務地に戻り、障害者の方々へ自分が何ができるか考える機会になればよいと思います。





調查研究

講座

研修

楽しみながら『防災』を考えよう！～障害のある方のための防災スキル～

第1回 「いのちを自分で守る～自助～」 ～身近にできる防災対策～

日時：令和2年7月25日（土） 10時～11時30分

会場：秋田県生涯学習センター 3階 講堂 参加者：14名

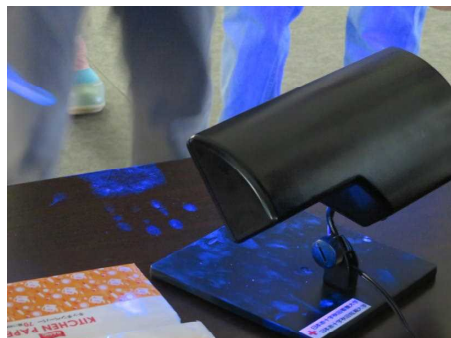
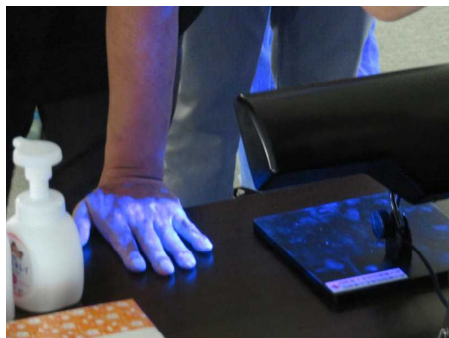
この講座は、障害のある方が楽しみながら『防災』を考え、日常生活や災害時に役立つスキルを身に付けることができる4回シリーズの講座です。講師は、日本赤十字秋田短期大学の及川真一氏です。1回目は、「自助」について学びました。

【防災を学ぶ×楽しい】

「防災はこわいもの、暗いもの」という印象をもつ人も多いですが、講師の及川先生は、「楽しく学べる防災教育」に取り組んでいます。災害の記憶は時間が経つにつれ薄れていきます。防災を日常にするためには、防災を学ぶことを「難しさ」から「楽しさ」に変換することが大切であり、この講座ではそのスキルを学んでいくことを確認しました。

【チェックしてみよう！自分の手洗い】

防災を学ぶ究極の目的は「自分の命は自分で守る」ということです。それは、このコロナが流行している今こそ大事なことです。そこで、まずは、自分の手洗いをチェックしてみました。ブラックライトに反応する塗料をコロナウイルスに見立て、普段の手洗いでどのくらい落ちているかを見てみました。結果は、洗っていないのでは…と思うくらい落ちていませんでした。テーブルの上やドアノブ、顔や鼻など、触ったところに塗料が付いているのを見て、普段は気付かないけれども、実際はウイルスが付着しているかもしれないことをみんなが納得しました。及川先生に正しい手洗いの仕方、アルコール消毒の仕方を教えてもらい、塗料が見えなくなるまで頑張って手洗いをしました。



＜落ちてない！服にもついている！ 食事の前の手洗いの大切さを痛感した手洗いの演習＞

【防災を日常に！キャンプグッズを見てみよう！】

防災を日常にするためには、キャンプの経験が有効になります。キャンプは、電気がなかったり、家がなかったりするところでは快適に過ごすかを考えます。キャンプグッズがあれば、災害時にも役に立ちます。及川先生が使っている道具を見せてもらいました。ソーラーパネルや充電器、浄水器、初めて見る様々な道具に、みんな興味津々でした。



＜どうやって使うの？どこに売っているの？たくさんの質問が出ました＞

【参加者の声】（抜粋）

- ・すごく楽しかったです。楽しんで毎日やっていく事の大切さが分かって良かったです。
- ・防災のことをもっと知りたいです。
- ・実体験大事だ！

楽しみながら『防災』を考えよう！～障害のある方のための防災スキル～

第2回 「東日本大震災・熊本地震から学ぶ～共助・共同～」 ～避難所の実態と課題～

日時：令和2年8月22日（土） 10時～11時30分

会場：秋田県生涯学習センター 3階 講堂 参加者：13名

この講座は、障害のある方が楽しみながら『防災』を考え、日常生活や災害時に役立つスキルを身に付けることができる4回シリーズの講座です。講師は、日本赤十字秋田短期大学の及川真一氏です。2回目は、「共助・共同」について学びました。

【あなたは どうしますか？】

気温が低い日に、バス停で防寒具がない子どもが寒そうにしていたら、という実験動画を見ました。自分が寒い思いをしていると、なかなか他の人に服を貸すことはできません。見て見ぬふりをする人、励ます人、自分が寒い思いをしても服を貸す人などさまざまでした。

もし避難所で携帯電話の充電が少なくなって困っている人を見たらどうするでしょうか。自分の携帯電話の充電が不十分であれば、なかなか助けることができません。困った人を助けてあげましようとはよく聞く言葉ですが、「共助・共同」は「自助」の力が高まっていないと機能しません。障害の有無にかかわらず、自分ができることや知識をしっかりと増やしていく「自助」の大切さを参加者は感じていました。



<自分ならどうするかな…？>

【A4クリアファイルでフェイスシールドを作ってみよう！】

コロナ禍でフェイスシールドが必要な場面が増えましたが、持っている人は少ないかと思えます。そこで、身近なA4クリアファイルを使って作ってみました。

災害が起こってから、あれを準備しておけばよかったということはよくありますが、「ないからできない」ではなく、「あるもので何とかできないか」に発想を転換させることが大切であることを体感しました。



<思ったより簡単にできた～！>

【語り合うことも防災 3がつ11にちをふりかえる】

東日本大震災が発生した3月11日、何をしていたかをグループに分かれて語り合いました。一度語り出すとなかなか止まらず、各自がそれぞれの場所でいろいろなことを感じていたことがよく分かりました。日常を過ごす中で、非日常体験は忘れがちになりますが、時々語り合うことで、その時のことを鮮明に思い出すことができます。「あの時は…」とちょっと話すだけでも防災になるので、家族や友人、職場の人たちなど、いろいろな人と語り合ってほしいと思います。

その後、及川氏から東日本大震災や熊本地震の様子を写真で見せてもらいました。普段の備え「自助」がいかに大切であるかを考えさせられました。参加者からは「水をストックしなくなったな。今日、買って帰ろう」という声も聞かれました。



【参加者の声】（抜粋）

- ・フェイスシールドの作り方が分かった。
- ・テレビなどでは知ることができない情報を知ることができました。
- ・実体験をもとにしたお話なので、とても分かりやすく共感できます。

楽しみながら『防災』を考えよう！～障害のある方のための防災スキル～

第3回 「新たな防災教育～アウトドアと防災～」 ～防災を学ぶって楽しい～

日時：令和2年9月19日（土） 10時～11時30分

会場：秋田県生涯学習センター 3階 講堂 参加者：10名

この講座は、障害のある方が楽しみながら『防災』を考え、日常生活や災害時に役立つスキルを身に付けることができる4回シリーズの講座です。講師は、日本赤十字秋田短期大学の及川真一氏です。3回目は、「アウトドアと防災」について楽しく学びました。

【防災でふわとろオムライス？】

いつ起こるかわからない自然災害。電気やガスなどが急に使えなくなってしまった時に役立つのがアウトドア用品と野外活動の経験です。非日常をどのように乗り切るかが防災、非日常をどれだけ楽しむのかがキャンプなので、実は防災とキャンプは相性がいいんです。テントを張る、電気やガスがない状態でご飯を作るなどのアウトドアの経験は、災害時にも役立ちます。

今日、チャレンジするのは「ふわとろオムライス」。防災講座らしからぬメニューやインスタ映えしそうな材料に驚いていましたが、みんな楽しく準備を始めました。



【メスティンでほったらかし炊飯、でも風が…】

今回炊飯に使用したのが、アルミ飯ごうの「メスティン」です。メスティンはアルミなので熱伝導率が高く、固形燃料などの比較的弱い熱源でも簡単に調理することができます。固形燃料は大体20分程度燃えるので、通常であれば火をつけてほったらかしにしておくと炊き上がるのですが、この日は風が強く、なかなかメスティンに火があたりずに苦戦しました。風のあたりにくい場所や近くにある風をさえぎる物を探すなど、風が強いからできないではなく、風が強い中でどうするかをみんなが考えました。



＜固形燃料に火をつけて、消えるまで待てばいいのですが、この日は風が強く、いろいろな工夫が必要でした＞

【おいしく出来た！楽しい！】

ご飯が炊けたら卵を加え、新聞紙でくるんで10分間蒸らしました。ドキドキしながら蓋を開けましたが、無事にふわとろオムライスが完成していました。簡単に短時間でこれだけの食事が作れることに驚いていました。

ご飯を食べながら、「メスティンや固形燃料をどうやったら入手できますか？」「メスティンの他のレシピは？」など、たくさんの質問が出ました。「防災は怖いもの、暗いもの」という認識をもつ人も多いのですが、この講座を通して参加者は「防災を学ぶって楽しい」と感じたようでした。



【参加者の声】（抜粋）

- ・すごく楽しかったです！おいしいオムライスできました！
- ・本当に楽しい講座でした。風のある中での非常食作りは勉強になりました。
- ・体験することで生きることに目標がもて、未来が見えてきます。

楽しみながら『防災』を考えよう！～障害のある方のための防災スキル～

第4回 「みんなで避難所を設置しよう！」 ～短時間でプライベート空間を確保する～

日時：令和2年10月24日（土） 10時～11時30分

会場：秋田県生涯学習センター 3階 講堂 参加者：25名

この講座は、障害のある方が楽しみながら『防災』を考え、日常生活や災害時に役立つスキルを身に付けることができる4回シリーズの講座です。講師は、日本赤十字秋田短期大学の及川真一氏です。最後となる4回目は、これまで身に付けたスキルを活用し、障害のない方と一緒に避難所の設置をしました。

【お湯だけで50人分のご飯を炊き出し】

最初に体験したのが、避難所での炊き出しです。今回は、お湯や水を注ぐだけで50人分のご飯ができるアルファ化米を使いました。

箱の中に大きなしゃもじ、取り分け用の容器、ふりかけ等が全てセットとして入っていることにみんな驚いていました。

今回はお湯を使ったので、15分で50人分のご飯が完成しました。



【障害のある方もない方も一緒に協力してテントを設営】

次にテントを設営しました。ドーム型テントを使えば、短時間でプライベート空間を確保することができます。テント設営は初めてという人も多かったのですが、5分ほどで全員完成させることができました。

テントを使うことにより、仕切りがしっかりできること、視線が遮られるのでリラックスできることなどの効果があります。

さらに、簡易ベットを組み立ててテントの中に入れました。地面からの冷気を防いだり、地面から距離があることでウィルスなどの感染症を防いだりする効果があります。プライベート空間をしっかりと確保することは、コロナウイルス対策でも有効です。これだけのことが短時間でできる上、避難所全体のレイアウトを考えながらの移動も簡単ということもあり、自分でもテントとベットはあってもいいと話す人がたくさんいました。



【自分にできることって何だろう】

最後に、「災害が起きた！その時に自分ができることは」のテーマで話合いました。この講座を通し、まずは自分ができていることを増やす「自助」の大切さを感じている参加者が多く、「～を準備しておきたい」「～したい」などの前向きな意見が聞かれました。

普段から自分に何ができて何はできないかを知り、できることを増やしていくことが大切ですが、災害に対する備えは1回やれば終わりというものではありません。これからも防災を「楽しく」学び続けていってほしいと思います。



【参加者の声】（抜粋）

- ・テント設営楽しかったです。難しそうだったけど、やってみたら意外と簡単だった。
- ・最初は難しかったけれど、体験を通して学ぶことができた。
- ・楽しく講座を受けることができありがとうございました。自分でできることを実践したいと思います。
- ・障害のある方が避難所で地域のために役立てるよう体験を積み重ねていきたいです。

第1回「ブルーS3」杯 ボッチャ交流大会 実施レポート

日時：令和2年12月6日（日） 9時～12時40分
会場：秋田県生涯学習センター 障害者スポーツスペース

参加者：42名

共生社会の実現に向け、「障害者の生涯学習」の充実のためにさまざまな取組をしている秋田県生涯学習センターの学習活動の趣旨に賛同し、県内企業10社が「ブルーS3（ブルースルー）」という団体を設立しました。その協力を得て、ボッチャ交流大会を開催しました。

【開会式】

秋田県生涯学習センターの中2階にある障害者スポーツスペースの利用者を中心に参加者を募ったところ、次の6チームが参加してくれました。

- ①「ボッチャ協会」～当センター主催の講座への協力者
- ②「ハッピー」～秋田大学附属特別支援学校中学部チーム
- ③「一羊会」～おいしいパンを販売している社会福祉法人
- ④「シクラメン」～当センター主催の講座への協力者
- ⑤「Nexus」～秋田大学附属特別支援学校OBチーム
- ⑥「Fire throw」～若年層のボッチャクラブチーム

鈴木所長のあいさつに続き、協賛団体からの賞品紹介、ルール説明をしました。今大会は、2つのグループに分かれてリーグ戦を行い、その順位に応じて順位決定戦を行うこと、1試合4エンドで座位も立位も関係なく試合を実施することを確認しました。3階に控え所を設置し、試合の様子はZoomを使って生中継することも連絡しました。



【試合開始！熱戦に次ぐ熱戦】

早速試合が開始されました。どんどん試合が進んでいくと思われましたが、スーパーショットの連発で、どよめきが起こったり、メジャーが必要なほどきわどい勝負になったりするなど、熱戦に次ぐ熱戦で、予定よりも大幅に時間がかかりました。控え所ではその熱戦を生中継で見ることができるので、次の試合への移行はスムーズに行われました。

リーグ戦後の順位決定戦はさらに熾烈な争いになりました。特に1・2位決定戦の「ボッチャ協会」対「Fire throw」は手に汗を握る大接戦になりましたが、「Fire throw」が勝利を収めました。



【閉会式】

結果は右の対戦表のとおりです。結果発表に続き、優勝チーム、準優勝チームにはトロフィーと賞品が授与されました。3～6位のチームにも賞品が贈られました。

【おわりに】

参加チームへのトロフィー、賞品、手指消毒用のディスペンサーなど、協賛団体の皆様のおかげで充実した大会となりました。ご協力いただき本当にありがとうございました。

この大会は交流が目的であります。今大会は初めてということもあり、当センターに関わりのある方々にお声がけしました。6チームが参加し、3試合ずつ実施することができましたが、予定したよりも時間がかかりました。参加できるチームを増やしながらかつ充実した大会になるような工夫を考え、第2回も企画したいと思います。

第1回ブルーS3杯ボッチャ交流大会

R2.12.6

A	ボッチャ協会	ハッピー	一羊会	勝敗	得点	総得点	順位
ボッチャ協会	○	○	○	2-0	15	4	1
ハッピー	X	○	X	0-2	4	12	3
一羊会	X	○	○	1-1	6	9	2

B	シクラメン	Nexus	Fire Throw	勝敗	得点	総得点	順位
シクラメン	○	X	○	1-1	6	13	3
Nexus	X	○	X	0-2	2	11	3
Fire Throw	○	○	○	2-0	17	1	優勝

試合順	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
予選リーグ	ボッチャ協会	対	ハッピー	ハッピー	対	一羊会	一羊会	対	シクラメン	シクラメン
順位決定戦	ハッピー	対	一羊会	一羊会	対	ボッチャ協会	ボッチャ協会	対	シクラメン	シクラメン
	ハッピー	対	一羊会	一羊会	対	ボッチャ協会	ボッチャ協会	対	シクラメン	シクラメン
	ハッピー	対	一羊会	一羊会	対	ボッチャ協会	ボッチャ協会	対	シクラメン	シクラメン
	ハッピー	対	一羊会	一羊会	対	ボッチャ協会	ボッチャ協会	対	シクラメン	シクラメン
	ハッピー	対	一羊会	一羊会	対	ボッチャ協会	ボッチャ協会	対	シクラメン	シクラメン
	ハッピー	対	一羊会	一羊会	対	ボッチャ協会	ボッチャ協会	対	シクラメン	シクラメン
	ハッピー	対	一羊会	一羊会	対	ボッチャ協会	ボッチャ協会	対	シクラメン	シクラメン
	ハッピー	対	一羊会	一羊会	対	ボッチャ協会	ボッチャ協会	対	シクラメン	シクラメン
	ハッピー	対	一羊会	一羊会	対	ボッチャ協会	ボッチャ協会	対	シクラメン	シクラメン

第1回「ブルーS3（ブルースリー）」杯 ボッチャ交流大会

<協賛企業>

団体名：ブルーS3（ブルースリー）



Santé et Beauté



株式会社 サンエスコムニティ



研究を振り返って

本調査研究では、共生社会の実現という大きな一歩のために、障害のある方やその家族、身近な方々との日々の交流を通して得た情報を生かしたいと考えております。共生社会の実現は、永遠の課題かと思われませんが、漸進的にでも小さな一歩として貢献することが当センターの役割であると思います。

今年度は、特別支援学校、就業・生活支援センター等のヒアリングを実施して、その声に傾聴し、資料にも掲載させていただきました。この場をお借りして、貴重なご意見・ご感想等の提供にご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。そして、来年度は障害のある方ご本人へのヒアリングを実施したいと考えておりますので、この後にご協力をよろしくお願いいたします。

さて、今年度開所 40 周年を迎えた当センターが、障害者に関係する取組や活動、交流をなぜするに至ったかと言いますと、センター運営の 3 機能(シンクタンク、研修、学習機会)の有機的な連携を目指す中で、当事者として経験・実践する重要性を認識することができ、それが不可欠なものと判断したからです。そして、調査研究だけでなく、次のような実践を通じながら、「障害者の生涯学習」について理解や体験、交流等を深めてまいりました。

- ・ボッチャお披露目会
- ・ブルー S 3 (協賛企業 10 社) の支援及びブルー S 3 杯ボッチャ交流大会
- ・障害者×防災 (あきたスマートカレッジ K 講座)
- ・市町村等職員専門研修① (車椅子で街歩き)・秋大附属特別支援学校展示
- ・市町村等職員専門研修② (兼) 公民館等職員専門研修② (障害者×防災)
- ・からくりカフェ (北秋田市・「ささえ」) への参画
- ・稲川支援学校青年学級 inTABIJI におけるボッチャ指導・交流
- ・家庭教育支援指導者等研修「特別支援教育の視点から考える家庭教育支援」
- ・障害者スポーツスペースの活用によるボッチャ、卓球バレー、バドミントン
- ・特別支援学校との連携による各種事業の企画・運営
- ・社会福祉法人経営の食パン店の出前販売 等

また、先月上旬に第 3 回調査研究委員会を開催し、そこで各委員のご意見やご感想から次の課題が見えてきました。

- ・地域別の障害者の生涯学習に対する意識・態度の格差
- ・学校から卒業するまでに趣味や余暇の過ごし方、人生の楽しみ方を味わわせる体験と人脈の構築に重点を置くカリキュラムの作成
- ・学校卒業後の家庭以外の居場所の作り方
- ・生涯学習に関する情報の有機的な活用方法
- ・家庭・職場以外の居場所までの移動方法
- ・調査データの分析における根拠の重要性
- ・調査データから相関性を見出し、様々なスタイルやパターンを読み取る工夫

これらの解決には、即効性のあるものは何一つなく、今後取り組むべき宿題として常に問題意識をもって少しずつ現状の改善を図ることが必要だと思えます。

翻って、昭和 54 年に出版された『秋田の生涯教育』(小畑勇二郎著)には、東北大学教授塚本哲人氏の「人生を見通した学校は、どうあればよいのか。」「最後に、生涯教育センター(現生涯学習センター)。どこが他の施設と違うかが見物ですが、調査研究、情報の収集提供機能を中心に据えたいですね。学校教育をも含まなければ意味がないこともつけ加えましょう。」という記述があります。私たちは、「障害者の生涯学習」を取り巻く課題に対して、不易流行の精神をもって挑み続けてまいりたいと思えます。

最後に、同著より小畑氏の言葉をお借りして、結びとします。

「心の豊かな人とは、人生への充実感を持った人ではなかろうかと、私は思う。本当に満足できる何かを求めて生きている人の心は豊かである。」

本調査研究が障害のある方の心を豊かにする契機となれば幸いです。

令和 3 年 3 月

秋田県生涯学習センター
副所長 倉 田 寛 行

調査研究事業テーマ一覧

年 度	テ ー マ
昭和55年度	「生涯教育に関する県民の意識と活動の実態調査」(1回目)
昭和56年度	I「学習相談システム開発に関する実証的研究」 II「企業における教育・訓練等の実態調査」 III「学社連携による教育活動調査研究」 IV「視聴覚教材を利用した学習方法の開発・普及を図るための研究」
昭和57年度	I「幼児教育充実についての調査研究」 II「学校教育と社会教育の連携のあり方についての調査研究」 III「生涯教育関連団体の連携による地域学習の推進についての調査研究」 IV「学習情報ネットワークの確立を目指した情報提供システムの整備に関する研究」 V「企業に働く人々の生涯学習に関する調査」 VI「『教育人材銀行』の在り方についての調査研究」
昭和58年度	「高齢化社会における成人の学習環境整備に関する調査研究」
昭和59年度	「生涯教育関連施設・設備に関する調査」
昭和60年度	「青年の意識と行動に関する調査」
昭和61年度	「家庭教育に関する親の意識調査」
昭和62年度	「家庭・学校・地域の連携に関する調査」
昭和63年度	「生涯学習に関する県民の意識と活動の実態調査」(2回目)
平成元年度	「働く婦人の生活と学習意識調査」
平成2年度	「市町村における生涯学習に関する事業の実態調査」
平成3年度	「生涯学習情報提供に関する調査研究」
平成4年度	I「地域づくりのための学習プログラムに関する調査研究」 II「生涯学習情報提供システム構築に関する調査研究」
平成5年度	「市町村における生涯学習を進めている団体、グループ・サークルに関する調査」
平成6年度	「地域における生涯大学システムに関する研究開発」(1年次)
平成7年度	I「学校・教職員の生涯学習についての調査研究」 II「地域における生涯大学システムに関する研究開発」(2年次) 学習意識調査部会「生涯学習に関する県民の意識と活動の実態調査」(3回目)
平成8年度	I「秋田県生涯学習奨励員活動に関する調査研究」 II「地域における生涯大学システムに関する研究開発」(3年次)
平成9年度	「体系的で総合的な県民学習システムのあり方に関する調査研究」
平成10年度	「子どもの生きる力を育むための家庭教育と地域の支援体制に関する調査研究」
平成11年度	「子どもの生きる力を育む地域活動に関する調査研究 ～地域行事・地域活動への児童生徒・保護者の関わり方に関する実態調査～」
平成12年度	「学習者の学習活動および社会参加活動に関する調査研究 ～主として、『あきた県民カレッジ』講座受講者を対象として～」
平成13年度	「県民の社会参加活動の活性化を図る学習プログラム開発に関する調査研究」
平成14年度	「生涯学習に関する県民の意識と活動の実態調査」(4回目)
平成15年度	「大学等高等教育機関との連携協力による、現代的課題に対応した学習プログラム開発に関する研究」
平成16年度	「今後における秋田県生涯学習センターのあり方に関する調査研究」(1年次)
平成17年度	「今後における秋田県生涯学習センターのあり方に関する調査研究」(2年次)
平成18年度	「秋田県における新しいあきた県民カレッジの在り方に関する調査研究」
平成19年度	「生涯学習ボランティアの在り方に関する調査研究 ～住民主体による生涯学習社会を目指して～」(1年次)
平成20年度	「生涯学習ボランティアの在り方に関する調査研究 ～住民主体による生涯学習社会を目指して～」(2年次)
平成21年度	「地域ボランティア活動支援センターの在り方に関する調査研究」
平成22年度	「秋田県社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」 (文部科学省との委託共同研究)
平成23年度	「チョコボラ・プロジェクト～『公民館』の活性化による知の循環型社会の構築～」
平成24年度	「地域の教育力を活用した公民館運営とその在り方に関する調査研究 ～知と行動が結びついたクリエイティブな循環型社会の構築を目指して～」
平成25年度	「知と行動が結びついた循環型社会構築に向けた公民館事業及び運営の在り方に関する調査研究」(1年次) (文部科学省委託事業「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」)
平成26年度	「知と行動が結びついた循環型社会構築に向けた公民館事業及び運営の在り方に関する調査研究」(2年次) (文部科学省委託事業「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」)
平成27年度	「知と行動が結びついた循環型社会構築に向けた公民館事業及び運営の在り方に関する調査研究」(3年次)
平成28年度	「連携・協働による地域活性化事例に関する調査研究」(1年次)
平成29年度	「連携・協働による地域活性化事例に関する調査研究」(2年次)
平成30年度	「連携・協働による地域活性化事例に関する調査研究」(3年次)
令和元年度	「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査(概要版)
令和2年度	「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査～特別支援学校生徒の保護者アンケート結果による一考察～

調査研究委員

委員長	鈴木 修 一	県生涯学習センター所長
副委員長	原 義 彦	秋田大学大学院教育学研究科教授
委員	成 田 友加子	北秋田市障害者生活支援センターささえ相談支援専門員
委員	吉 田 かおり	前秋田県特別支援学校PTA連合会会長
委員	佐々木 朋 広	県教育庁特別支援教育課主任指導主事
委員	小 川 成 樹	県教育庁生涯学習課社会教育主事

事務局

事務局長	倉 田 寛 行	県生涯学習センター副所長
事務局員	皆 川 雅 仁	県生涯学習センター主幹（兼）学習事業班長
事務局員	菅 原 大 志	県生涯学習センター副主幹（兼）総務班長
事務局員	柏 木 睦	県生涯学習センター主任社会教育主事
事務局員	長谷川 工	県生涯学習センター主任社会教育主事
事務局員	菊 地 智	県生涯学習センター社会教育主事
事務局員	進 藤 尊 信	県生涯学習センター社会教育主事
事務局員	佐 藤 真	県生涯学習センター社会教育主事
事務局員	羽 川 尚	県生涯学習センター社会教育主事補
事務局員	栗 田 寿	県生涯学習センター社会教育主事補
事務局員	加賀谷 宗 篤	県生涯学習センター社会教育アドバイザー
事務局員	渡 部 猛	県生涯学習センター研修員
事務局員	鈴 木 希 子	県生涯学習センター事務補助員

令和２年度

「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査 ～特別支援学校生徒の保護者アンケート結果による一考察～

調査研究報告書

編集・発行 秋田県生涯学習センター
〒010-0955 秋田県秋田市山王中島町１－１
TEL 018-865-1171 FAX 018-824-1799
E-mail sgcen002@mail2.pref.akita.jp
<https://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>



発行日 令和３年３月１５日